

| | | | |
|---------|---------------------------|---------|---------|
| 科目名 | 児童学概論 | | |
| 担当教員名 | 曾野 麻紀、山田 陽子、長田 瑞恵、鈴木 晴子 他 | | |
| ナンバリング | EAa0001 | | |
| 学 科 | 教育人文学部（E）- 幼児教育学科 | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択, 必修* |
| 授 業 形 態 | 講義 | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は幼児教育学科の学科専門科目であり、幼児教育学科の学位授与方針1.2.3に該当する。

入学後最初に学修する基礎科目であり、これから4年間の幼児教育学科での学習領域を概観する内容となっている。学科専任教員それぞれの専門領域や研究内容を知ることを通して、幼児教育学科専門科目への学びに結び付けていく。

科目の概要

児童学への入り口となるオムニバス形式の科目である。本年度は『子どもの世界』というテーマのもとに、本学幼児教育学科専任教員が各自の専門的観点から『子どもの世界』について講義し、学びの対象となる子どもへの興味関心を喚起する。

授業の方法（ALを含む）

幼児教育の学科専任教員ほぼ全員が担当、それぞれの専門分野からテーマ『子どもの世界』に沿って子どもをどのようにとらえるかについて講義する。

到達目標

1. 一般的な「子ども」のイメージを広げ、多面的に子どもについて探求することができる。
2. 「子ども」という窓を通して、世の中の枠組み、身の周りの人間関係・出来事について考えることができる。
3. 授業への参加、課題への取り組み、講義ノートの作成などを通して、大学で講義を受けるための基本的スキルを身に付ける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2 保育理論の理解
- 1 子どもから学び、子どもと共に育つ姿勢
- 3 社会的事象への関心

内容

| | |
|---|---------------------|
| 1 | 曾野：ガイダンス |
| 2 | 近藤：「遊び」から見る子どもの世界 |
| 3 | 横井：子どもの環境としての「遊び空間」 |
| 4 | 長田：子どもの心から見た世界 |
| 5 | 大宮：子どもとメディアの関わり |
| 6 | 山田：遊びから見えてくる子どもの世界 |
| 7 | 潮谷：子どもの生活に関わる環境と支援 |

| | |
|----|-------------------------|
| 8 | 鈴木（晴）：絵本を楽しむ子どもの世界 |
| 9 | 渡邊：「身体表現」から見る子どもの世界 |
| 10 | 二宮：子どもが歌うということ |
| 11 | 藪崎：子どもを取り巻く「音環境」について考える |
| 12 | 名達：造形活動から見る子どもの世界 |
| 13 | 鈴木（康）：子どもの身体活動と社会 |
| 14 | 権：発達障害を持つ子どもの面白い世界 |
| 15 | 曾野：まとめ |

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】日常生活の中で子どもの姿を観察する。仲間と観察で感じたことを話し合い、体験を共有する（各授業60分程度）

【事後学修】授業ノートの整理を行い、読み返して理解を深める。それぞれの専門性についてノートにまとめる。（各授業60分程度）

評価方法および評価の基準

授業への参加度（50％）、試験（50％）とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

到達目標 1．授業への参加度（10/50） 試験（20/50）

到達目標 2．授業への参加度（10/50） 試験（20/50）

到達目標 3．授業への参加度（30/50） 試験（10/50）

【フィードバック】必要に応じて課題を返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】

各担当教員が講義の中で、参考図書の紹介や資料の配布を行う予定。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

幼児教育学科専任教員ほぼ全員の講義が受けられる貴重な科目です。欠席をしないように。大学で学ぶとはどういうことかを知り、視野を広げ、興味や関心をより深めてください。

| | | | |
|---------|-----------------------------|---------|-----|
| 科目名 | 児童学演習 | | |
| 担当教員名 | 近藤 有紀子、上垣内 伸子、横井 紘子、大宮 明子 他 | | |
| ナンバリング | EAa1001 | | |
| 学 科 | 教育人文学部（E）-幼児教育学科 | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | |
| 開 講 期 | 通年 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | 演習 | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

実務経験の有無

「有」

実務経験および科目との関連性

幼稚園教諭として、幼稚園において保育に携わった経験を持つ教員らが担当し、保育所、幼稚園での実習を通して、保育者として必要な知識・技能の修得において実践を活かした指導をする。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は卒業必修科目であり、専門科目の領域は「基礎」である。

実習を通じ、乳幼児との関わりを持ちながら学習を進める。実習という体験学習を通して、自ら関わり子どもから学ぶ姿勢を確立する。更に、本学が立地する埼玉県新座市について学ぶ機会とする。

科目の概要

本学が立地する新座市において、子どもが育つ保育所、幼稚園に実習として出向き、現代社会での保育・育児及び子どもの生活の実態を知り、地域においても学修する。実習の事前・事後指導において、他の専門科目を通じた学び等を踏まえ、保育に関する現代的課題についても探求する。自ら関わりつつ子どもから学ぶ姿勢を獲得し、保育者として必要な知識・技能を取得しつつ、今後の実習へつなげる。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、保育所、幼稚園への実習を中心に行う。実習の事前・事後指導においては、グループによる話し合い、発表を取り入れた授業を行う。【グループワーク】【プレゼンテーション】

到達目標

1. 実習を通して、子ども理解の基礎を理解することができる。
2. 保育に関する基礎的な現代的課題、地域社会についての考察、検討することができる。
3. 実習の事前・事後指導を通して、主体的に課題に取り組み、子どもから学ぶ姿勢を体得することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 子どもの人権尊重 -4 保育者としての感性 -1 子どもから学び、子どもとともに育つ姿勢

内容

新座市内および周辺地域の保育の場へ赴き、実習という体験学習をする。具体的には、就学前の主な保育の場である幼稚

園および保育所で実習を行う。

実習の前後には、事前学習、事後の話し合いや報告発表の時間を持ち、子どもと子育てを取り巻く社会状況の理解および子ども理解を深める一助とする。さらに、実習の事前・事後学習を通して、課題等を見だし、解決する過程や解決内容について再検討する手法を習得する。

主な実習先は、保育所、幼稚園である。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】「実習の手引き」を読んでおく。授業資料は、Live Campusで事前にWEB-UPするので基本事項を確認しておく。実習後の振り返りで仲間の記録を読む。これらを1時間程度行う。

【事後学修】授業資料は繰り返し読み、把握、理解する。実習、振り返りで得た学びを整理し、課題を明確にする。これらを1時間程度行う。

評価方法および評価の基準

授業及び実習・話し合いへの参加（50%）、実習記録の期日内提出と、その内容および授業課題への取り組み（50%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標（1）授業及び実習・話し合いへの参加（20%/50%）実習記録の提出・授業課題の取り組み（10%/50%）

到達目標（2）授業及び実習・話し合いへの参加（20%/50%）実習記録の提出・授業課題の取り組み（20%/50%）

到達目標（3）授業及び実習・話し合いへの参加（10%/50%）実習記録の提出・授業課題の取り組み（20%/50%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

大豆生田啓友・三谷大紀編「最新保育資料」（2020）ミネルヴァ書房

文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

子どもと出会って、学びましょう！

| | | | |
|---------|------------------|---------|-------|
| 科目名 | 幼児教育学 | | |
| 担当教員名 | 上垣内 伸子 | | |
| ナンバリング | EAb1008 | | |
| 学 科 | 教育人文学部（E）-幼児教育学科 | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 1Aクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | 講義 | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

発達支援事業所にて保育士、臨床発達心理士として障害児保育のコンサルテーションと発達相談にかかわってきたという実務経験と、幼児教育研究会の指導者として保育者とともに現任者研修を行ったり保育実践研究を行ってきたという経験をもつ教員が担当し、理論と実践の双方の視点に立ち講義することができる。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の専門科目で、「保育と教育」領域に位置づけられる卒業必修科目である。幼稚園教諭免許状と保育士資格取得のための必修科目として位置付けられている。幼児教育・保育全体を示す概論であり、これから学習していく学科専門科目すべての基盤となる科目である。

科目の概要

幼児教育・保育にかかわる専門的知識を習得する科目である。幼児教育・保育の歴史と思想、保育方法の概略、乳幼児の生活実態を理解し、それを踏まえた保育、子育て支援、育児相談等の保育者の多様な責務について理解する。保育実践者としての自己のあり方やこれからの学び方について考える。

授業の方法（ALを含む）

本科目は講義中心であるが、実際の保育場面のDVD等の教材を活用し、事例に沿って考えたり、話し合ったりする機会をもつ。法令やデータ等の資料を参考にしながら、レポートを作成する課題も課す。毎回の授業時には、リアクションペーパーを記入し質問等へのフィードバックを行う。

【リアクションペーパー】【レポート（知識）】【討議・討論】【ケースメソッド】

到達目標

1. 幼児教育・保育の基本的理論を理解し、説明することが出来る。
2. 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された日本の幼児教育・保育の基本について理解し、保育内容、保育方法について説明することが出来る。
3. 保育の思想と歴史的変遷、保育の現状と今日的課題について理解し、説明することが出来る。
4. これからの保育の展望について考察し、説明することが出来る。
5. 保育に対する積極的な態度および自ら考える力を獲得し、示すことが出来る。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

この授業は、講義を基本とするが、保育実践の映像を活用したり、ディスカッションを取り入れながら保育理解を深めていく。

平行して履修する「児童学演習」での実習体験を生かし、自らの保育実践や子ども理解を省察しながら学びを深めていく。毎回の授業終了時にはリアクションペーパー（感想/質問欄と課題への回答欄）を記入し、次回の授業時にフィードバックする。

【リアクションペーパー】

| | |
|----|---|
| 1 | 保育とは何か 【討議・討論】 |
| 2 | 保育の歴史 近代前の子ども観 |
| 3 | 西洋の幼児教育・保育の歴史と思想、近現代までの変遷と現在の課題 |
| 4 | 日本の幼児教育・保育の歴史と思想、近現代までの変遷、社会状況の変化と現在 |
| 5 | 日本の保育思想、保育理念の源泉としての倉橋惣三の保育論 【レポート（知識）】 |
| 6 | 乳幼児の生活と発達、遊びの意義 【ケースメソッド】 |
| 7 | 幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領の制度的位置づけと成立、変遷 |
| 8 | 保幼児教育・保育の目的と目標、保育のねらいと内容 【レポート（知識）】 |
| 9 | 保育の環境（環境を通しての教育・保育、アフォーダンスとしての環境） |
| 10 | 保育方法の原理、保育活動と保育形態 |
| 11 | 保育指導計画と保育・教育課程、全体的な計画（防災、保健、食育などを含む） |
| 12 | 保育者の役割と保育実践 【討議・討論】 |
| 13 | 家庭・地域との連携、子育て支援、社会的資源としての幼稚園、保育所、こども園 |
| 14 | 世界の保育・幼児教育 |
| 15 | ESD、保育の今日的課題と未来への保育ビジョン(まとめ) |

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】前週に指示したテキストの指定箇所を読んで質問事項を整理しておく（1時間程度）。普段から、子どもと保育に関する新聞などのメディアからの発信にアンテナを立て、目を通しておくこと

【事後学習】授業内に配布した資料やテキストをもとに、ノートをまとめ、その週の学習内容を確認しておくこと(1時間程度)。発展的な疑問や意見があれば、オフィスアワーを活用してほしい。

評価方法および評価の基準

授業への参加態度や発言（10%）、学期内の小レポート・小テスト（20%）、学期末試験（70%）により評価を行う。総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、「再試験」を行う。

到達目標1,2,3. 学期内課題（5%/20%） 学期末試験（20%/70%）

到達目標4. 学期内課題（5%/20%） 学期末試験（10%/70%）

到達目標5. 授業への参加態度や発言（10%）

【フィードバック】毎回の授業課題のリアクションペーパーへの記入を求め、翌週の授業でそれへのコメントを戻す。レポートも同様。テストは事後に解説を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】吾田富士子（編）「これからの保育と教育 未来を見ずえた人間形成」八千代出版

その他、「児童学演習」で用いるテキストを使用する。（最新保育資料集2020, ミネルヴァ書房等）

他に適宜プリント資料配布

【推薦書】津守真・森上史朗監修『倉橋惣三文庫全10巻』フレーベル館

津守真『子ども学のはじまり』フレーベル館

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

再試験対象者には、再試験を行う日時、教室、実施方法等について、Live Campusの授業連絡にて周知する。

| | | | |
|---------|------------------|---------|-------|
| 科目名 | 幼児教育学 | | |
| 担当教員名 | 上垣内 伸子 | | |
| ナンバリング | EAb1008 | | |
| 学 科 | 教育人文学部（E）-幼児教育学科 | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 1Bクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | 講義 | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

発達支援事業所にて保育士、臨床発達心理士として障害児保育のコンサルテーションと発達相談にかかわってきたという実務経験と、幼児教育研究会の指導者として保育者とともに現任者研修を行ったり保育実践研究を行ってきたという経験をもつ教員が担当し、理論と実践の双方の視点に立ち講義することができる。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の専門科目で、「保育と教育」領域に位置づけられる卒業必修科目である。幼稚園教諭免許状と保育士資格取得のための必修科目として位置付けられている。幼児教育・保育全体を示す概論であり、これから学習していく学科専門科目すべての基盤となる科目である。

科目の概要

幼児教育・保育にかかわる専門的知識を習得する科目である。幼児教育・保育の歴史と思想、保育方法の概略、乳幼児の生活実態を理解し、それを踏まえた保育、子育て支援、育児相談等の保育者の多様な責務について理解する。保育実践者としての自己のあり方やこれからの学び方について考える。

授業の方法（ALを含む）

本科目は講義中心であるが、実際の保育場面のDVD等の教材を活用し、事例に沿って考えたり、話し合ったりする機会をもつ。法令やデータ等の資料を参考にしながら、レポートを作成する課題も課す。毎回の授業時には、リアクションペーパーを記入し質問等へのフィードバックを行う。

【リアクションペーパー】【レポート（知識）】【討議・討論】【ケースメソッド】

到達目標

1. 幼児教育・保育の基本的理論を理解し、説明することが出来る。
2. 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された日本の幼児教育・保育の基本について理解し、保育内容、保育方法について説明することが出来る。
3. 保育の思想と歴史的変遷、保育の現状と今日的課題について理解し、説明することが出来る。
4. これからの保育の展望について考察し、説明することが出来る。
5. 保育に対する積極的な態度および自ら考える力を獲得し、示すことが出来る。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

この授業は、講義を基本とするが、保育実践の映像を活用したり、ディスカッションを取り入れながら保育理解を深めていく。

平行して履修する「児童学演習」での実習体験を生かし、自らの保育実践や子ども理解を省察しながら学びを深めていく。毎回の授業終了時にはリアクションペーパー（感想/質問欄と課題への回答欄）を記入し、次回の授業時にフィードバックする。

【リアクションペーパー】

| | |
|----|---|
| 1 | 保育とは何か 【討議・討論】 |
| 2 | 保育の歴史 近代前の子ども観 |
| 3 | 西洋の幼児教育・保育の歴史と思想、近現代までの変遷と現在の課題 |
| 4 | 日本の幼児教育・保育の歴史と思想、近現代までの変遷、社会状況の変化と現在 |
| 5 | 日本の保育思想、保育理念の源泉としての倉橋惣三の保育論 【レポート（知識）】 |
| 6 | 乳幼児の生活と発達、遊びの意義 【ケースメソッド】 |
| 7 | 幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領の制度的位置づけと成立、変遷 |
| 8 | 保幼児教育・保育の目的と目標、保育のねらいと内容 【レポート（知識）】 |
| 9 | 保育の環境（環境を通しての教育・保育、アフォーダンスとしての環境） |
| 10 | 保育方法の原理、保育活動と保育形態 |
| 11 | 保育指導計画と保育・教育課程、全体的な計画（防災、保健、食育などを含む） |
| 12 | 保育者の役割と保育実践 【討議・討論】 |
| 13 | 家庭・地域との連携、子育て支援、社会的資源としての幼稚園、保育所、こども園 |
| 14 | 世界の保育・幼児教育 |
| 15 | ESD、保育の今日的課題と未来への保育ビジョン(まとめ) |

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】前週に指示したテキストの指定箇所を読んで質問事項を整理しておく（1時間程度）。普段から、子どもと保育に関する新聞などのメディアからの発信にアンテナを立て、目を通しておくこと

【事後学習】授業内に配布した資料やテキストをもとに、ノートをまとめ、その週の学習内容を確認しておくこと(1時間程度)。発展的な疑問や意見があれば、オフィスアワーを活用してほしい。

評価方法および評価の基準

授業への参加態度や発言（10%）、学期内の小レポート・小テスト（20%）、学期末試験（70%）により評価を行う。総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、「再試験」を行う。

到達目標1,2,3. 学期内課題（5%/20%） 学期末試験（20%/70%）

到達目標4. 学期内課題（5%/20%） 学期末試験（10%/70%）

到達目標5. 授業への参加態度や発言（10%）

【フィードバック】毎回の授業課題のリアクションペーパーへの記入を求め、翌週の授業でそれへのコメントを戻す。レポートも同様。テストは事後に解説を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】吾田富士子（編）「これからの保育と教育 未来を見ずえた人間形成」八千代出版

その他、「児童学演習」で用いるテキストを使用する。（最新保育資料集2020, ミネルヴァ書房等）

他に適宜プリント資料配布

【推薦書】津守真・森上史朗監修『倉橋惣三文庫全10巻』フレーベル館

津守真『子ども学のはじまり』フレーベル館

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

再試験対象者には、再試験を行う日時、教室、実施方法等について、Live Campusの授業連絡にて周知する。

| | | | |
|---------|------------------|---------|-----|
| 科目名 | 教育学 | | |
| 担当教員名 | 狩野 浩二 | | |
| ナンバリング | EAb1009 | | |
| 学 科 | 教育人文学部（E）-幼児教育学科 | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | 講義 | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

実務経験の有無

あり。

実務経験および科目との関連性

学校の成立と展開、教師論、学校論について実務経験（1987(昭和62)年～4年間、宮城県中学校教諭、1991(平成3)年～2年間、東北高校兼任講師）をふまえて講義する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

教育職員免許法および、幼児教育学科に定められた「教育の基礎理論に関する科目」のうち、その筆頭に掲げられた「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」を含む講義及び、保育士資格の「保育の本質・目的に関する科目」の「教育原理」を含む講義を行います。これから4年間にわたって教職科目や保育士科目を受講していくもっとも最初の時期に「教育・保育の基礎を学ぶ科目」として開講されます。卒業、選挙・資格取得ともに必修科目です。

先生になるために最小限必要となる教育の歴史や理論に関する基礎を勉強することになります。講義では「教育とは何か」、「学校とは何か」、「教える・学ぶとはどういうことなのか」などの根源的な課題について、以下の内容項目に従って取り上げます。

講義を主体とし、学修票の作成を通して、授業前学習の内容、授業中の理解度を確認します。

- ・教育の基礎理論に関して理解を深めることができる
- ・仲間とともに課題を発見し、討論し合いながら研究を深めることができる
- ・自己の見解を整理し、深め、発表することができる

学位授与方針（ディプロマポリシー） -2「保育理論の理解」と深く関わる科目です。さらに、 -1「子ども理解」、 -5「保護者・専門職との連携」、 -1「子どもの権利」、 -5「表現力、コミュニケーション力」、 -3「保育に関する社会的理解」、 -5「問題意識の喚起」とも関わる科目です。

内容

アクティブラーニングの取り組みとして、学生による省察活動、リアクションペーパーの作成、相互評価、討論を導入する。

- 第1回：「教育とは何か（第1章）」
- 第2回：「学校とは何か（1）（第2章）」
- 第3回：「学校とは何か（2）（第3章）」
- 第4回：「こころとからだを育てる（第4章）」
- 第5回：「よりよく学び、教えるために（第5章）」
- 第6回：「教育評価とは何か（第6章）」
- 第7回：「授業の可能性・学校の可能性（第7章）」
- 第8回：「教師の仕事（第8章）」
- 第9回：「青年期と教育（第9章）」

第10回：「社会教育と生涯学習（第10章）」

第11回：「教育への権利と『子どもの権利条約』（第11章）」

第12回：「よりよい教育を求めて（第12章）」

第13回：映像で学ぶ教育学「我が谷は緑なりき」（イギリス産業革命期の少年労働）

第14回：映像で学ぶ教育学「芽を吹く子ども」（斎藤喜博と島小の学校づくり）

第15回：まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】テキストを読み、“教育とは何か”という問いへの仮説を持ち、疑問点を整理し、その内容をメモして講義に臨みます(各授業に対して60分)。

【事後学修】講義内容を振り返り、テキストを再読することで、“教育とは何か”について考察をふかめます(各授業に対して60分)。

評価方法および評価の基準

各回毎の学修票作成(合計80点：教育観の形成、子ども観の形成確認)とその内容(合計20点：教育の基礎理論に関する理解度確認)を総合して、60点以上を合格点とし、単位を認定します。

【フィードバック】各授業ごとに学修票を作成し、提出された学修票について、次回の授業でコメントする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【使用テキスト（教科書）】田嶋一、福田須美子、中野新之祐、狩野浩二『やさしい教育原理（第3版）』有斐閣アルマ

【推薦書】ルソー『エミール（改版）上』岩波文庫、シング『狼に育てられた子』福村出版

【参考図書】留岡清男『教育農場50年』岩波書店、谷昌恒『ひとむれ』評論社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

一年後期月曜日4限目に関講予定です。

| | | | |
|---------|------------------|---------|-------|
| 科目名 | 言語文化表現 | | |
| 担当教員名 | 橋本 千鶴 | | |
| ナンバリング | EAc2025 | | |
| 学 科 | 教育人文学部（E）-幼児教育学科 | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 2Aクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | 演習 | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科専門科目の「保育内容の理解と方法」に位置づけ、卒業必修科目であり、幼稚園教諭免許・保育士資格を取得するための必修科目である。子どもの言語表現にかかわる、幼稚園教諭・保育士の基礎的保育技術を習得する演習科目として位置づけられている。

科目の概要

子どもの健全な心身の発達に深いかかわりをもつ豊かな児童文化財の中から、絵本、紙芝居、素話、人形劇、言葉遊び、わらべうたなどの言語表現活動に焦点を当て、楽しみながら、保育活動への具体的展開方法を実践的に学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

本科目は、子どもの健全な心身の発達を目指す言語表現活動について、グループワーク、実技、模擬授業を中心に実践的に学び、将来の保育者として必要な知識や技能を身に付けていく授業を行う【グループワーク】【実技】【模擬授業】。毎回リアクションペーパーを用いて、知識、感想、疑問点等を記録し、授業内容の確認を行う【リアクションペーパー】。授業で学んだ知識や技術を生かし、絵本を制作して相互評価をする【創作、制作】。最終回には、授業全体のまとめとして、授業で学んだ知識や技能等についてレポートを書き、授業内容の定着を図る【レポート（知識）】。

到達目標

- (1)領域「言葉」の指導の基盤となる専門的事項について学び、意欲的に多様な表現活動を実践できる。
- (2)さまざまな児童文化財について積極的に学び、将来の保育者として必要な知識や技能を身につけることができる。
- (3)子どもの発達段階に適した絵本、紙芝居、素話、人形劇などを選定し、保育現場での展開を考えることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2保育理論の理解
- 4保育者の感性
- 3社会的事象への関心

内容

| | |
|----|---|
| 1 | オリエンテーション（授業目的・到達目標・授業計画などの確認） 素話と言葉遊び【リアクションペーパー】 |
| 2 | 児童文化とは 保育の中の遊び 【リアクションペーパー】 |
| 3 | 絵本の読み聞かせ（1）絵本の歴史・物語の教材解釈 【リアクションペーパー】 |
| 4 | 絵本の読み聞かせ（2）昔話 【グループワーク】【リアクションペーパー】 |
| 5 | 絵本の読み聞かせ（3）教材研究と読み聞かせの練習 【グループワーク】【実技】【リアクションペーパー】 |
| 6 | 絵本の読み聞かせ（4）模擬保育 【グループワーク】【模擬授業】【実技】【リアクションペーパー】 |
| 7 | 素話の発表 【グループワーク】【実技】【リアクションペーパー】 |
| 8 | 紙芝居の演じ方（1）紙芝居の歴史・演じ方の実際 【グループワーク】【実技】【リアクションペーパー】 |
| 9 | 紙芝居の演じ方（2）模擬保育 【グループワーク】【模擬授業】【実技】【リアクションペーパー】 |
| 10 | いろいろな児童文化財の紹介と実演（1）人形劇の演じ方の練習 【グループワーク】【実技】【リアクションペーパー】 |
| 11 | いろいろな児童文化財の紹介と実演（2）人形劇の演じ方の発表 【グループワーク】【実技】【リアクションペーパー】 |
| 12 | 制作絵本の発表と合評会 【創作・制作】【リアクションペーパー】 |
| 13 | わらべうた・手あそびうたの実演 【グループワーク】【実技】【リアクションペーパー】 |
| 14 | 声を届ける～群読 【グループワーク】【実技】【リアクションペーパー】 |
| 15 | まとめ（オノマトペ・授業全体のまとめ） 【レポート（知識）】 |

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

1回【事前準備】シラバスを読み、授業内容を把握する。[60分]

【事後学習】素話の練習を進める。[60分]

2～11,13,14回【事前準備】幼稚園教育要領等の領域「言葉」を読み、児童文化財の保育活動への具体的展開方法を考える。実技前にはよく練習してくる。[60分]

【事後学習】授業で学んだことを復習して、さらに児童文化財への興味関心を広げる。自分の実演を振り返り、改善点ははっきりさせて再度練習を重ねる。[60分]

12回【事前準備】簡単な絵本を1冊作る。[60分]

【事後学習】相互評価をもとに自分の絵本を振り返る。[60分]

15回【事前準備】これまでの授業内容を復習し、児童文化財の保育活動への具体的展開方法についてまとめる。[60分]

【事後学習】幼稚園教育要領等の領域「言葉」を読み深める。[60分]

評価方法および評価の基準

授業への参加態度(30%)、各授業回のリアクションペーパー等(30%)、学期末のレポートと作品の提出(40%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標(1)授業への参加態度(10/30)、リアクションペーパー(10/30)、レポート(10/40)

到達目標(2)授業への参加態度(10/30)、リアクションペーパー(10/30)、作品・レポート(20/40)

到達目標(3)授業への参加態度(10/30)、リアクションペーパー(10/30)、レポート(10/40)

【フィードバック】提出されたリアクションペーパー等は、コメントを記載し、翌週の授業内で返却する。制作絵本は合評会を経て提出後、翌週の授業内で評価、紹介しながら返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省「幼稚園教育要領解説」平成30年3月 フレーベル館

厚生労働省「保育所保育指針解説」平成30年3月 フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」平成30年3月 フレーベル館

他に毎回プリント資料配付

【推薦書】毎回の授業時に紹介する

【参考図書】毎回の授業時に紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

将来の保育者に必要な知識と技能を獲得する実技が中心となるため、楽しみながら意欲的に授業に取り組んでほしい。実技の前には練習をして臨み、授業後も改善点を明確にしてさらに練習を重ねて力を伸ばしてほしい。

| | | | |
|---------|------------------|---------|-------|
| 科目名 | 言語文化表現 | | |
| 担当教員名 | 橋本 千鶴 | | |
| ナンバリング | EAc2025 | | |
| 学 科 | 教育人文学部（E）-幼児教育学科 | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 2Bクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | 演習 | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科専門科目の「保育内容の理解と方法」に位置づけ、卒業必修科目であり、幼稚園教諭免許・保育士資格を取得するための必修科目である。子どもの言語表現にかかわる、幼稚園教諭・保育士の基礎的保育技術を習得する演習科目として位置づけられている。

科目の概要

子どもの健全な心身の発達に深いかかわりをもつ豊かな児童文化財の中から、絵本、紙芝居、素話、人形劇、言葉遊び、わらべうたなどの言語表現活動に焦点を当て、楽しみながら、保育活動への具体的展開方法を実践的に学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

本科目は、子どもの健全な心身の発達を目指す言語表現活動について、グループワーク、実技、模擬授業を中心に実践的に学び、将来の保育者として必要な知識や技能を身に付けていく授業を行う【グループワーク】【実技】【模擬授業】。毎回リアクションペーパーを用いて、知識、感想、疑問点等を記録し、授業内容の確認を行う【リアクションペーパー】。授業で学んだ知識や技術を生かし、絵本を制作して相互評価をする【創作、制作】。最終回には、授業全体のまとめとして、授業で学んだ知識や技能等についてレポートを書き、授業内容の定着を図る【レポート（知識）】。

到達目標

- (1)領域「言葉」の指導の基盤となる専門的事項について学び、意欲的に多様な表現活動を実践できる。
- (2)さまざまな児童文化財について積極的に学び、将来の保育者として必要な知識や技能を身につけることができる。
- (3)子どもの発達段階に適した絵本、紙芝居、素話、人形劇などを選定し、保育現場での展開を考えることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2保育理論の理解
- 4保育者の感性
- 3社会的事象への関心

内容

| | |
|----|---|
| 1 | オリエンテーション（授業目的・到達目標・授業計画などの確認） 素話と言葉遊び【リアクションペーパー】 |
| 2 | 児童文化とは 保育の中の遊び 【リアクションペーパー】 |
| 3 | 絵本の読み聞かせ（1）絵本の歴史・物語の教材解釈 【リアクションペーパー】 |
| 4 | 絵本の読み聞かせ（2）昔話 【グループワーク】【リアクションペーパー】 |
| 5 | 絵本の読み聞かせ（3）教材研究と読み聞かせの練習 【グループワーク】【実技】【リアクションペーパー】 |
| 6 | 絵本の読み聞かせ（4）模擬保育 【グループワーク】【模擬授業】【実技】【リアクションペーパー】 |
| 7 | 素話の発表 【グループワーク】【実技】【リアクションペーパー】 |
| 8 | 紙芝居の演じ方（1）紙芝居の歴史・演じ方の実際 【グループワーク】【実技】【リアクションペーパー】 |
| 9 | 紙芝居の演じ方（2）模擬保育 【グループワーク】【模擬授業】【実技】【リアクションペーパー】 |
| 10 | いろいろな児童文化財の紹介と実演（1）人形劇の演じ方の練習 【グループワーク】【実技】【リアクションペーパー】 |
| 11 | いろいろな児童文化財の紹介と実演（2）人形劇の演じ方の発表 【グループワーク】【実技】【リアクションペーパー】 |
| 12 | 制作絵本の発表と合評会 【創作・制作】【リアクションペーパー】 |
| 13 | わらべうた・手あそびうたの実演 【グループワーク】【実技】【リアクションペーパー】 |
| 14 | 声を届ける～群読 【グループワーク】【実技】【リアクションペーパー】 |
| 15 | まとめ（オノマトペ・授業全体のまとめ） 【レポート（知識）】 |

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

1回【事前準備】シラバスを読み、授業内容を把握する。[60分]

【事後学習】素話の練習を進める。[60分]

2～11,13,14回【事前準備】幼稚園教育要領等の領域「言葉」を読み、児童文化財の保育活動への具体的展開方法を考える。実技前にはよく練習してくる。[60分]

【事後学習】授業で学んだことを復習して、さらに児童文化財への興味関心を広げる。自分の実演を振り返り、改善点ははっきりさせて再度練習を重ねる。[60分]

12回【事前準備】簡単な絵本を1冊作る。[60分]

【事後学習】相互評価をもとに自分の絵本を振り返る。[60分]

15回【事前準備】これまでの授業内容を復習し、児童文化財の保育活動への具体的展開方法についてまとめる。[60分]

【事後学習】幼稚園教育要領等の領域「言葉」を読み深める。[60分]

評価方法および評価の基準

授業への参加態度(30%)、各授業回のリアクションペーパー等(30%)、学期末のレポートと作品の提出(40%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標(1)授業への参加態度(10/30)、リアクションペーパー(10/30)、レポート(10/40)

到達目標(2)授業への参加態度(10/30)、リアクションペーパー(10/30)、作品・レポート(20/40)

到達目標(3)授業への参加態度(10/30)、リアクションペーパー(10/30)、レポート(10/40)

【フィードバック】提出されたリアクションペーパー等は、コメントを記載し、翌週の授業内で返却する。制作絵本は合評会を経て提出後、翌週の授業内で評価、紹介しながら返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省「幼稚園教育要領解説」平成30年3月 フレーベル館

厚生労働省「保育所保育指針解説」平成30年3月 フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」平成30年3月 フレーベル館

他に毎回プリント資料配付

【推薦書】毎回の授業時に紹介する

【参考図書】毎回の授業時に紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

将来の保育者に必要な知識と技能を獲得する実技が中心となるため、楽しみながら意欲的に授業に取り組んでほしい。実技の前には練習をして臨み、授業後も改善点を明確にしてさらに練習を重ねて力を伸ばしてほしい。

| | | | |
|---------|------------------|---------|-------|
| 科目名 | 言語文化表現 | | |
| 担当教員名 | 吉岡 晶子 | | |
| ナンバリング | EAc2025 | | |
| 学 科 | 教育人文学部（E）-幼児教育学科 | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 2Cクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | 演習 | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

幼稚園教諭としての保育経験を活かし、言語文化関係の教材例、実践例についてビデオ映像や写真等を用い、実技を取り入れながら指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、幼児教育学科専門科目の「保育内容の理解と方法」に位置づき卒業必修科目であり、保育士資格を取得するための必修科目である。子どもの言語表現にかかわる保育士の基礎的保育技術を習得する演目として位置づけられている。

科目の概要

子どもを取り巻く環境には様々な文化的要素がある。その中の言語文化的な分野、絵本、紙芝居、素話、わらべうた、言葉遊び、人形劇などに焦点をあてて学ぶ。児童文化とはなにかについて考えると共に、教材の選び方、生かし方、実際の保育の場でどのように展開されているか、また、環境構成のありかたについても実践的に学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、講義と共に映像や写真も用い、様々な教材の扱い方の実践、グループワークを取り入れた授業を行う。【実技】【グループワーク】【リアクションペーパー】【レポート（表現）】

到達目標

- (1)子どもを取り巻く言語文化への興味関心をもち、教材研究することができる。
- (2)幼児の発達を踏まえた教材の選び方、保育技術を学び、身につけることができる。
- (3)言語、言語文化を通して好奇心を高め、積極的に授業に参加し学ぶことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2保育理論の理解
- 4保育者の感性
- 3社会的事象への関心

内容

この授業は講義を基本に、実技、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、教材研究、学びを深めていく。

| | |
|----|--|
| 1 | オリエンテーション(授業目的・到達目標・授業計画などの確認) |
| 2 | 幼稚園生活の中での遊び、遊具、行事などの児童文化に触れる【リアクションペーパー】 |
| 3 | いろいろな絵本について |
| 4 | 絵本・紙芝居の選び方 【実技・レポート(表現)】 】 |
| 5 | 絵本・紙芝居の読み聞かせ体験 【グループワーク・リアクションペーパー】 |
| 6 | 昔話 |
| 7 | 幼年童話 |
| 8 | お話・お話作り 【グループワーク】 |
| 9 | 伝承遊びとわらべうた・言葉遊び 【実技】 |
| 10 | 人形劇 |
| 11 | ペープサート体験(1)計画・練習【グループワーク】 |
| 12 | ペープサート体験(2)発表【グループワーク】 |
| 13 | 伝統的玩具と遊び・季節の行事と言葉 【リアクションペーパー】 |
| 14 | 絵本つくりと合評・子どもの言語表現 【グループワーク・リアクションペーパー】 |
| 15 | まとめ |

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領を読む。[各授業60分]

【事後学習】授業で学んだことについてノートをまとめ、教材の使い方の復習、教材研究(絵本・紙芝居などを読む、調べる)を深める。[各授業60分 テーマごとに60分] 児童文化への興味関心を広げ探究する。

評価方法および評価の基準

到達目標

(1)子どもを取り巻く言語文化への興味関心をもち、教材研究することができる。(レポート20% 平常点20%)

(2)幼児の発達を踏まえた教材の選び方、保育技術を学び、身につけることができる。(レポート20% 平常点10%)

(3)言語、言語文化を通して好奇心を高め、積極的に授業に参加し学ぶことができる。(平常点 30%)

レポート 40% 平常点 60%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

文部科学省「幼稚園教育要領解説」平成30年3月 フレーベル館

厚生労働省「保育所保育指針解説」平成30年3月 フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育保育要領解説」平成30年3月 フレーベル館

他にプリント資料配布

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

| | | | |
|---------|------------------|---------|-------|
| 科目名 | 言語文化表現 | | |
| 担当教員名 | 吉岡 晶子 | | |
| ナンバリング | EAc2025 | | |
| 学 科 | 教育人文学部（E）-幼児教育学科 | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 2Dクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | 演習 | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

幼稚園教諭としての保育経験を活かし、言語文化関係の教材例、実践例についてビデオ映像や写真等を用い、実技を取り入れながら指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、幼児教育学科専門科目「保育内容の理解と方法」に位置づけ、卒業必修科目であり、保育士資格を取得するための必須科目である。子どもの言語表現にかかわる保育士の基礎的保育技術を習得する演目として位置づけられている。

科目の概要

子どもを取り巻く環境には様々な文化的要素がある。その中の言語文化的な分野、絵本、紙芝居、素話、わらべうた、言葉遊び、人形劇などに焦点をあてて学ぶ。児童文化とはなにかについて考えると共に、教材に選び方、生かし方、実際の保育場面の場でどのように展開されているか、また、環境構成のありかたについても実践的に学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、講義と共に様々な教材の扱い方の実践、グループワークを取り入れた授業を行う。【実技・グループワーク】
【リアクションペーパー】【レポート（表現）】

到達目標

- (1) 子どもを取り巻く言語文化への興味関心をもち、教材研究することができる。
- (2) 幼児の発達を踏まえた教材の選び方、保育技術を学び身につけることができる。
- (3) 言語、言語文化を通して好奇心を高め、積極的に授業に参加し学ぶことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2 保育理論の理解
- 4 保育者の感性
- 3 社会的事象への関心

内容

この授業は講義を基本に、実技、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら教材研究、学びを深めていく。

- | | |
|---|---------------------------------|
| 1 | オリエンテーション（授業の目的・到達目標・授業計画などの確認） |
|---|---------------------------------|

| | |
|----|--|
| 2 | 幼稚園生活の中での遊び、遊具、行事などの児童文化に触れる【リアクションペーパー】 |
| 3 | いろいろな絵本について |
| 4 | 絵本・紙芝居の選び方【実技・レポート(表現)】 |
| 5 | 絵本・紙芝居の読み聞かせ体験【グループワーク・リアクションペーパー】 |
| 6 | 昔話 |
| 7 | 幼年童話 |
| 8 | お話・お話作り【グループワーク】 |
| 9 | 伝承遊びとわらべうた・言葉遊び【実技】 |
| 10 | 人形劇 |
| 11 | ペープサート(1)計画・練習【グループワーク】 |
| 12 | ペープサート(2)発表【グループワーク・リアクションペーパー】 |
| 13 | 伝統的玩具と遊び・季節の行事と言葉【リアクションペーパー】 |
| 14 | 絵本つくりと合評・子どもの言語表現【グループワーク・リアクションペーパー】 |
| 15 | まとめ |

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

- 【事前準備】幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領を読む。[各授業40分]
- 【事後学修】授業で学んだことについてノートをまとめ、教材の使い方の復習,教材研究(絵本、紙芝居を読む、調べる)を深める。[各授業40分 テーマごとに40分]
- (調べる)[各授業40分 テーマごとに40分] 児童文化への興味関心を広げ探求する。

評価方法および評価の基準

到達目標

- (1) 子どもを取り巻く言語文化への興味関心をもち、教材研究することができる。(レポート20% 平常点20%)
- (2) 幼児の発達を踏まえた教材の選び方、保育技術を学び身につけることができる。(レポート20% 平常点10%)
- (3) 言語、言語文化を通して好奇心を高め、積極的に授業に参加し学ぶことができる。(平常点30%)
- レポート40% 平常点 60%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

- 文部科学省「幼稚園教育要領解説」平成30年3月 フレーベル館
- 厚生労働省「保育所保育指針解説」平成30年3月フレーベル館
- 内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育保育要領解説」平成30年3月フレーベル館
- 他にプリント資料配布

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

| | | | |
|---------|------------------|---------|-------|
| 科目名 | 保育・教育心理学 | | |
| 担当教員名 | 長田 瑞恵 | | |
| ナンバリング | EAd1035 | | |
| 学 科 | 教育人文学部（E）-幼児教育学科 | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 1Aクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | 講義 | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼稚園教諭一種免許状取得のための必修科目であり、保育士養成課程教育カリキュラムに関わる科目の一つである。1年次の最初に学ぶ専門科目の一つとして、後の養成課程の基礎の一部を成すものである。保育とは人が人を育てることを通して自らもまた育つ営みであることを踏まえ、学習の対象を乳幼児から児童期を中心にしつつも、生涯発達の視点から胎児期から老年期まで理解する。

科目の概要

発達という概念について理解を深め、人間の一生の中の最初期である乳幼児期とから児童期、青年期の各時期における心身の発達の過程と特徴、具体的には運動、言語、認知及び社会性等の特徴についての基礎的な知識を理解することを目指す。理解する。そして、発達や学習の過程、生涯発達の観点から考えた障がいについても理解を深める。また、子どもが人との相互的にかかわりを通して発達していくことを具体的に理解する。

授業の方法

各テーマに沿って、各自事前学習として内容のレジюмеを作成してくることを課題とする。授業資料はLive Campusで提示する。授業はテキストの内容に加え、適宜必要な内容をプリント等で提示する。学生は主体的にレジюме作成、ノートテイキング、課題への取り組みなどを行うことで、知識だけでなく学習の基本的スキルを身につける。各回の授業の最後には、リアクションペーパーの作成を行う。【レポート(知識)】【リアクションペーパー】

学修目標

- (1)特に乳幼児期から児童期にかけての身体的、心理的発達について重要性を理解する。
- (2)教育における発達理解の意義について理解を深める。
- (3)発達と学習活動を支援する基礎を学ぶための基礎的知識を身につける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1子どもの心理・発達の理解
- 1子どもの人権尊重
- 1子どもから学び、子どもとともに育つ姿勢

内容

講義形式ではあるが、学生自らが主体的に事前・事後学習を行うアクティブラーニングを目指す。

発達のそれぞれの時期の発達特徴と発達課題をライフサイクルの中で捉え、人間の成長・成熟の意味を問う。中心は乳幼児期となるが、親準備性という観点から青年期・成人前期も焦点を当てる。リアクションペーパーで多かった疑問や意見には授業内で教員がコメントをフィードバックする。

| | |
|----|--|
| 1 | 保育と心理学（１）：保育における実証性と保育実践 |
| 2 | 保育と心理学（２）：発達の記述から教育の規定へ・発達の独自性 |
| 3 | 子どもの発達と保育環境（１）：発達観・子ども観と保育観 |
| 4 | 子どもの発達と保育環境（２）：子どもの発達と環境 |
| 5 | 子どもの発達と保育環境（３）：社会情動的スキル・感情・自己の発達 |
| 6 | 子どもの発達と保育環境（４）：身体的機能と運動機能の発達 |
| 7 | 子どもの発達と保育環境（５）：知覚と認知の発達 |
| 8 | 子どもの発達と保育環境（６）：言葉と社会性の発達 |
| 9 | 人とのかかわりと子どもの発達（１）：人とのかかわりと子どもの発達 |
| 10 | 人とのかかわりと子どもの発達（２）：思いやりの心と道徳性の発達 |
| 11 | 学習に関する理論と生活・遊びを通しての学習（１）：学習のさまざまな理論 |
| 12 | 学習に関する理論（２）：学習の動機づけ・子どもの遊びや生活を通じた学習 |
| 13 | 生涯発達のプロセスと援助・支援（１）：生涯発達の考え方 |
| 14 | 生涯発達のプロセスと援助・支援（２）：各時期の発達の特徴と援助・支援、子育て支援 |
| 15 | まとめと質疑応答 |

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指定されたテキストの次回範囲をよく読み、レジユメを指定された用紙に作成してこよう。[約1時間から1時間半]

【事後学修】授業終了時にその日の学びの振り返りを記入したリアクションペーパーを提出する。自作レジユメや配布資料に基づいてしっかり復習し、理解しておく。[約1時間]

評価方法および評価の基準

授業への参加度（授業内の課題）20点、学期末の筆記試験80点（自由記述課題と選択式課題）として評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合、再試験とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】無藤隆・掘越紀香・古賀松香・丹羽さかの（編著）「乳幼児 教育・保育シリーズ『保育の心理学』」（光生館,2019)

【推薦書】無藤隆・岩立京子編著 『乳幼児心理学』 北大路書房
無藤隆・藤崎真知代編著 『保育の心理学』 北大路書房

幼稚園教育要領(2018)など他科目の使用テキストや適宜補足プリントを使用する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

毎回の授業資料はLive Campusを使用して配布する。

学期末試験の総合評価60点に満たなかった場合、再試験とする。試験の方法等についてはLive Campusの授業連絡にて周知する。

| | | | |
|---------|------------------|---------|-------|
| 科目名 | 保育・教育心理学 | | |
| 担当教員名 | 長田 瑞恵 | | |
| ナンバリング | EAd1035 | | |
| 学 科 | 教育人文学部（E）-幼児教育学科 | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 1Bクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | 講義 | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼稚園教諭一種免許状取得のための必修科目であり、保育士養成課程教育カリキュラムに関わる科目の一つである。1年次の最初に学ぶ専門科目の一つとして、後の養成課程の基礎の一部を成すものである。保育とは人が人を育てることを通して自らもまた育つ営みであることを踏まえ、学習の対象を乳幼児から児童期を中心にしつつも、生涯発達の視点から胎児期から老年期まで理解する。

科目の概要

発達という概念について理解を深め、人間の一生の中の最初期である乳幼児期とから児童期、青年期の各時期における心身の発達の過程と特徴、具体的には運動、言語、認知及び社会性等の特徴についての基礎的な知識を理解することを目指す。理解する。そして、発達や学習の過程、生涯発達の観点から考えた障がいについても理解を深める。また、子どもが人との相互的にかかわりを通して発達していくことを具体的に理解する。

授業の方法

各テーマに沿って、各自事前学習として内容のレジюмеを作成してくることを課題とする。授業資料はLive Campusで提示する。授業はテキストの内容に加え、適宜必要な内容をプリント等で提示する。学生は主体的にレジюме作成、ノートテイキング、課題への取り組みなどを行うことで、知識だけでなく学習の基本的スキルを身につける。各回の授業の最後には、リアクションペーパーの作成を行う。【レポート(知識)】【リアクションペーパー】

学修目標

- (1)特に乳幼児期から児童期にかけての身体的、心理的発達について重要性を理解する。
- (2)教育における発達理解の意義について理解を深める。
- (3)発達と学習活動を支援する基礎を学ぶための基礎的知識を身につける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1子どもの心理・発達の理解
- 1子どもの人権尊重
- 1子どもから学び、子どもとともに育つ姿勢

内容

講義形式ではあるが、学生自らが主体的に事前・事後学習を行うアクティブラーニングを目指す。

発達のそれぞれの時期の発達特徴と発達課題をライフサイクルの中で捉え、人間の成長・成熟の意味を問う。中心は乳幼児期となるが、親準備性という観点から青年期・成人前期も焦点を当てる。リアクションペーパーで多かった疑問や意見には授業内で教員がコメントをフィードバックする。

| | |
|----|--|
| 1 | 保育と心理学（1）：保育における実証性と保育実践 |
| 2 | 保育と心理学（2）：発達の記述から教育の規定へ・発達の独自性 |
| 3 | 子どもの発達と保育環境（1）：発達観・子ども観と保育観 |
| 4 | 子どもの発達と保育環境（2）：子どもの発達と環境 |
| 5 | 子どもの発達と保育環境（3）：社会情動的スキル・感情・自己の発達 |
| 6 | 子どもの発達と保育環境（4）：身体的機能と運動機能の発達 |
| 7 | 子どもの発達と保育環境（5）：知覚と認知の発達 |
| 8 | 子どもの発達と保育環境（6）：言葉と社会性の発達 |
| 9 | 人とのかかわりと子どもの発達（1）：人とのかかわりと子どもの発達 |
| 10 | 人とのかかわりと子どもの発達（2）：思いやりの心と道徳性の発達 |
| 11 | 学習に関する理論と生活・遊びを通しての学習（1）：学習のさまざまな理論 |
| 12 | 学習に関する理論（2）：学習の動機づけ・子どもの遊びや生活を通じた学習 |
| 13 | 生涯発達のプロセスと援助・支援（1）：生涯発達の考え方 |
| 14 | 生涯発達のプロセスと援助・支援（2）：各時期の発達の特徴と援助・支援、子育て支援 |
| 15 | まとめと質疑応答 |

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指定されたテキストの次回範囲をよく読み、レジュメを指定された用紙に作成してこよう。[約1時間から1時間半]

【事後学修】授業終了時にその日の学びの振り返りを記入したリアクションペーパーを提出する。自作レジュメや配布資料に基づいてしっかり復習し、理解しておく。[約1時間]

評価方法および評価の基準

授業への参加度（授業内の課題）20点、学期末の筆記試験80点（自由記述課題と選択式課題）として評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合、再試験とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】無藤隆・掘越紀香・古賀松香・丹羽さかの（編著）「乳幼児 教育・保育シリーズ『保育の心理学』」（光生館,2019)

【推薦書】無藤隆・岩立京子編著 『乳幼児心理学』 北大路書房
無藤隆・藤崎真知代編著 『保育の心理学』 北大路書房

幼稚園教育要領(2018)など他科目の使用テキストや適宜補足プリントを使用する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

毎回の授業資料はLive Campusを使用して配布する。

学期末試験の総合評価60点に満たなかった場合、再試験とする。試験の方法等についてはLive Campusの授業連絡にて周知する。

| | | | |
|---------|------------------|---------|-------|
| 科目名 | 生涯発達心理学 | | |
| 担当教員名 | 大宮 明子 | | |
| ナンバリング | Ead1036 | | |
| 学 科 | 教育人文学部（E）-幼児教育学科 | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 2Aクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | 講義 | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

| ねらい | 科目の性格 | 科目の概要 | 授業の方法（ALを含む） | 到達目標 | ディプロマ・ポリシーとの関係 |
|-----|-------|-------|--------------|------|----------------|
|-----|-------|-------|--------------|------|----------------|

科目の性格

本科目は、幼児教育学科の卒業必修科目、及び保育士資格取得の必修科目である。専門科目の領域は「発達と臨床」である。保育・教育心理学での学びをふまえ、特別教育支援概論や子ども家庭支援論とも関連がある。

科目の概要

生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、家族や家庭の意義や機能、親子関係や家族関係、子育て家庭をめぐる現代の社会状況とその課題、子どもの心の健康について理解する。本科目は、各自の表現力育成も目標とし、限られた時間内で自分の意見をまとめ、それを表現する力を養う。

授業の方法

基本的には講義であるが、毎回の授業において、提示された問題に対して自分の意見をまとめ記述する【レポート（表現）】。

また、毎回授業終了前に、授業内容に関する自分の意見・感想を記述する【リアクションペーパー】。

到達目標

- 1.乳幼児期から老年期までの発達に関する基礎的な心理学的知識を習得し、自分なりの言葉で説明できる。。
- 2.家族や家庭の意義及び機能、子育て家庭に関する現状と課題、子どもの心の健康とその課題について理解し、それらについて自分なりの意見を述べるができる。
- 3.限られた時間の中で、自分の考えをまとめ、文章で表現することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

-1「子どもの心理・発達の理解」、 -1「子どもの人権尊重」、 -1「子どもから学び、子どもとともに育つ姿勢」

内容

この授業は講義を基本とするが、各自事例などから考えることによって、学びを深めていく。

| | |
|---|----------------|
| 1 | 乳幼児期の発達の特徴(1) |
| 2 | 乳幼児期の発達の特徴(2) |
| 3 | 学童期の発達の特徴 |
| 4 | 思春期から青年期の発達の特徴 |
| 5 | 成人期の発達の特徴 |
| 6 | 高齢期の発達の特徴 |
| 7 | 家族システムと家族の発達 |
| 8 | 親としての養育スタイルの形成 |

| | |
|----|-------------------|
| 9 | 子育て環境の社会状況的变化 |
| 10 | ライフコースと仕事・子育て |
| 11 | 多様な子育て家庭への支援 |
| 12 | 特別な配慮を必要とする家庭への支援 |
| 13 | 子どもを取り巻く生活環境とその影響 |
| 14 | 子どもの心の健康 |
| 15 | まとめ |

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】毎回教科書の指定された個所を読み、レジュメを作成して持参する。（各授業に対して90分）

【事後学修】授業内容を確認しながら、自分のレジュメを修正・加筆する。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

毎回のレジュメ・課題が30点、期末テスト70点の合計100点満点とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に達しなかった場合には、再試験を行う。

【到達目標の評価方法と割合】

到達目標1. レジュメ・課題（10/30）、期末テスト（30/70）

到達目標2. レジュメ・課題（10/30）、期末テスト（30/70）

到達目標3. レジュメ・課題（10/30）、期末テスト（10/70）

【フィードバック】毎回授業の最初に前回の課題の説明を行い、学習理解を深められるようにする。学習目標に関するフィードバックは、実施後行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】児童育成協会監修「子ども家庭支援の心理学」中央法規出版

【推薦書】授業内で紹介する

【参考図書】本郷一夫・神谷哲司編著「シードブック 子ども家庭支援の心理学」建帛社
大豆生田啓友・太田光洋・森上史朗編「よくわかる子育て支援・家庭支援論」ミネルヴァ書房

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

保育・教育心理学の内容を踏まえて授業を行いますので、保育・教育心理学の授業内容をよく復習して授業に臨んでください。

また、自分の意見をまとめて限られた時間内にそれを文章で表現することが苦手な場合には、本科目だけでなく、日ごろから自分で文章を書く練習をすることをお勧めします。

| | | | |
|---------|------------------|---------|-------|
| 科目名 | 生涯発達心理学 | | |
| 担当教員名 | 大宮 明子 | | |
| ナンバリング | Ead1036 | | |
| 学 科 | 教育人文学部（E）-幼児教育学科 | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 2Bクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | 講義 | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、幼児教育学科の卒業必修科目、及び保育士資格取得の必修科目である。専門科目の領域は「発達と臨床」である。保育・教育心理学での学びをふまえ、特別教育支援概論や子ども家庭支援論とも関連がある。

科目の概要

生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、家族や家庭の意義や機能、親子関係や家族関係、子育て家庭をめぐる現代の社会状況とその課題、子どもの心の健康について理解する。本科目は、各自の表現力育成も目標とし、限られた時間内で自分の意見をまとめ、それを表現する力を養う。

授業の方法

基本的には講義であるが、毎回の授業において、提示された問題に対して自分の意見をまとめ記述する【レポート（表現）】。

また、毎回授業終了前に、授業内容に関する自分の意見・感想を記述する【リアクションペーパー】。

到達目標

- 1.乳幼児期から老年期までの発達に関する基礎的な心理学的知識を習得し、自分なりの言葉で説明できる。。
- 2.家族や家庭の意義及び機能、子育て家庭に関する現状と課題、子どもの心の健康とその課題について理解し、それらについて自分なりの意見を述べるができる。
- 3.限られた時間の中で、自分の考えをまとめ、文章で表現することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

-1「子どもの心理・発達の理解」、 -1「子どもの人権尊重」、 -1「子どもから学び、子どもとともに育つ姿勢」

内容

この授業は講義を基本とするが、各自事例などから考えることによって、学びを深めていく。

| | |
|---|----------------|
| 1 | 乳幼児期の発達の特徴(1) |
| 2 | 乳幼児期の発達の特徴(2) |
| 3 | 学童期の発達の特徴 |
| 4 | 思春期から青年期の発達の特徴 |
| 5 | 成人期の発達の特徴 |
| 6 | 高齢期の発達の特徴 |
| 7 | 家族システムと家族の発達 |
| 8 | 親としての養育スタイルの形成 |

| | |
|----|-------------------|
| 9 | 子育て環境の社会状況的变化 |
| 10 | ライフコースと仕事・子育て |
| 11 | 多様な子育て家庭への支援 |
| 12 | 特別な配慮を必要とする家庭への支援 |
| 13 | 子どもを取り巻く生活環境とその影響 |
| 14 | 子どもの心の健康 |
| 15 | まとめ |

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】毎回教科書の指定された個所を読み、レジユメを作成して持参する。（各授業に対して90分）

【事後学修】授業内容を確認しながら、自分のレジユメを修正・加筆する。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

毎回のレジユメ・課題が30点、期末テスト70点の合計100点満点とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に達しなかった場合には、再試験を行う。

【到達目標の評価方法と割合】

到達目標1. レジユメ・課題（10/30）、期末テスト（30/70）

到達目標2. レジユメ・課題（10/30）、期末テスト（30/70）

到達目標3. レジユメ・課題（10/30）、期末テスト（10/70）

【フィードバック】毎回授業の最初に前回の課題の説明を行い、学習理解を深められるようにする。学習目標に関するフィードバックは、実施後行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】児童育成協会監修「子ども家庭支援の心理学」中央法規出版

【推薦書】授業内で紹介する

【参考図書】本郷一夫・神谷哲司編著「シードブック 子ども家庭支援の心理学」建帛社
大豆生田啓友・太田光洋・森上史朗編「よくわかる子育て支援・家庭支援論」ミネルヴァ書房

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

保育・教育心理学の内容を踏まえて授業を行いますので、保育・教育心理学の授業内容をよく復習して授業に臨んでください。

また、自分の意見をまとめて限られた時間内にそれを文章で表現することが苦手な場合には、本科目だけでなく、日ごろから自分で文章を書く練習をすることをお勧めします。

| | | | |
|---------|------------------|---------|-------|
| 科目名 | 子ども家庭福祉 | | |
| 担当教員名 | 鈴木 晴子 | | |
| ナンバリング | EAe1041 | | |
| 学 科 | 教育人文学部（E）-幼児教育学科 | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 1Aクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | 講義 | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

学科専門科目「生活と福祉」に位置づけられた学科卒業必修科目である。子どもや家庭をめぐる社会福祉の要素を学び、保育者として身につけるべき知識や技術を、自己課題に関わる考察を行う基盤となる学びを進める。「生活と福祉」の各科目において学ぶ各子ども家庭福祉の制度やサービス体系、関連性を提示し、各科目の基礎知識と理解につながる。

科目の概要

現代の子どもの育つ環境の実態について子ども家庭福祉の視点から具体的に学ぶことを通し、保育者としての子ども家庭福祉への見識を養うことを目指す。児童の権利に関する条約や保育者の専門性と役割について理解を深める。

授業の方法（AL含む）

本科目では、講義による解説を中心とし、関連する視聴教材も取り入れる。授業毎に所定の課題に取り組み、それに基づいた授業となる。毎回の授業ではリアクションペーパーを配布し、授業内容理解の確認を把握するので積極的に活用することを求める。【リアクションペーパー】【レポート（知識）】【ケースメソッド】【グループワーク】

学修目標

1. 子ども家庭福祉の歴史を知り、かつ、基本的知識を身につけ、説明できる。
2. 子どもと家庭への支援、児童福祉施設の現状を理解し、説明できる。
3. 児童の権利に関する条約を始めとした、子どもの権利擁護について理解を深め、説明できる。
4. 子ども家庭福祉の動向と展望について踏まえ、保育者に求められる職務や資質・技能を理解し、説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

- 5 保護者・地域・他の専門機関との連携の理解
- 1 子どもの人権尊重
- 3 社会的事象への関心

内容

この授業は講義による解説が中心となる。受講毎に所定の課題に取り組み、その解説を授業で確認する。【レポート（課題）】 また、適宜視聴教材を取り入れ、事例を検討する等のグループワークも行う。【ケースメソッド】【グループワーク】

】

1. 子ども家庭福祉とは～理念と概念～【グループワーク】
2. 日本の戦前戦後の子ども家庭福祉の歴史【ケースメソッド】
3. 日本との戦前戦後の子ども家庭福祉の歴史と権利擁護【ケースメソッド】
4. 世界の子ども家庭福祉の歴史と権利擁護
5. 子ども家庭福祉と児童福祉法
6. 児童福祉施設と専門職（社会的養護を中心に）
7. 児童福祉施設と専門職の実際【ケースメソッド】
8. 歴史と制度、実施体系について / 前半講義のまとめ
9. 児童福祉施設と専門職（障害のある子どもの支援を中心に）
10. 子ども家庭福祉の動向と幼保一体化
12. 保育・教育施設と幼保一体化【ケースメソッド】
13. 子ども家庭福祉の法体系と実施体制
14. 子ども家庭福祉の現状と展望
15. 子ども家庭福祉の現状と動向、展望 / 後半講義のまとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業では教科書1冊を学び終えることになる。授業資料は事前に提示する（主に、WEB-UP）。授業毎に提示する所定の課題に取り組み、受講する。所定の課題は毎授業開始時にコピーを提出することになる。（2時間半程度）

【事後学修】各授業終了後から次週までに、授業資料やノート、教科書から授業中に触れた内容を再確認し、知識を再確認する。また、関連する文献、情報等の確認を行う。（1時間半程度）

評価方法および評価の基準

授業毎リアクションペーパー（20点）、学修目標に関する課題（20点）、前半筆記試験（30点）、後半筆記試験（30点）とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行なう。

到達目標 1. 授業毎リアクションペーパー（4/20）、学修目標に関する課題（10/20）、筆記試験（15/60）

到達目標 2. 授業毎リアクションペーパー（4/20）、学修目標に関する課題（10/20）、筆記試験（15/60）

到達目標 3. 授業毎リアクションペーパー（4/20）、筆記試験（15/60）

到達目標 4. 授業毎リアクションペーパー（4/20）、筆記試験（15/60）

〔フィードバック〕授業毎リアクションペーパーは、翌週授業開始時にフィードバックを行う。学修目標に関する課題や筆記試験のフィードバックは実施後行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

〔教科書〕新・はじめて学ぶ社会福祉 児童家庭福祉論（第2版）（ミネルヴァ書房）、最新保育資料集2020（ミネルヴァ書房）、ひと目でわかる保育者のための児童家庭福祉データブック2020（中央法規）

〔参考書〕保育所保育指針解説書（フレーベル館）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（フレーベル館）、幼稚園教育要領解説（フレーベル館）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

子ども家庭福祉という言葉からあなたは何を連想するのでしょうか？15回の受講を終えて、どのようなことを考えるようになっていくのか。ご自身の成長を楽しみに、共に学びあいましょう。

| | | | |
|---------|------------------|---------|-------|
| 科目名 | 子ども家庭福祉 | | |
| 担当教員名 | 鈴木 晴子 | | |
| ナンバリング | EAe1041 | | |
| 学 科 | 教育人文学部（E）-幼児教育学科 | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 1Bクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | 講義 | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

学科専門科目「生活と福祉」に位置づけられた学科卒業必修科目である。子どもや家庭をめぐる社会福祉の要素を学び、保育者として身につけるべき知識や技術を、自己課題に関わる考察を行う基盤となる学びを進める。「生活と福祉」の各科目において学ぶ各子ども家庭福祉の制度やサービス体系、関連性を提示し、各科目の基礎知識と理解につながる。

科目の概要

現代の子どもの育つ環境の実態について子ども家庭福祉の視点から具体的に学ぶことを通し、保育者としての子ども家庭福祉への見識を養うことを目指す。児童の権利に関する条約や保育者の専門性と役割について理解を深める。

授業の方法（AL含む）

本科目では、講義による解説を中心とし、関連する視聴教材も取り入れる。授業毎に所定の課題に取り組み、それに基づいた授業となる。毎回の授業ではリアクションペーパーを配布し、授業内容理解の確認を把握するので積極的に活用することを求める。【リアクションペーパー】【レポート（知識）】【ケースメソッド】【グループワーク】

学修目標

1. 子ども家庭福祉の歴史を知り、かつ、基本的知識を身につけ、説明できる。
2. 子どもと家庭への支援、児童福祉施設の現状を理解し、説明できる。
3. 児童の権利に関する条約を始めとした、子どもの権利擁護について理解を深め、説明できる。
4. 子ども家庭福祉の動向と展望について踏まえ、保育者に求められる職務や資質・技能を理解し、説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

- 5 保護者・地域・他の専門機関との連携の理解
- 1 子どもの人権尊重
- 3 社会的事象への関心

内容

この授業は講義による解説が中心となる。受講毎に所定の課題に取り組み、その解説を授業で確認する。【レポート（課題）】 また、適宜視聴教材を取り入れ、事例を検討する等のグループワークも行う。【ケースメソッド】【グループワーク】

】

1. 子ども家庭福祉とは～理念と概念～【グループワーク】
2. 日本の戦前戦後の子ども家庭福祉の歴史【ケースメソッド】
3. 日本との戦前戦後の子ども家庭福祉の歴史と権利擁護【ケースメソッド】
4. 世界の子ども家庭福祉の歴史と権利擁護
5. 子ども家庭福祉と児童福祉法
6. 児童福祉施設と専門職（社会的養護を中心に）
7. 児童福祉施設と専門職の実際【ケースメソッド】
8. 歴史と制度、実施体系について / 前半講義のまとめ
9. 児童福祉施設と専門職（障害のある子どもの支援を中心に）
10. 子ども家庭福祉の動向と幼保一体化
12. 保育・教育施設と幼保一体化【ケースメソッド】
13. 子ども家庭福祉の法体系と実施体制
14. 子ども家庭福祉の現状と展望
15. 子ども家庭福祉の現状と動向、展望 / 後半講義のまとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業では教科書1冊を学び終えることになる。授業資料は事前に提示する（主に、WEB-UP）。授業毎に提示する所定の課題に取り組み、受講する。所定の課題は毎授業開始時にコピーを提出することになる。（2時間半程度）

【事後学修】各授業終了後から次週までに、授業資料やノート、教科書から授業中に触れた内容を再確認し、知識を再確認する。また、関連する文献、情報等の確認を行う。（1時間半程度）

評価方法および評価の基準

授業毎リアクションペーパー（20点）、学修目標に関する課題（20点）、前半筆記試験（30点）、後半筆記試験（30点）とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行なう。

到達目標 1. 授業毎リアクションペーパー（4/20）、学修目標に関する課題（10/20）、筆記試験（15/60）

到達目標 2. 授業毎リアクションペーパー（4/20）、学修目標に関する課題（10/20）、筆記試験（15/60）

到達目標 3. 授業毎リアクションペーパー（4/20）、筆記試験（15/60）

到達目標 4. 授業毎リアクションペーパー（4/20）、筆記試験（15/60）

〔フィードバック〕授業毎リアクションペーパーは、翌週授業開始時にフィードバックを行う。学修目標に関する課題や筆記試験のフィードバックは実施後行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

〔教科書〕新・はじめて学ぶ社会福祉 児童家庭福祉論（第2版）（ミネルヴァ書房）、最新保育資料集2020（ミネルヴァ書房）、ひと目でわかる保育者のための児童家庭福祉データブック2020（中央法規）

〔参考書〕保育所保育指針解説書（フレーベル館）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（フレーベル館）、幼稚園教育要領解説（フレーベル館）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

子ども家庭福祉という言葉からあなたは何を連想するのでしょうか？15回の受講を終えて、どのようなことを考えるようになってきているのか。ご自身の成長を楽しみに、共に学びあいましょう。

| | | | |
|---------|------------------|---------|-------|
| 科目名 | 社会福祉 | | |
| 担当教員名 | 潮谷 恵美 | | |
| ナンバリング | EAe1043 | | |
| 学 科 | 教育人文学部（E）-幼児教育学科 | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 2Aクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | 講義 | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格 本科目は学科専門科目「生活と福祉」に位置づけられている必修科目である。4年間で学ぶ福祉に関する基本的知識の理解や考察を求める。特に保育専門職として身につけるべき福祉知識や技術、自己の課題に関わる考察を行う基盤となる。科目の関連は「子ども家庭福祉」をはじめ「生活と福祉」の各科目において学ぶ各福祉領域の制度やサービスの体系や関連性を提示し、各科目の基礎知識理解につながるものである。

科目の概要 本講義では社会福祉の意義、歴史的展開、社会福祉の動向・課題を概観し（講義1.2）社会福祉と児童の人権や子ども家庭福祉における支援の視点、関連性について理解する（講義3.4）、そして、社会福祉の対象や基本的な制度、実施体系、相談援助、関わる専門職、利用者保護の仕組みなどについて理解を深め（講義5.6.7.8.9.10.11.12）、現在の社会福祉の動向と課題の考察、判断の根拠の提示（講義13）が可能になることを目的とする。

授業の方法（ALを含む）

本講義では提示されたテキスト内容や配布資料等を事前に確認し、講義内で理解できるように努力することを求める。さらに、ノート等を取り、基礎的な必要知識事項を確認し、考察することを求める。加えて、授業時間内に事例の検討、ワークシートに取り組みたり、少人数で課題について検討を行ったりする中で多面的な理解と考察を深められることを目指す。毎回の授業ではリアクションペーパーを配布し、授業内容理解の確認を把握するので積極的に活用すること。【ケースメソッド】【グループディスカッション】【リアクションペーパー】

到達目標

1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷、子ども家庭支援の視点について理解し、説明できる。2. 社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について理解し、課題を説明できる。3. 社会福祉の制度や実施体系等について理解し、説明できる。4. 社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解し、説明できる。5. 社会福祉の動向と課題について理解し、考察内容を記述できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-5保護者・地域・他の専門職との連携の理解、 -1子どもの人権尊重、 -3社会的事象への関心

内容

この授業は講義を基本に、ワークシートなどの活用、グループでの討議も採り入れながら学びを深める。授業毎にリアクションペーパーを活用する【リアクションペーパー】

| | |
|---|--|
| 1 | オリエンテーション 現代社会における社会福祉の意義、子ども家庭支援の視点【グループディスカッション】【リアクションペーパー】 |
|---|--|

| | |
|----|--|
| 2 | 現代社会における社会福祉、子ども家庭福祉の視点、歴史的展開 【ケースメソッド】【リアクションペーパー】 |
| 3 | 社会福祉と人権 (1) 社会福祉の理念 【ケースメソッド】【リアクションペーパー】 |
| 4 | 社会福祉と人権 (2) 社会福祉における権利擁護【ケースメソッド】【リアクションペーパー】 |
| 5 | 社会福祉の制度と実施体系 (1) 社会福祉の制度と法体系【リアクションペーパー】 |
| 6 | 社会福祉の制度と実施体系 (2) 社会福祉行財政と実施機関【リアクションペーパー】 |
| 7 | 社会福祉の制度と実施体系 (3) 社会福祉施設等とサービスの理解【ケースメソッド】 |
| 8 | 社会福祉の制度と実施体系 (4) 社会福祉の専門職・実施者【リアクションペーパー】 |
| 9 | 社会福祉の制度と実施体制 (5) 社会保障及び関連制度の概要【リアクションペーパー】 |
| 10 | 社会福祉における相談援助 (1) 相談援助の意義と原則 【リアクションペーパー】【グループディスカッション】 |
| 11 | 社会福祉における相談援助 (2) 相談援助の方法と技術【ケースメソッド】【リアクションペーパー】 |
| 12 | 社会福祉における相談援助 (3)社会福祉における利用者の保護にかかわる仕組み【リアクションペーパー】 |
| 13 | 社会福祉の動向と課題 1 【リアクションペーパー】 |
| 14 | 社会福祉の動向と課題 2 全体総括 【リアクションペーパー】 |
| 15 | まとめ |

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】子ども家庭福祉 で習得した知識、これまでの社会関連知識等を確認すること、各授業の前回内容の復習と今回の授業の箇所について理解できない点を調べる等を1時間半程度行う。【事後学修】各授業終了後次週まで、配布資料や、テキスト、ノートから授業中に触れた内容を再度確認し、知識としての整理学習内容を深めるために、関連文献、情報等の確認を2時間半程度行うこと。

評価方法および評価の基準

1から5の到達目標に対して、それぞれの評価はすべて課題レポート(授業内含む)30%、試験50%、授業態度(リアクションペーパー提出含む)20%の割合で行う。以上を総合し、60点以上を合格とする。合格点に達さなかった場合は「再試験」を行う。毎回の授業リアクションについて、次週にフィードバックを行う。課題レポート、試験のフィードバックは授業最終週に行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト】石田慎二・山縣文治編著「新・プリマーズ保育 福祉 社会福祉」ミネルヴァ書房
参考図書 必要に応じて随時講義内で示す。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

これまでの学習を踏まえて、新たな多くの専門知識の習得を目指す科目であるので、主体的、積極的な学習の取り組みを期待します。

| | | | |
|---------|------------------|---------|-------|
| 科目名 | 社会福祉 | | |
| 担当教員名 | 潮谷 恵美 | | |
| ナンバリング | EAe1043 | | |
| 学 科 | 教育人文学部（E）-幼児教育学科 | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 2Bクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | 講義 | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格 本科目は学科専門科目「生活と福祉」に位置づけられている必修科目である。4年間で学ぶ福祉に関する基本的知識の理解や考察を求める。特に保育専門職として身につけるべき福祉知識や技術、自己の課題に関わる考察を行う基盤となる。科目の関連は「子ども家庭福祉」をはじめ「生活と福祉」の各科目において学ぶ各福祉領域の制度やサービスの体系や関連性を提示し、各科目の基礎知識理解につながるものである。

科目の概要 本講義では社会福祉の意義、歴史的展開、社会福祉の動向・課題を概観し（講義1.2）社会福祉と児童の人権や子ども家庭福祉における支援の視点、関連性について理解する（講義3.4）、そして、社会福祉の対象や基本的な制度、実施体系、相談援助、関わる専門職、利用者保護の仕組みなどについて理解を深め（講義5.6.7.8.9.10.11.12）、現在の社会福祉の動向と課題の考察、判断の根拠の提示（講義13）が可能になることを目的とする。

授業の方法（ALを含む）

本講義では提示されたテキスト内容や配布資料等を事前に確認し、講義内で理解できるように努力することを求める。さらに、ノート等を取り、基礎的な必要知識事項を確認し、考察することを求める。加えて、授業時間内に事例の検討、ワークシートに取り組みたり、少人数で課題について検討を行ったりする中で多面的な理解と考察を深められることを目指す。毎回の授業ではリアクションペーパーを配布し、授業内容理解の確認を把握するので積極的に活用すること。【ケースメソッド】【グループディスカッション】【リアクションペーパー】

到達目標

1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷、子ども家庭支援の視点について理解し、説明できる。2. 社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について理解し、課題を説明できる。3. 社会福祉の制度や実施体系等について理解し、説明できる。4. 社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解し、説明できる。5. 社会福祉の動向と課題について理解し、考察内容を記述できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-5保護者・地域・他の専門職との連携の理解、 -1子どもの人権尊重、 -3社会的事象への関心

内容

この授業は講義を基本に、ワークシートなどの活用、グループでの討議も採り入れながら学びを深める。授業毎にリアクションペーパーを活用する【リアクションペーパー】

| | |
|---|--|
| 1 | オリエンテーション 現代社会における社会福祉の意義、子ども家庭支援の視点【グループディスカッション】【リアクションペーパー】 |
|---|--|

| | |
|----|--|
| 2 | 現代社会における社会福祉、子ども家庭福祉の視点、歴史的展開 【ケースメソッド】【リアクションペーパー】 |
| 3 | 社会福祉と人権 (1) 社会福祉の理念 【ケースメソッド】【リアクションペーパー】 |
| 4 | 社会福祉と人権 (2) 社会福祉における権利擁護【ケースメソッド】【リアクションペーパー】 |
| 5 | 社会福祉の制度と実施体系 (1) 社会福祉の制度と法体系【リアクションペーパー】 |
| 6 | 社会福祉の制度と実施体系 (2) 社会福祉行財政と実施機関【リアクションペーパー】 |
| 7 | 社会福祉の制度と実施体系 (3) 社会福祉施設等とサービスの理解【ケースメソッド】 |
| 8 | 社会福祉の制度と実施体系 (4) 社会福祉の専門職・実施者【リアクションペーパー】 |
| 9 | 社会福祉の制度と実施体制 (5) 社会保障及び関連制度の概要【リアクションペーパー】 |
| 10 | 社会福祉における相談援助 (1) 相談援助の意義と原則 【リアクションペーパー】【グループディスカッション】 |
| 11 | 社会福祉における相談援助 (2) 相談援助の方法と技術【ケースメソッド】【リアクションペーパー】 |
| 12 | 社会福祉における相談援助 (3)社会福祉における利用者の保護にかかわる仕組み【リアクションペーパー】 |
| 13 | 社会福祉の動向と課題 1 【リアクションペーパー】 |
| 14 | 社会福祉の動向と課題 2 全体総括 【リアクションペーパー】 |
| 15 | まとめ |

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】子ども家庭福祉 で習得した知識、これまでの社会関連知識等を確認すること、各授業の前回内容の復習と今回の授業の箇所について理解できない点を調べる等を1時間半程度行う。【事後学修】各授業終了後次週まで、配布資料や、テキスト、ノートから授業中に触れた内容を再度確認し、知識としての整理学習内容を深めるために、関連文献、情報等の確認を2時間半程度行うこと。

評価方法および評価の基準

1から5の到達目標に対して、それぞれの評価はすべて課題レポート(授業内含む)30%、試験50%、授業態度(リアクションペーパー提出含む)20%の割合で行う。以上を総合し、60点以上を合格とする。合格点に達さなかった場合は「再試験」を行う。毎回の授業リアクションについて、次週にフィードバックを行う。課題レポート、試験のフィードバックは授業最終週に行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト】石田慎二・山縣文治編著「新・プリマーズ保育 福祉 社会福祉」ミネルヴァ書房
参考図書 必要に応じて随時講義内で示す。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

これまでの学習を踏まえて、新たな多くの専門知識の習得を目指す科目であるので、主体的、積極的な学習の取り組みを期待します。

| | | | |
|---------|------------------|---------|-------|
| 科目名 | 児童保健学 | | |
| 担当教員名 | 加藤 則子 | | |
| ナンバリング | EAf1049 | | |
| 学 科 | 教育人文学部（E）-幼児教育学科 | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 2Aクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | 講義 | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

実務経験の有無

有り

実務経験および科目との関連性

小児科臨床現場の実務及び母子保健研究の実務経験が直接教科内容に関連する

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針1.3に対応する

子どもの健康増進や安全管理に関する知識と技術を習得する。母子・親子保健の視点を持ち、多様な角度からの対応できる応用力を身につける。

科目の概要

小児保健・母子保健の意義、子どもの発育・発達の特徴について学ぶ。また、日常の保育の中で、子どもの健康に関する支援について理解し、健康課題に対応できるよう学習する。子どもがかかりやすい病気や予防について学ぶとともに、保育中に体調不良になった子どもへの対応ができるように学習する。

講義中心に行うが、学習しやすいよう、練習問題なども取り入れ、理解の助けとする。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

- 1.小児保健の意義が説明できる。
- 2.子どもの発育・発達の特徴が説明できる。
- 3.子どもの発達課題に応じた対応法について説明できる。
- 4.子どもの疾病とその予防及び対応について説明できる。
- 5.保育中に子どもが体調不良になった時の対応を説明できる。
- 6.保育所と家族や地域との連携の在り方が説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1子どもの人権尊重
- 1子どもから学び、子どもとともに育つ姿勢
- 5問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

この授業は講義を基本に、リアクションペーパーによる積極的参加を取り入れながら、学びを深めていく。

- 1 乳児・幼児の発達と反射
- 2 母子健康手帳・母子保健サービス
- 3 乳児・幼児の発育と成長曲線
- 4 乳児・幼児健診 就学時検診
- 5 子どもの気になる行動
- 6 地域と家族・児童虐待の予防対応
- 7 歯科保健
- 8 皮膚の病気 アトピー性皮膚炎
- 9 感染症
- 10 予防接種
- 11 目の異常・耳鼻科疾患
- 12 呼吸器・ぜんそく
- 13 病気の予防と適切な対応
- 14 復習
- 15 まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各授業に関し事前にアップされた資料に記載された教科書の対応ページを読み、資料の最後にある小諮問に関連する事項をメモしておく。（各授業に対して30分）

【事後学修】授業で取り扱った事項に関し、教科書や参考資料に当たって確認し、理解を深める。（各授業に対して30分）

評価方法および評価の基準

【評価の方法と比率】

- 1.小児保健の意義が説明できる。試験5% 平常点5%
- 2.子どもの発育・発達の特徴が説明できる。試験5% 平常点10%
- 3.子どもの発達課題に応じた対応法について説明できる。試験10% 平常点10%
- 4.子どもの疾病とその予防及び対応について説明できる。試験10% 平常点10%
- 5.保育中に子どもが体調不良になった時の対応を説明できる。試験10% 平常点10%
- 6.保育所と家族や地域との連携の在り方が説明できる。試験5% 平常点10%

【フィードバック】リアクションペーパーに記載された質問や意見に毎回返答することにより、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】加藤則子 布施晴美編集 新保育ライブラリ シリーズ「子どもを知る」子どもの保健 北大路書房

【推薦書】

【参考図書】 巷野悟郎 編著 保育保健の基礎知識 日本小児医事出版社

授業用の資料をLiveCampusの授業共有ファイルにアップするので、予習に役立てる

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

| | | | |
|---------|------------------|---------|-------|
| 科目名 | 児童保健学 | | |
| 担当教員名 | 加藤 則子 | | |
| ナンバリング | EAf1049 | | |
| 学 科 | 教育人文学部（E）-幼児教育学科 | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 2Bクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | 講義 | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

実務経験の有無

有り

実務経験および科目との関連性

小児科臨床現場の実務及び母子保健研究の実務経験が直接教科内容に関連する

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針1.3に対応する

子どもの健康増進や安全管理に関する知識と技術を習得する。母子・親子保健の視点を持ち、多様な角度からの対応できる応用力を身につける。

科目の概要

小児保健・母子保健の意義、子どもの発育・発達の特徴について学ぶ。また、日常の保育の中で、子どもの健康に関する支援について理解し、健康課題に対応できるよう学習する。子どもがかかりやすい病気や予防について学ぶとともに、保育中に体調不良になった子どもへの対応ができるように学習する。

講義中心に行うが、学習しやすいよう、練習問題なども取り入れ、理解の助けとする。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

- 1.小児保健の意義が説明できる。
- 2.子どもの発育・発達の特徴が説明できる。
- 3.子どもの発達課題に応じた対応法について説明できる。
- 4.子どもの疾病とその予防及び対応について説明できる。
- 5.保育中に子どもが体調不良になった時の対応を説明できる。
- 6.保育所と家族や地域との連携の在り方が説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1子どもの人権尊重
- 1子どもから学び、子どもとともに育つ姿勢
- 5問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

この授業は講義を基本に、リアクションペーパーによる積極的参加を取り入れながら、学びを深めていく。

- 1 乳児・幼児の発達と反射
- 2 母子健康手帳・母子保健サービス
- 3 乳児・幼児の発育と成長曲線
- 4 乳児・幼児健診 就学時検診
- 5 子どもの気になる行動
- 6 地域と家族・児童虐待の予防対応
- 7 歯科保健
- 8 皮膚の病気 アトピー性皮膚炎
- 9 感染症
- 10 予防接種
- 11 目の異常・耳鼻科疾患
- 12 呼吸器・ぜんそく
- 13 病気の予防と適切な対応
- 14 復習
- 15 まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各授業に関し事前にアップされた資料に記載された教科書の対応ページを読み、資料の最後にある小諮問に関連する事項をメモしておく。（各授業に対して30分）

【事後学修】授業で取り扱った事項に関し、教科書や参考資料に当たって確認し、理解を深める。（各授業に対して30分）

評価方法および評価の基準

【評価の方法と比率】

- 1.小児保健の意義が説明できる。試験5% 平常点5%
- 2.子どもの発育・発達の特徴が説明できる。試験5% 平常点10%
- 3.子どもの発達課題に応じた対応法について説明できる。試験10% 平常点10%
- 4.子どもの疾病とその予防及び対応について説明できる。試験10% 平常点10%
- 5.保育中に子どもが体調不良になった時の対応を説明できる。試験10% 平常点10%
- 6.保育所と家族や地域との連携の在り方が説明できる。試験5% 平常点10%

【フィードバック】リアクションペーパーに記載された質問や意見に毎回返答することにより、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】加藤則子 布施晴美編集 新保育ライブラリ シリーズ「子どもを知る」子どもの保健 北大路書房

【推薦書】

【参考図書】 巷野悟郎 編著 保育保健の基礎知識 日本小児医事出版社

授業用の資料をLiveCampusの授業共有ファイルにアップするので、予習に役立てる

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

| | | | |
|---------|-------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽表現基礎技能 | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子、山賀 英美 | | |
| ナンバリング | EAg1056 | | |
| 学 科 | 教育人文学部（E）- 幼児教育学科 | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 01 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | 演習 | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は幼稚園教諭、保育士を目指す人にとって欠かせない音楽上の基礎知識や技能を学ぶものである。2, 3年次開講の「音楽表現応用」に引き継がれ、3年次開講の「保育内容の指導法（音楽表現）」の受講に必要となる基礎的内容を扱うので強く履修を勧める。

科目の概要

楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な理論を学びながら、保育者として身に付けておきたいピアノ演奏の基礎技術習得を目指す。入学時ピアノ未経験者もバイエルピアノ教則本を修了し、子どもの歌を弾き歌いできる力をつけることが単位認定の必須要件である。

授業の方法（ALを含む）

授業はML教室での理論的学びと一人ひとりに対応したピアノレッスンを組み合わせた形で行われる。授業の半分の時間をMLでピアノを弾きながら楽典、和声理論、子どもの歌の伴奏法を学び、もう半分の時間は各レッスングループ（3~4名）がお互いのレッスンを見学しながら一人ひとりレッスンを受ける。レッスン曲はバイエルピアノ教本を基本とし、経験値に応じた課題曲を課す。授業のまとめとして、理論の筆記試験とピアノの実技試験が行われる。【実技】

到達目標

1. 子どもと音楽活動を行う際に必要となってくるピアノ演奏ができる。
2. 音楽の基礎的な理論を理解し、子どもの歌の特徴を分析できる。
3. 自身の演奏能力に応じたアレンジをして弾き歌いすることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3保育実践、 -4保育者の感性、 -5問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

授業一コマを半分の45分ずつに分け、レッスン室での学びとMLでの学びを組み合わせる。

各レッスン室には3~4人がグループとなり、公開レッスンのようにお互いのレッスンを聞きあい、お互いに学びあう。

レッスンを受ける曲目は、原則バイエルピアノ教則本から指定された曲とし、それぞれ履修者のピアノ演奏技量に応じて選曲される。バイエルピアノ教則本修了者に対してはレッスン担当教員より、課題曲が示される。

ML教室では楽譜を読み、歌い、弾くために必要な基本的な音楽理論を、実際に演奏しながら、鍵盤を使いながら学習する。さらに子どもの歌に見られるリズムや和声について理解し、自身の演奏力に応じたアレンジを自らできるような力を習得する。教科書を使ってドリルを繰り返し、音楽のしくみについて理解する。

授業14回目に授業のまとめとしてML教室での学びに関する筆記試験が、15回目に実技のまとめとしてピアノの実技試験が行われる。実技試験に関しては、バイエルピアノ教則本修了者はバイエルピアノ教則本の中から指定された曲を弾く。バイエルピアノ教則本修了程度以上の者は担当教員と決定した試験曲を弾く。ピアノ課題以外に子どもの歌の弾き歌いが課せられることがある。

(留意事項)

- ・本科目は後期開講科目なので、ピアノの演奏技術の習得としては、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエル修了程度の演奏力を身につけるために、前期の間に学習を進め、60番くらいまで弾けるようにしておくことが望ましい。
- ・バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れば可能である。またピアノ初心者に対し対策講座など開かれるので積極的に参加すること。
- ・バイエルピアノ教則本修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエルピアノ教則本修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。
- ・経験者は、前期は自習してレベルを保つことに努め、授業での課題は担当の教員と授業の最初に相談し決定して進めていく。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指示された課題曲を練習し、弾けるようにする。MLでの学習課題を予習する。(約1時間)

【事後学修】学習した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。理論の課題を復習する。(ピアノは少しの時間でもよいので毎日練習する。次の授業までトータルで少なくとも2~3時間は練習する。)

評価方法および評価の基準

評価は、授業への参加度(10%)、到達目標2は筆記試験(30%)、到達目標1と3は実技試験(60%)を目安に総合的に判断される。

欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、試験受験は不可とする。

筆記試験、実技試験とも合格点に達しなかった場合は再試験を行う場合がある。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

- ・バイエルを修了していない学生:「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
- ・バイエル修了者:担当教員と相談の上決定。(全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から選曲する。)
- ・二宮紀子「歌って弾いて書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ」音楽之友社 2014年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

保育現場で求められる子どもの歌のピアノ伴奏やリズム活動でのピアノ演奏ができる力を身につけましょう。楽譜が読め、音楽の仕組みを理解し、基本的なピアノ奏法を学んで、子ども達と音楽活動ができる力をつけましょう。毎日の練習が大きな成果をもたらします。少しずつでも毎日練習しましょう。理論は演奏を助けるものとして位置付けています。理論と実践を両輪に総合的に学び、音楽する力を養いましょう。

| | | | |
|---------|-------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽表現基礎技能 | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子、矢部 尚子 | | |
| ナンバリング | EAg1056 | | |
| 学 科 | 教育人文学部（E）- 幼児教育学科 | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 02 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | 演習 | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は幼稚園教諭、保育士を目指す人にとって欠かせない音楽上の基礎知識や技能を学ぶものである。2, 3年次開講の「音楽表現応用」に引き継がれ、3年次開講の「保育内容の指導法（音楽表現）」の受講に必要となる基礎的内容を扱うので強く履修を勧める。

科目の概要

楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な理論を学びながら、保育者として身に付けておきたいピアノ演奏の基礎技術習得を目ざす。入学時ピアノ未経験者もバイエルピアノ教則本を修了し、子どもの歌を弾き歌いできる力をつけることが単位認定の必須要件である。

授業の方法（ALを含む）

授業はML教室での理論的学びと一人ひとりに対応したピアノレッスンを組み合わせた形で行われる。授業の半分の時間をMLでピアノを弾きながら楽典、和声理論、子どもの歌の伴奏法を学び、もう半分の時間は各レッスングループ（3~4名）がお互いのレッスンを見学しながら一人ひとりレッスンを受ける。レッスン曲はバイエルピアノ教本を基本とし、経験値に応じた課題曲を課す。授業のまとめとして、理論の筆記試験とピアノの実技試験が行われる。【実技】

到達目標

1. 子どもと音楽活動を行う際に必要となってくるピアノ演奏ができる。
2. 音楽の基礎的な理論を理解し、子どもの歌の特徴を分析できる。
3. 自身の演奏能力に応じたアレンジをして弾き歌いすることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3保育実践、 -4保育者の感性、 -5問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

授業一コマを半分の45分ずつに分け、レッスン室での学びとMLでの学びを組み合わせる。

各レッスン室には3~4人がグループとなり、公開レッスンのようにお互いのレッスンを聞きあい、お互いに学びあう。

レッスンを受ける曲目は、原則バイエルピアノ教則本から指定された曲とし、それぞれ履修者のピアノ演奏技量に応じて選曲される。バイエルピアノ教則本修了者に対してはレッスン担当教員より、課題曲が示される。

ML教室では楽譜を読み、歌い、弾くために必要な基本的な音楽理論を、実際に演奏しながら、鍵盤を使いながら学習する。さらに子どもの歌に見られるリズムや和声について理解し、自身の演奏力に応じたアレンジを自らできるような力を習得する。教科書を使ってドリルを繰り返し、音楽のしくみについて理解する。

授業14回目に授業のまとめとしてML教室での学びに関する筆記試験が、15回目に実技のまとめとしてピアノの実技試験が行われる。実技試験に関しては、バイエルピアノ教則本修了者はバイエルピアノ教則本の中から指定された曲を弾く。バイエルピアノ教則本修了程度以上の者は担当教員と決定した試験曲を弾く。ピアノ課題以外に子どもの歌の弾き歌いが課せられることがある。

(留意事項)

- ・本科目は後期開講科目なので、ピアノの演奏技術の習得としては、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエル修了程度の演奏力を身につけるために、前期の間に学習を進め、60番くらいまで弾けるようにしておくことが望ましい。
- ・バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れば可能である。またピアノ初心者に対し対策講座など開かれるので積極的に参加すること。
- ・バイエルピアノ教則本修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエルピアノ教則本修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。
- ・経験者は、前期は自習してレベルを保つことに努め、授業での課題は担当の教員と授業の最初に相談し決定して進めていく。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指示された課題曲を練習し、弾けるようにする。MLでの学習課題を予習する。(約1時間)

【事後学修】学習した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。理論の課題を復習する。(ピアノは少しの時間でもよいので毎日練習する。次の授業までトータルで少なくとも2~3時間は練習する。)

評価方法および評価の基準

評価は、授業への参加度(10%)、到達目標2は筆記試験(30%)、到達目標1と3は実技試験(60%)を目安に総合的に判断される。

欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、試験受験は不可とする。

筆記試験、実技試験とも合格点に達しなかった場合は再試験を行う場合がある。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

- ・バイエルを修了していない学生:「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
- ・バイエル修了者:担当教員と相談の上決定。(全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から選曲する。)
- ・二宮紀子「歌って弾いて書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ」音楽之友社 2014年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

保育現場で求められる子どもの歌のピアノ伴奏やリズム活動でのピアノ演奏ができる力を身につけましょう。楽譜が読め、音楽の仕組みを理解し、基本的なピアノ奏法を学んで、子ども達と音楽活動ができる力をつけましょう。毎日の練習が大きな成果をもたらします。少しずつでも毎日練習しましょう。理論は演奏を助けるものとして位置付けています。理論と実践を両輪に総合的に学び、音楽する力を養いましょう。

| | | | |
|---------|-------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽表現基礎技能 | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子、浜野 範子 | | |
| ナンバリング | EAg1056 | | |
| 学 科 | 教育人文学部（E）- 幼児教育学科 | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 03 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | 演習 | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は幼稚園教諭、保育士を目指す人にとって欠かせない音楽上の基礎知識や技能を学ぶものである。2, 3年次開講の「音楽表現応用」に引き継がれ、3年次開講の「保育内容の指導法（音楽表現）」の受講に必要となる基礎的内容を扱うので強く履修を勧める。

科目の概要

楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な理論を学びながら、保育者として身に付けておきたいピアノ演奏の基礎技術習得を目指す。入学時ピアノ未経験者もバイエルピアノ教則本を修了し、子どもの歌を弾き歌いできる力をつけることが単位認定の必須要件である。

授業の方法（ALを含む）

授業はML教室での理論的学びと一人ひとりに対応したピアノレッスンを組み合わせた形で行われる。授業の半分の時間をMLでピアノを弾きながら楽典、和声理論、子どもの歌の伴奏法を学び、もう半分の時間は各レッスングループ（3~4名）がお互いのレッスンを見学しながら一人ひとりレッスンを受ける。レッスン曲はバイエルピアノ教本を基本とし、経験値に応じた課題曲を課す。授業のまとめとして、理論の筆記試験とピアノの実技試験が行われる。【実技】

到達目標

1. 子どもと音楽活動を行う際に必要となってくるピアノ演奏ができる。
2. 音楽の基礎的な理論を理解し、子どもの歌の特徴を分析できる。
3. 自身の演奏能力に応じたアレンジをして弾き歌いすることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3保育実践、 -4保育者の感性、 -5問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

授業一コマを半分の45分ずつに分け、レッスン室での学びとMLでの学びを組み合わせる。

各レッスン室には3~4人がグループとなり、公開レッスンのようにお互いのレッスンを聞きあい、お互いに学びあう。

レッスンを受ける曲目は、原則バイエルピアノ教則本から指定された曲とし、それぞれ履修者のピアノ演奏技量に応じて選曲される。バイエルピアノ教則本修了者に対してはレッスン担当教員より、課題曲が示される。

ML教室では楽譜を読み、歌い、弾くために必要な基本的な音楽理論を、実際に演奏しながら、鍵盤を使いながら学習する。さらに子どもの歌に見られるリズムや和声について理解し、自身の演奏力に応じたアレンジを自らできるような力を習得する。教科書を使ってドリルを繰り返し、音楽のしくみについて理解する。

授業14回目に授業のまとめとしてML教室での学びに関する筆記試験が、15回目に実技のまとめとしてピアノの実技試験が行われる。実技試験に関しては、バイエルピアノ教則本修了者はバイエルピアノ教則本の中から指定された曲を弾く。バイエルピアノ教則本修了程度以上の者は担当教員と決定した試験曲を弾く。ピアノ課題以外に子どもの歌の弾き歌いが課せられることがある。

(留意事項)

- ・本科目は後期開講科目なので、ピアノの演奏技術の習得としては、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエル修了程度の演奏力を身につけるために、前期の間に学習を進め、60番くらいまで弾けるようにしておくことが望ましい。
- ・バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れれば可能である。またピアノ初心者に対し対策講座など開かれるので積極的に参加すること。
- ・バイエルピアノ教則本修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエルピアノ教則本修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。
- ・経験者は、前期は自習してレベルを保つことに努め、授業での課題は担当の教員と授業の最初に相談し決定して進めていく。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指示された課題曲を練習し、弾けるようにする。MLでの学習課題を予習する。(約1時間)

【事後学修】学習した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。理論の課題を復習する。(ピアノは少しの時間でもよいので毎日練習する。次の授業までトータルで少なくとも2~3時間は練習する。)

評価方法および評価の基準

評価は、授業への参加度(10%)、到達目標2は筆記試験(30%)、到達目標1と3は実技試験(60%)を目安に総合的に判断される。

欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、試験受験は不可とする。

筆記試験、実技試験とも合格点に達しなかった場合は再試験を行う場合がある。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

- ・バイエルを修了していない学生:「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
- ・バイエル修了者:担当教員と相談の上決定。(全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から選曲する。)
- ・二宮紀子「歌って弾いて書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ」音楽之友社 2014年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

保育現場で求められる子どもの歌のピアノ伴奏やリズム活動でのピアノ演奏ができる力を身につけましょう。楽譜が読め、音楽の仕組みを理解し、基本的なピアノ奏法を学んで、子ども達と音楽活動ができる力をつけましょう。毎日の練習が大きな成果をもたらします。少しずつでも毎日練習しましょう。理論は演奏を助けるものとして位置付けています。理論と実践を両輪に総合的に学び、音楽する力を養いましょう。

| | | | |
|---------|-------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽表現基礎技能 | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子、清水 真理子 | | |
| ナンバリング | EAg1056 | | |
| 学 科 | 教育人文学部（E）- 幼児教育学科 | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 04 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | 演習 | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は幼稚園教諭、保育士を目指す人にとって欠かせない音楽上の基礎知識や技能を学ぶものである。2, 3年次開講の「音楽表現応用」に引き継がれ、3年次開講の「保育内容の指導法（音楽表現）」の受講に必要となる基礎的内容を扱うので強く履修を勧める。

科目の概要

楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な理論を学びながら、保育者として身に付けておきたいピアノ演奏の基礎技術習得を目指す。入学時ピアノ未経験者もバイエルピアノ教則本を修了し、子どもの歌を弾き歌いできる力をつけることが単位認定の必須要件である。

授業の方法（ALを含む）

授業はML教室での理論的学びと一人ひとりに対応したピアノレッスンを組み合わせた形で行われる。授業の半分の時間をMLでピアノを弾きながら楽典、和声理論、子どもの歌の伴奏法を学び、もう半分の時間は各レッスングループ（3~4名）がお互いのレッスンを見学しながら一人ひとりレッスンを受ける。レッスン曲はバイエルピアノ教本を基本とし、経験値に応じた課題曲を課す。授業のまとめとして、理論の筆記試験とピアノの実技試験が行われる。【実技】

到達目標

1. 子どもと音楽活動を行う際に必要となってくるピアノ演奏ができる。
2. 音楽の基礎的な理論を理解し、子どもの歌の特徴を分析できる。
3. 自身の演奏能力に応じたアレンジをして弾き歌いすることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3保育実践、 -4保育者の感性、 -5問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

授業一コマを半分の45分ずつに分け、レッスン室での学びとMLでの学びを組み合わせる。

各レッスン室には3~4人がグループとなり、公開レッスンのようにお互いのレッスンを聞きあい、お互いに学びあう。

レッスンを受ける曲目は、原則バイエルピアノ教則本から指定された曲とし、それぞれ履修者のピアノ演奏技量に応じて選曲される。バイエルピアノ教則本修了者に対してはレッスン担当教員より、課題曲が示される。

ML教室では楽譜を読み、歌い、弾くために必要な基本的な音楽理論を、実際に演奏しながら、鍵盤を使いながら学習する。さらに子どもの歌に見られるリズムや和声について理解し、自身の演奏力に応じたアレンジを自らできるような力を習得する。教科書を使ってドリルを繰り返し、音楽のしくみについて理解する。

授業14回目に授業のまとめとしてML教室での学びに関する筆記試験が、15回目に実技のまとめとしてピアノの実技試験が行われる。実技試験に関しては、バイエルピアノ教則本修了者はバイエルピアノ教則本の中から指定された曲を弾く。バイエルピアノ教則本修了程度以上の者は担当教員と決定した試験曲を弾く。ピアノ課題以外に子どもの歌の弾き歌いが課せられることがある。

(留意事項)

- ・本科目は後期開講科目なので、ピアノの演奏技術の習得としては、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエル修了程度の演奏力を身につけるために、前期の間に学習を進め、60番くらいまで弾けるようにしておくことが望ましい。
- ・バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れば可能である。またピアノ初心者に対し対策講座など開かれるので積極的に参加すること。
- ・バイエルピアノ教則本修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエルピアノ教則本修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。
- ・経験者は、前期は自習してレベルを保つことに努め、授業での課題は担当の教員と授業の最初に相談し決定して進めていく。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指示された課題曲を練習し、弾けるようにする。MLでの学習課題を予習する。(約1時間)

【事後学修】学習した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。理論の課題を復習する。(ピアノは少しの時間でもよいので毎日練習する。次の授業までトータルで少なくとも2~3時間は練習する。)

評価方法および評価の基準

評価は、授業への参加度(10%)、到達目標2は筆記試験(30%)、到達目標1と3は実技試験(60%)を目安に総合的に判断される。

欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、試験受験は不可とする。

筆記試験、実技試験とも合格点に達しなかった場合は再試験を行う場合がある。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

- ・バイエルを修了していない学生:「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
- ・バイエル修了者:担当教員と相談の上決定。(全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から選曲する。)
- ・二宮紀子「歌って弾いて書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ」音楽之友社 2014年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

保育現場で求められる子どもの歌のピアノ伴奏やリズム活動でのピアノ演奏ができる力を身につけましょう。楽譜が読め、音楽の仕組みを理解し、基本的なピアノ奏法を学んで、子ども達と音楽活動ができる力をつけましょう。毎日の練習が大きな成果をもたらします。少しずつでも毎日練習しましょう。理論は演奏を助けるものとして位置付けています。理論と実践を両輪に総合的に学び、音楽する力を養いましょう。

| | | | |
|---------|-------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽表現基礎技能 | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子、市川 節子 | | |
| ナンバリング | EAg1056 | | |
| 学 科 | 教育人文学部（E）- 幼児教育学科 | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 05 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | 演習 | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は幼稚園教諭、保育士を目指す人にとって欠かせない音楽上の基礎知識や技能を学ぶものである。2, 3年次開講の「音楽表現応用」に引き継がれ、3年次開講の「保育内容の指導法（音楽表現）」の受講に必要となる基礎的内容を扱うので強く履修を勧める。

科目の概要

楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な理論を学びながら、保育者として身に付けておきたいピアノ演奏の基礎技術習得を目ざす。入学時ピアノ未経験者もバイエルピアノ教則本を修了し、子どもの歌を弾き歌いできる力をつけることが単位認定の必須要件である。

授業の方法（ALを含む）

授業はML教室での理論的学びと一人ひとりに対応したピアノレッスンを組み合わせた形で行われる。授業の半分の時間をMLでピアノを弾きながら楽典、和声理論、子どもの歌の伴奏法を学び、もう半分の時間は各レッスングループ（3~4名）がお互いのレッスンを見学しながら一人ひとりレッスンを受ける。レッスン曲はバイエルピアノ教本を基本とし、経験値に応じた課題曲を課す。授業のまとめとして、理論の筆記試験とピアノの実技試験が行われる。【実技】

到達目標

1. 子どもと音楽活動を行う際に必要となってくるピアノ演奏ができる。
2. 音楽の基礎的な理論を理解し、子どもの歌の特徴を分析できる。
3. 自身の演奏能力に応じたアレンジをして弾き歌いすることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3保育実践、 -4保育者の感性、 -5問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

授業一コマを半分の45分ずつに分け、レッスン室での学びとMLでの学びを組み合わせる。

各レッスン室には3~4人がグループとなり、公開レッスンのようにお互いのレッスンを聞きあい、お互いに学びあう。

レッスンを受ける曲目は、原則バイエルピアノ教則本から指定された曲とし、それぞれ履修者のピアノ演奏技量に応じて選曲される。バイエルピアノ教則本修了者に対してはレッスン担当教員より、課題曲が示される。

ML教室では楽譜を読み、歌い、弾くために必要な基本的な音楽理論を、実際に演奏しながら、鍵盤を使いながら学習する。さらに子どもの歌に見られるリズムや和声について理解し、自身の演奏力に応じたアレンジを自らできるような力を習得する。教科書を使ってドリルを繰り返し、音楽のしくみについて理解する。

授業14回目に授業のまとめとしてML教室での学びに関する筆記試験が、15回目に実技のまとめとしてピアノの実技試験が行われる。実技試験に関しては、バイエルピアノ教則本修了者はバイエルピアノ教則本の中から指定された曲を弾く。バイエルピアノ教則本修了程度以上の者は担当教員と決定した試験曲を弾く。ピアノ課題以外に子どもの歌の弾き歌いが課せられることがある。

(留意事項)

- ・本科目は後期開講科目なので、ピアノの演奏技術の習得としては、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエル修了程度の演奏力を身につけるために、前期の間に学習を進め、60番くらいまで弾けるようにしておくことが望ましい。
- ・バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れれば可能である。またピアノ初心者に対し対策講座など開かれるので積極的に参加すること。
- ・バイエルピアノ教則本修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエルピアノ教則本修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。
- ・経験者は、前期は自習してレベルを保つことに努め、授業での課題は担当の教員と授業の最初に相談し決定して進めていく。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指示された課題曲を練習し、弾けるようにする。MLでの学習課題を予習する。(約1時間)

【事後学修】学習した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。理論の課題を復習する。(ピアノは少しの時間でもよいので毎日練習する。次の授業までトータルで少なくとも2~3時間は練習する。)

評価方法および評価の基準

評価は、授業への参加度(10%)、到達目標2は筆記試験(30%)、到達目標1と3は実技試験(60%)を目安に総合的に判断される。

欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、試験受験は不可とする。

筆記試験、実技試験とも合格点に達しなかった場合は再試験を行う場合がある。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

- ・バイエルを修了していない学生:「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
- ・バイエル修了者:担当教員と相談の上決定。(全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から選曲する。)
- ・二宮紀子「歌って弾いて書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ」音楽之友社 2014年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

保育現場で求められる子どもの歌のピアノ伴奏やリズム活動でのピアノ演奏ができる力を身につけましょう。楽譜が読め、音楽の仕組みを理解し、基本的なピアノ奏法を学んで、子ども達と音楽活動ができる力をつけましょう。毎日の練習が大きな成果をもたらします。少しずつでも毎日練習しましょう。理論は演奏を助けるものとして位置付けています。理論と実践を両輪に総合的に学び、音楽する力を養いましょう。

| | | | |
|---------|-------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽表現基礎技能 | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子、藪崎 伸一郎 | | |
| ナンバリング | EAg1056 | | |
| 学 科 | 教育人文学部（E）- 幼児教育学科 | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 06 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | 演習 | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は幼稚園教諭、保育士を目指す人にとって欠かせない音楽上の基礎知識や技能を学ぶものである。2, 3年次開講の「音楽表現応用」に引き継がれ、3年次開講の「保育内容の指導法（音楽表現）」の受講に必要となる基礎的内容を扱うので強く履修を勧める。

科目の概要

楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な理論を学びながら、保育者として身に付けておきたいピアノ演奏の基礎技術習得を目指す。入学時ピアノ未経験者もバイエルピアノ教則本を修了し、子どもの歌を弾き歌いできる力をつけることが単位認定の必須要件である。

授業の方法（ALを含む）

授業はML教室での理論的学びと一人ひとりに対応したピアノレッスンを組み合わせた形で行われる。授業の半分の時間をMLでピアノを弾きながら楽典、和声理論、子どもの歌の伴奏法を学び、もう半分の時間は各レッスングループ（3~4名）がお互いのレッスンを見学しながら一人ひとりレッスンを受ける。レッスン曲はバイエルピアノ教本を基本とし、経験値に応じた課題曲を課す。授業のまとめとして、理論の筆記試験とピアノの実技試験が行われる。【実技】

到達目標

1. 子どもと音楽活動を行う際に必要となってくるピアノ演奏ができる。
2. 音楽の基礎的な理論を理解し、子どもの歌の特徴を分析できる。
3. 自身の演奏能力に応じたアレンジをして弾き歌いすることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3保育実践、 -4保育者の感性、 -5問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

授業一コマを半分の45分ずつに分け、レッスン室での学びとMLでの学びを組み合わせる。

各レッスン室には3~4人がグループとなり、公開レッスンのようにお互いのレッスンを聞きあい、お互いに学びあう。

レッスンを受ける曲目は、原則バイエルピアノ教則本から指定された曲とし、それぞれ履修者のピアノ演奏技量に応じて選曲される。バイエルピアノ教則本修了者に対してはレッスン担当教員より、課題曲が示される。

ML教室では楽譜を読み、歌い、弾くために必要な基本的な音楽理論を、実際に演奏しながら、鍵盤を使いながら学習する。さらに子どもの歌に見られるリズムや和声について理解し、自身の演奏力に応じたアレンジを自らできるような力を習得する。教科書を使ってドリルを繰り返し、音楽のしくみについて理解する。

授業14回目に授業のまとめとしてML教室での学びに関する筆記試験が、15回目に実技のまとめとしてピアノの実技試験が行われる。実技試験に関しては、バイエルピアノ教則本修了者はバイエルピアノ教則本の中から指定された曲を弾く。バイエルピアノ教則本修了程度以上の者は担当教員と決定した試験曲を弾く。ピアノ課題以外に子どもの歌の弾き歌いが課せられることがある。

(留意事項)

- ・本科目は後期開講科目なので、ピアノの演奏技術の習得としては、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエル修了程度の演奏力を身につけるために、前期の間に学習を進め、60番くらいまで弾けるようにしておくことが望ましい。
- ・バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れれば可能である。またピアノ初心者に対し対策講座など開かれるので積極的に参加すること。
- ・バイエルピアノ教則本修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエルピアノ教則本修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。
- ・経験者は、前期は自習してレベルを保つことに努め、授業での課題は担当の教員と授業の最初に相談し決定して進めていく。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指示された課題曲を練習し、弾けるようにする。MLでの学習課題を予習する。(約1時間)

【事後学修】学習した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。理論の課題を復習する。(ピアノは少しの時間でもよいので毎日練習する。次の授業までトータルで少なくとも2~3時間は練習する。)

評価方法および評価の基準

評価は、授業への参加度(10%)、到達目標2は筆記試験(30%)、到達目標1と3は実技試験(60%)を目安に総合的に判断される。

欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、試験受験は不可とする。

筆記試験、実技試験とも合格点に達しなかった場合は再試験を行う場合がある。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

- ・バイエルを修了していない学生:「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
- ・バイエル修了者:担当教員と相談の上決定。(全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から選曲する。)
- ・二宮紀子「歌って弾いて書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ」音楽之友社 2014年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

保育現場で求められる子どもの歌のピアノ伴奏やリズム活動でのピアノ演奏ができる力を身につけましょう。楽譜が読め、音楽の仕組みを理解し、基本的なピアノ奏法を学んで、子ども達と音楽活動ができる力をつけましょう。毎日の練習が大きな成果をもたらします。少しずつでも毎日練習しましょう。理論は演奏を助けるものとして位置付けています。理論と実践を両輪に総合的に学び、音楽する力を養いましょう。

| | | | |
|---------|-------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽表現基礎技能 | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子、山賀 英美 | | |
| ナンバリング | EAg1056 | | |
| 学 科 | 教育人文学部（E）- 幼児教育学科 | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 07 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | 演習 | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は幼稚園教諭、保育士を目指す人にとって欠かせない音楽上の基礎知識や技能を学ぶものである。2, 3年次開講の「音楽表現応用」に引き継がれ、3年次開講の「保育内容の指導法（音楽表現）」の受講に必要となる基礎的内容を扱うので強く履修を勧める。

科目の概要

楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な理論を学びながら、保育者として身に付けておきたいピアノ演奏の基礎技術習得を目指す。入学時ピアノ未経験者もバイエルピアノ教則本を修了し、子どもの歌を弾き歌いできる力をつけることが単位認定の必須要件である。

授業の方法（ALを含む）

授業はML教室での理論的学びと一人ひとりに対応したピアノレッスンを組み合わせた形で行われる。授業の半分の時間をMLでピアノを弾きながら楽典、和声理論、子どもの歌の伴奏法を学び、もう半分の時間は各レッスングループ（3~4名）がお互いのレッスンを見学しながら一人ひとりレッスンを受ける。レッスン曲はバイエルピアノ教本を基本とし、経験値に応じた課題曲を課す。授業のまとめとして、理論の筆記試験とピアノの実技試験が行われる。【実技】

到達目標

1. 子どもと音楽活動を行う際に必要となってくるピアノ演奏ができる。
2. 音楽の基礎的な理論を理解し、子どもの歌の特徴を分析できる。
3. 自身の演奏能力に応じたアレンジをして弾き歌いすることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3保育実践、 -4保育者の感性、 -5問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

授業一コマを半分の45分ずつに分け、レッスン室での学びとMLでの学びを組み合わせる。

各レッスン室には3~4人がグループとなり、公開レッスンのようにお互いのレッスンを聞きあい、お互いに学びあう。

レッスンを受ける曲目は、原則バイエルピアノ教則本から指定された曲とし、それぞれ履修者のピアノ演奏技量に応じて選曲される。バイエルピアノ教則本修了者に対してはレッスン担当教員より、課題曲が示される。

ML教室では楽譜を読み、歌い、弾くために必要な基本的な音楽理論を、実際に演奏しながら、鍵盤を使いながら学習する。さらに子どもの歌に見られるリズムや和声について理解し、自身の演奏力に応じたアレンジを自らできるような力を習得する。教科書を使ってドリルを繰り返し、音楽のしくみについて理解する。

授業14回目に授業のまとめとしてML教室での学びに関する筆記試験が、15回目に実技のまとめとしてピアノの実技試験が行われる。実技試験に関しては、バイエルピアノ教則本修了者はバイエルピアノ教則本の中から指定された曲を弾く。バイエルピアノ教則本修了程度以上の者は担当教員と決定した試験曲を弾く。ピアノ課題以外に子どもの歌の弾き歌いが課せられることがある。

(留意事項)

- ・本科目は後期開講科目なので、ピアノの演奏技術の習得としては、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエル修了程度の演奏力を身につけるために、前期の間に学習を進め、60番くらいまで弾けるようにしておくことが望ましい。
- ・バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れれば可能である。またピアノ初心者に対し対策講座など開かれるので積極的に参加すること。
- ・バイエルピアノ教則本修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエルピアノ教則本修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。
- ・経験者は、前期は自習してレベルを保つことに努め、授業での課題は担当の教員と授業の最初に相談し決定して進めていく。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指示された課題曲を練習し、弾けるようにする。MLでの学習課題を予習する。(約1時間)

【事後学修】学習した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。理論の課題を復習する。(ピアノは少しの時間でもよいので毎日練習する。次の授業までトータルで少なくとも2~3時間は練習する。)

評価方法および評価の基準

評価は、授業への参加度(10%)、到達目標2は筆記試験(30%)、到達目標1と3は実技試験(60%)を目安に総合的に判断される。

欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、試験受験は不可とする。

筆記試験、実技試験とも合格点に達しなかった場合は再試験を行う場合がある。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

- ・バイエルを修了していない学生:「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
- ・バイエル修了者:担当教員と相談の上決定。(全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から選曲する。)
- ・二宮紀子「歌って弾いて書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ」音楽之友社 2014年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

保育現場で求められる子どもの歌のピアノ伴奏やリズム活動でのピアノ演奏ができる力を身につけましょう。楽譜が読め、音楽の仕組みを理解し、基本的なピアノ奏法を学んで、子ども達と音楽活動ができる力をつけましょう。毎日の練習が大きな成果をもたらします。少しずつでも毎日練習しましょう。理論は演奏を助けるものとして位置付けています。理論と実践を両輪に総合的に学び、音楽する力を養いましょう。

| | | | |
|---------|------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽表現基礎技能 | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子、矢部 尚子 | | |
| ナンバリング | EAg1056 | | |
| 学 科 | 教育人文学部（E）-幼児教育学科 | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 08 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | 演習 | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は幼稚園教諭、保育士を目指す人にとって欠かせない音楽上の基礎知識や技能を学ぶものである。2,3年次開講の「音楽表現応用」に引き継がれ、3年次開講の「保育内容の指導法（音楽表現）」の受講に必要となる基礎的内容を扱うので強く履修を勧める。

科目の概要

楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な理論を学びながら、保育者として身に付けておきたいピアノ演奏の基礎技術習得を目指す。入学時ピアノ未経験者もバイエルピアノ教則本を修了し、子どもの歌を弾き歌いできる力をつけることが単位認定の必須要件である。

授業の方法（ALを含む）

授業はML教室での理論的学びと一人ひとりに対応したピアノレッスンを組み合わせた形で行われる。授業の半分の時間をMLでピアノを弾きながら楽典、和声理論、子どもの歌の伴奏法を学び、もう半分の時間は各レッスングループ（3~4名）がお互いのレッスンを見学しながら一人ひとりレッスンを受ける。レッスン曲はバイエルピアノ教本を基本とし、経験値に応じた課題曲を課す。授業のまとめとして、理論の筆記試験とピアノの実技試験が行われる。【実技】

到達目標

1. 子どもと音楽活動を行う際に必要となってくるピアノ演奏ができる。
2. 音楽の基礎的な理論を理解し、子どもの歌の特徴を分析できる。
3. 自身の演奏能力に応じたアレンジをして弾き歌いすることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3保育実践、 -4保育者の感性、 -5問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

授業一コマを半分の45分ずつに分け、レッスン室での学びとMLでの学びを組み合わせる。

各レッスン室には3~4人がグループとなり、公開レッスンのようにお互いのレッスンを聞きあい、お互いに学びあう。

レッスンを受ける曲目は、原則バイエルピアノ教則本から指定された曲とし、それぞれ履修者のピアノ演奏技量に応じて選曲される。バイエルピアノ教則本修了者に対してはレッスン担当教員より、課題曲が示される。

ML教室では楽譜を読み、歌い、弾くために必要な基本的な音楽理論を、実際に演奏しながら、鍵盤を使いながら学習する。さらに子どもの歌に見られるリズムや和声について理解し、自身の演奏力に応じたアレンジを自らできるような力を習得する。教科書を使ってドリルを繰り返し、音楽のしくみについて理解する。

授業14回目に授業のまとめとしてML教室での学びに関する筆記試験が、15回目に実技のまとめとしてピアノの実技試験が行われる。実技試験に関しては、バイエルピアノ教則本修了者はバイエルピアノ教則本の中から指定された曲を弾く。バイエルピアノ教則本修了程度以上の者は担当教員と決定した試験曲を弾く。ピアノ課題以外に子どもの歌の弾き歌いが課せられることがある。

(留意事項)

- ・本科目は後期開講科目なので、ピアノの演奏技術の習得としては、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエル修了程度の演奏力を身につけるために、前期の間に学習を進め、60番くらいまで弾けるようにしておくことが望ましい。
- ・バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れれば可能である。またピアノ初心者に対し対策講座など開かれるので積極的に参加すること。
- ・バイエルピアノ教則本修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエルピアノ教則本修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。
- ・経験者は、前期は自習してレベルを保つことに努め、授業での課題は担当の教員と授業の最初に相談し決定して進めていく。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指示された課題曲を練習し、弾けるようにする。MLでの学習課題を予習する。(約1時間)

【事後学修】学習した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。理論の課題を復習する。(ピアノは少しの時間でもよいので毎日練習する。次の授業までトータルで少なくとも2~3時間は練習する。)

評価方法および評価の基準

評価は、授業への参加度(10%)、到達目標2は筆記試験(30%)、到達目標1と3は実技試験(60%)を目安に総合的に判断される。

欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、試験受験は不可とする。

筆記試験、実技試験とも合格点に達しなかった場合は再試験を行う場合がある。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

- ・バイエルを修了していない学生:「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
- ・バイエル修了者:担当教員と相談の上決定。(全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から選曲する。)
- ・二宮紀子「歌って弾いて書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ」音楽之友社 2014年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

保育現場で求められる子どもの歌のピアノ伴奏やリズム活動でのピアノ演奏ができる力を身につけましょう。楽譜が読め、音楽の仕組みを理解し、基本的なピアノ奏法を学んで、子ども達と音楽活動ができる力をつけましょう。毎日の練習が大きな成果をもたらします。少しずつでも毎日練習しましょう。理論は演奏を助けるものとして位置付けています。理論と実践を両輪に総合的に学び、音楽する力を養いましょう。

| | | | |
|---------|------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽表現基礎技能 | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子、浜野 範子 | | |
| ナンバリング | EAg1056 | | |
| 学 科 | 教育人文学部（E）-幼児教育学科 | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 09 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | 演習 | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は幼稚園教諭、保育士を目指す人にとって欠かせない音楽上の基礎知識や技能を学ぶものである。2, 3年次開講の「音楽表現応用」に引き継がれ、3年次開講の「保育内容の指導法（音楽表現）」の受講に必要となる基礎的内容を扱うので強く履修を勧める。

科目の概要

楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な理論を学びながら、保育者として身に付けておきたいピアノ演奏の基礎技術習得を目ざす。入学時ピアノ未経験者もバイエルピアノ教則本を修了し、子どもの歌を弾き歌いできる力をつけることが単位認定の必須要件である。

授業の方法（ALを含む）

授業はML教室での理論的学びと一人ひとりに対応したピアノレッスンを組み合わせた形で行われる。授業の半分の時間をMLでピアノを弾きながら楽典、和声理論、子どもの歌の伴奏法を学び、もう半分の時間は各レッスングループ（3~4名）がお互いのレッスンを見学しながら一人ひとりレッスンを受ける。レッスン曲はバイエルピアノ教本を基本とし、経験値に応じた課題曲を課す。授業のまとめとして、理論の筆記試験とピアノの実技試験が行われる。【実技】

到達目標

1. 子どもと音楽活動を行う際に必要となってくるピアノ演奏ができる。
2. 音楽の基礎的な理論を理解し、子どもの歌の特徴を分析できる。
3. 自身の演奏能力に応じたアレンジをして弾き歌いすることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3保育実践、 -4保育者の感性、 -5問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

授業一コマを半分の45分ずつに分け、レッスン室での学びとMLでの学びを組み合わせる。

各レッスン室には3~4人がグループとなり、公開レッスンのようにお互いのレッスンを聞きあい、お互いに学びあう。

レッスンを受ける曲目は、原則バイエルピアノ教則本から指定された曲とし、それぞれ履修者のピアノ演奏技量に応じて選曲される。バイエルピアノ教則本修了者に対してはレッスン担当教員より、課題曲が示される。

ML教室では楽譜を読み、歌い、弾くために必要な基本的な音楽理論を、実際に演奏しながら、鍵盤を使いながら学習する。さらに子どもの歌に見られるリズムや和声について理解し、自身の演奏力に応じたアレンジを自らできるような力を習得する。教科書を使ってドリルを繰り返し、音楽のしくみについて理解する。

授業14回目に授業のまとめとしてML教室での学びに関する筆記試験が、15回目に実技のまとめとしてピアノの実技試験が行われる。実技試験に関しては、バイエルピアノ教則本修了者はバイエルピアノ教則本の中から指定された曲を弾く。バイエルピアノ教則本修了程度以上の者は担当教員と決定した試験曲を弾く。ピアノ課題以外に子どもの歌の弾き歌いが課せられることがある。

(留意事項)

- ・本科目は後期開講科目なので、ピアノの演奏技術の習得としては、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエル修了程度の演奏力を身につけるために、前期の間に学習を進め、60番くらいまで弾けるようにしておくことが望ましい。
- ・バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れれば可能である。またピアノ初心者に対し対策講座など開かれるので積極的に参加すること。
- ・バイエルピアノ教則本修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエルピアノ教則本修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。
- ・経験者は、前期は自習してレベルを保つことに努め、授業での課題は担当の教員と授業の最初に相談し決定して進めていく。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指示された課題曲を練習し、弾けるようにする。MLでの学習課題を予習する。(約1時間)

【事後学修】学習した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。理論の課題を復習する。(ピアノは少しの時間でもよいので毎日練習する。次の授業までトータルで少なくとも2~3時間は練習する。)

評価方法および評価の基準

評価は、授業への参加度(10%)、到達目標2は筆記試験(30%)、到達目標1と3は実技試験(60%)を目安に総合的に判断される。

欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、試験受験は不可とする。

筆記試験、実技試験とも合格点に達しなかった場合は再試験を行う場合がある。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

- ・バイエルを修了していない学生:「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
- ・バイエル修了者:担当教員と相談の上決定。(全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から選曲する。)
- ・二宮紀子「歌って弾いて書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ」音楽之友社 2014年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

保育現場で求められる子どもの歌のピアノ伴奏やリズム活動でのピアノ演奏ができる力を身につけましょう。楽譜が読め、音楽の仕組みを理解し、基本的なピアノ奏法を学んで、子ども達と音楽活動ができる力をつけましょう。毎日の練習が大きな成果をもたらします。少しずつでも毎日練習しましょう。理論は演奏を助けるものとして位置付けています。理論と実践を両輪に総合的に学び、音楽する力を養いましょう。

| | | | |
|---------|------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽表現基礎技能 | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子、清水 真理子 | | |
| ナンバリング | EAg1056 | | |
| 学 科 | 教育人文学部（E）-幼児教育学科 | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 10 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | 演習 | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は幼稚園教諭、保育士を目指す人にとって欠かせない音楽上の基礎知識や技能を学ぶものである。2,3年次開講の「音楽表現応用」に引き継がれ、3年次開講の「保育内容の指導法（音楽表現）」の受講に必要となる基礎的内容を扱うので強く履修を勧める。

科目の概要

楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な理論を学びながら、保育者として身に付けておきたいピアノ演奏の基礎技術習得を目指す。入学時ピアノ未経験者もバイエルピアノ教則本を修了し、子どもの歌を弾き歌いできる力をつけることが単位認定の必須要件である。

授業の方法（ALを含む）

授業はML教室での理論的学びと一人ひとりに対応したピアノレッスンを組み合わせた形で行われる。授業の半分の時間をMLでピアノを弾きながら楽典、和声理論、子どもの歌の伴奏法を学び、もう半分の時間は各レッスングループ（3~4名）がお互いのレッスンを見学しながら一人ひとりレッスンを受ける。レッスン曲はバイエルピアノ教本を基本とし、経験値に応じた課題曲を課す。授業のまとめとして、理論の筆記試験とピアノの実技試験が行われる。【実技】

到達目標

1. 子どもと音楽活動を行う際に必要となってくるピアノ演奏ができる。
2. 音楽の基礎的な理論を理解し、子どもの歌の特徴を分析できる。
3. 自身の演奏能力に応じたアレンジをして弾き歌いすることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3保育実践、 -4保育者の感性、 -5問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

授業一コマを半分の45分ずつに分け、レッスン室での学びとMLでの学びを組み合わせる。

各レッスン室には3~4人がグループとなり、公開レッスンのようにお互いのレッスンを聞きあい、お互いに学びあう。

レッスンを受ける曲目は、原則バイエルピアノ教則本から指定された曲とし、それぞれ履修者のピアノ演奏技量に応じて選曲される。バイエルピアノ教則本修了者に対してはレッスン担当教員より、課題曲が示される。

ML教室では楽譜を読み、歌い、弾くために必要な基本的な音楽理論を、実際に演奏しながら、鍵盤を使いながら学習する。さらに子どもの歌に見られるリズムや和声について理解し、自身の演奏力に応じたアレンジを自らできるような力を習得する。教科書を使ってドリルを繰り返し、音楽のしくみについて理解する。

授業14回目に授業のまとめとしてML教室での学びに関する筆記試験が、15回目に実技のまとめとしてピアノの実技試験が行われる。実技試験に関しては、バイエルピアノ教則本修了者はバイエルピアノ教則本の中から指定された曲を弾く。バイエルピアノ教則本修了程度以上の者は担当教員と決定した試験曲を弾く。ピアノ課題以外に子どもの歌の弾き歌いが課せられることがある。

(留意事項)

- ・本科目は後期開講科目なので、ピアノの演奏技術の習得としては、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエル修了程度の演奏力を身につけるために、前期の間に学習を進め、60番くらいまで弾けるようにしておくことが望ましい。
- ・バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れば可能である。またピアノ初心者に対し対策講座など開かれるので積極的に参加すること。
- ・バイエルピアノ教則本修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエルピアノ教則本修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。
- ・経験者は、前期は自習してレベルを保つことに努め、授業での課題は担当の教員と授業の最初に相談し決定して進めていく。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指示された課題曲を練習し、弾けるようにする。MLでの学習課題を予習する。(約1時間)

【事後学修】学習した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。理論の課題を復習する。(ピアノは少しの時間でもよいので毎日練習する。次の授業までトータルで少なくとも2~3時間は練習する。)

評価方法および評価の基準

評価は、授業への参加度(10%)、到達目標2は筆記試験(30%)、到達目標1と3は実技試験(60%)を目安に総合的に判断される。

欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、試験受験は不可とする。

筆記試験、実技試験とも合格点に達しなかった場合は再試験を行う場合がある。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

- ・バイエルを修了していない学生:「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
- ・バイエル修了者:担当教員と相談の上決定。(全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から選曲する。)
- ・二宮紀子「歌って弾いて書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ」音楽之友社 2014年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

保育現場で求められる子どもの歌のピアノ伴奏やリズム活動でのピアノ演奏ができる力を身につけましょう。楽譜が読め、音楽の仕組みを理解し、基本的なピアノ奏法を学んで、子ども達と音楽活動ができる力をつけましょう。毎日の練習が大きな成果をもたらします。少しずつでも毎日練習しましょう。理論は演奏を助けるものとして位置付けています。理論と実践を両輪に総合的に学び、音楽する力を養いましょう。

| | | | |
|---------|-------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽表現基礎技能 | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子、市川 節子 | | |
| ナンバリング | EAg1056 | | |
| 学 科 | 教育人文学部（E）- 幼児教育学科 | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 11 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | 演習 | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は幼稚園教諭、保育士を目指す人にとって欠かせない音楽上の基礎知識や技能を学ぶものである。2, 3年次開講の「音楽表現応用」に引き継がれ、3年次開講の「保育内容の指導法（音楽表現）」の受講に必要となる基礎的内容を扱うので強く履修を勧める。

科目の概要

楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な理論を学びながら、保育者として身に付けておきたいピアノ演奏の基礎技術習得を目ざす。入学時ピアノ未経験者もバイエルピアノ教則本を修了し、子どもの歌を弾き歌いできる力をつけることが単位認定の必須要件である。

授業の方法（ALを含む）

授業はML教室での理論的学びと一人ひとりに対応したピアノレッスンを組み合わせた形で行われる。授業の半分の時間をMLでピアノを弾きながら楽典、和声理論、子どもの歌の伴奏法を学び、もう半分の時間は各レッスングループ（3~4名）がお互いのレッスンを見学しながら一人ひとりレッスンを受ける。レッスン曲はバイエルピアノ教本を基本とし、経験値に応じた課題曲を課す。授業のまとめとして、理論の筆記試験とピアノの実技試験が行われる。【実技】

到達目標

1. 子どもと音楽活動を行う際に必要となってくるピアノ演奏ができる。
2. 音楽の基礎的な理論を理解し、子どもの歌の特徴を分析できる。
3. 自身の演奏能力に応じたアレンジをして弾き歌いすることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3保育実践、 -4保育者の感性、 -5問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

授業一コマを半分の45分ずつに分け、レッスン室での学びとMLでの学びを組み合わせる。

各レッスン室には3~4人がグループとなり、公開レッスンのようにお互いのレッスンを聞きあい、お互いに学びあう。

レッスンを受ける曲目は、原則バイエルピアノ教則本から指定された曲とし、それぞれ履修者のピアノ演奏技量に応じて選曲される。バイエルピアノ教則本修了者に対してはレッスン担当教員より、課題曲が示される。

ML教室では楽譜を読み、歌い、弾くために必要な基本的な音楽理論を、実際に演奏しながら、鍵盤を使いながら学習する。さらに子どもの歌に見られるリズムや和声について理解し、自身の演奏力に応じたアレンジを自らできるような力を習得する。教科書を使ってドリルを繰り返し、音楽のしくみについて理解する。

授業14回目に授業のまとめとしてML教室での学びに関する筆記試験が、15回目に実技のまとめとしてピアノの実技試験が行われる。実技試験に関しては、バイエルピアノ教則本修了者はバイエルピアノ教則本の中から指定された曲を弾く。バイエルピアノ教則本修了程度以上の者は担当教員と決定した試験曲を弾く。ピアノ課題以外に子どもの歌の弾き歌いが課せられることがある。

(留意事項)

- ・本科目は後期開講科目なので、ピアノの演奏技術の習得としては、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエル修了程度の演奏力を身につけるために、前期の間に学習を進め、60番くらいまで弾けるようにしておくことが望ましい。
- ・バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れれば可能である。またピアノ初心者に対し対策講座など開かれるので積極的に参加すること。
- ・バイエルピアノ教則本修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエルピアノ教則本修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。
- ・経験者は、前期は自習してレベルを保つことに努め、授業での課題は担当の教員と授業の最初に相談し決定して進めていく。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指示された課題曲を練習し、弾けるようにする。MLでの学習課題を予習する。(約1時間)

【事後学修】学習した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。理論の課題を復習する。(ピアノは少しの時間でもよいので毎日練習する。次の授業までトータルで少なくとも2~3時間は練習する。)

評価方法および評価の基準

評価は、授業への参加度(10%)、到達目標2は筆記試験(30%)、到達目標1と3は実技試験(60%)を目安に総合的に判断される。

欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、試験受験は不可とする。

筆記試験、実技試験とも合格点に達しなかった場合は再試験を行う場合がある。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

- ・バイエルを修了していない学生:「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
- ・バイエル修了者:担当教員と相談の上決定。(全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から選曲する。)
- ・二宮紀子「歌って弾いて書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ」音楽之友社 2014年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

保育現場で求められる子どもの歌のピアノ伴奏やリズム活動でのピアノ演奏ができる力を身につけましょう。楽譜が読め、音楽の仕組みを理解し、基本的なピアノ奏法を学んで、子ども達と音楽活動ができる力をつけましょう。毎日の練習が大きな成果をもたらします。少しずつでも毎日練習しましょう。理論は演奏を助けるものとして位置付けています。理論と実践を両輪に総合的に学び、音楽する力を養いましょう。

| | | | |
|---------|-------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽表現基礎技能 | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子、薮崎 伸一郎 | | |
| ナンバリング | EAg1056 | | |
| 学 科 | 教育人文学部（E）- 幼児教育学科 | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 12 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | 演習 | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は幼稚園教諭、保育士を目指す人にとって欠かせない音楽上の基礎知識や技能を学ぶものである。2, 3年次開講の「音楽表現応用」に引き継がれ、3年次開講の「保育内容の指導法（音楽表現）」の受講に必要となる基礎的内容を扱うので強く履修を勧める。

科目の概要

楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な理論を学びながら、保育者として身に付けておきたいピアノ演奏の基礎技術習得を目指す。入学時ピアノ未経験者もバイエルピアノ教則本を修了し、子どもの歌を弾き歌いできる力をつけることが単位認定の必須要件である。

授業の方法（ALを含む）

授業はML教室での理論的学びと一人ひとりに対応したピアノレッスンを組み合わせた形で行われる。授業の半分の時間をMLでピアノを弾きながら楽典、和声理論、子どもの歌の伴奏法を学び、もう半分の時間は各レッスングループ（3~4名）がお互いのレッスンを見学しながら一人ひとりレッスンを受ける。レッスン曲はバイエルピアノ教本を基本とし、経験値に応じた課題曲を課す。授業のまとめとして、理論の筆記試験とピアノの実技試験が行われる。【実技】

到達目標

1. 子どもと音楽活動を行う際に必要となってくるピアノ演奏ができる。
2. 音楽の基礎的な理論を理解し、子どもの歌の特徴を分析できる。
3. 自身の演奏能力に応じたアレンジをして弾き歌いすることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3保育実践、 -4保育者の感性、 -5問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

授業一コマを半分の45分ずつに分け、レッスン室での学びとMLでの学びを組み合わせる。

各レッスン室には3~4人がグループとなり、公開レッスンのようにお互いのレッスンを聞きあい、お互いに学びあう。

レッスンを受ける曲目は、原則バイエルピアノ教則本から指定された曲とし、それぞれ履修者のピアノ演奏技量に応じて選曲される。バイエルピアノ教則本修了者に対してはレッスン担当教員より、課題曲が示される。

ML教室では楽譜を読み、歌い、弾くために必要な基本的な音楽理論を、実際に演奏しながら、鍵盤を使いながら学習する。さらに子どもの歌に見られるリズムや和声について理解し、自身の演奏力に応じたアレンジを自らできるような力を習得する。教科書を使ってドリルを繰り返し、音楽のしくみについて理解する。

授業14回目に授業のまとめとしてML教室での学びに関する筆記試験が、15回目に実技のまとめとしてピアノの実技試験が行われる。実技試験に関しては、バイエルピアノ教則本修了者はバイエルピアノ教則本の中から指定された曲を弾く。バイエルピアノ教則本修了程度以上の者は担当教員と決定した試験曲を弾く。ピアノ課題以外に子どもの歌の弾き歌いが課せられることがある。

(留意事項)

- ・本科目は後期開講科目なので、ピアノの演奏技術の習得としては、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエル修了程度の演奏力を身につけるために、前期の間に学習を進め、60番くらいまで弾けるようにしておくことが望ましい。
- ・バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れれば可能である。またピアノ初心者に対し対策講座など開かれるので積極的に参加すること。
- ・バイエルピアノ教則本修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエルピアノ教則本修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。
- ・経験者は、前期は自習してレベルを保つことに努め、授業での課題は担当の教員と授業の最初に相談し決定して進めていく。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指示された課題曲を練習し、弾けるようにする。MLでの学習課題を予習する。(約1時間)

【事後学修】学習した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。理論の課題を復習する。(ピアノは少しの時間でもよいので毎日練習する。次の授業までトータルで少なくとも2~3時間は練習する。)

評価方法および評価の基準

評価は、授業への参加度(10%)、到達目標2は筆記試験(30%)、到達目標1と3は実技試験(60%)を目安に総合的に判断される。

欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、試験受験は不可とする。

筆記試験、実技試験とも合格点に達しなかった場合は再試験を行う場合がある。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

- ・バイエルを修了していない学生:「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
- ・バイエル修了者:担当教員と相談の上決定。(全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から選曲する。)
- ・二宮紀子「歌って弾いて書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ」音楽之友社 2014年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

保育現場で求められる子どもの歌のピアノ伴奏やリズム活動でのピアノ演奏ができる力を身につけましょう。楽譜が読め、音楽の仕組みを理解し、基本的なピアノ奏法を学んで、子ども達と音楽活動ができる力をつけましょう。毎日の練習が大きな成果をもたらします。少しずつでも毎日練習しましょう。理論は演奏を助けるものとして位置付けています。理論と実践を両輪に総合的に学び、音楽する力を養いましょう。

| | | | |
|---------|------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽表現基礎技能 | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子、山賀 英美 | | |
| ナンバリング | EAg1056 | | |
| 学 科 | 教育人文学部（E）-幼児教育学科 | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 13 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | 演習 | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は幼稚園教諭、保育士を目指す人にとって欠かせない音楽上の基礎知識や技能を学ぶものである。2, 3年次開講の「音楽表現応用」に引き継がれ、3年次開講の「保育内容の指導法（音楽表現）」の受講に必要となる基礎的内容を扱うので強く履修を勧める。

科目の概要

楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な理論を学びながら、保育者として身に付けておきたいピアノ演奏の基礎技術習得を目ざす。入学時ピアノ未経験者もバイエルピアノ教則本を修了し、子どもの歌を弾き歌いできる力をつけることが単位認定の必須要件である。

授業の方法（ALを含む）

授業はML教室での理論的学びと一人ひとりに対応したピアノレッスンを組み合わせた形で行われる。授業の半分の時間をMLでピアノを弾きながら楽典、和声理論、子どもの歌の伴奏法を学び、もう半分の時間は各レッスングループ（3~4名）がお互いのレッスンを見学しながら一人ひとりレッスンを受ける。レッスン曲はバイエルピアノ教本を基本とし、経験値に応じた課題曲を課す。授業のまとめとして、理論の筆記試験とピアノの実技試験が行われる。【実技】

到達目標

1. 子どもと音楽活動を行う際に必要となってくるピアノ演奏ができる。
2. 音楽の基礎的な理論を理解し、子どもの歌の特徴を分析できる。
3. 自身の演奏能力に応じたアレンジをして弾き歌いすることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3保育実践、 -4保育者の感性、 -5問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

授業一コマを半分の45分ずつに分け、レッスン室での学びとMLでの学びを組み合わせる。

各レッスン室には3~4人がグループとなり、公開レッスンのようにお互いのレッスンを聞きあい、お互いに学びあう。

レッスンを受ける曲目は、原則バイエルピアノ教則本から指定された曲とし、それぞれ履修者のピアノ演奏技量に応じて選曲される。バイエルピアノ教則本修了者に対してはレッスン担当教員より、課題曲が示される。

ML教室では楽譜を読み、歌い、弾くために必要な基本的な音楽理論を、実際に演奏しながら、鍵盤を使いながら学習する。さらに子どもの歌に見られるリズムや和声について理解し、自身の演奏力に応じたアレンジを自らできるような力を習得する。教科書を使ってドリルを繰り返し、音楽のしくみについて理解する。

授業14回目に授業のまとめとしてML教室での学びに関する筆記試験が、15回目に実技のまとめとしてピアノの実技試験が行われる。実技試験に関しては、バイエルピアノ教則本修了者はバイエルピアノ教則本の中から指定された曲を弾く。バイエルピアノ教則本修了程度以上の者は担当教員と決定した試験曲を弾く。ピアノ課題以外に子どもの歌の弾き歌いが課せられることがある。

(留意事項)

- ・本科目は後期開講科目なので、ピアノの演奏技術の習得としては、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエル修了程度の演奏力を身につけるために、前期の間に学習を進め、60番くらいまで弾けるようにしておくことが望ましい。
- ・バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れれば可能である。またピアノ初心者に対し対策講座など開かれるので積極的に参加すること。
- ・バイエルピアノ教則本修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエルピアノ教則本修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。
- ・経験者は、前期は自習してレベルを保つことに努め、授業での課題は担当の教員と授業の最初に相談し決定して進めていく。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指示された課題曲を練習し、弾けるようにする。MLでの学習課題を予習する。(約1時間)

【事後学修】学習した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。理論の課題を復習する。(ピアノは少しの時間でもよいので毎日練習する。次の授業までトータルで少なくとも2~3時間は練習する。)

評価方法および評価の基準

評価は、授業への参加度(10%)、到達目標2は筆記試験(30%)、到達目標1と3は実技試験(60%)を目安に総合的に判断される。

欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、試験受験は不可とする。

筆記試験、実技試験とも合格点に達しなかった場合は再試験を行う場合がある。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

- ・バイエルを修了していない学生:「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
- ・バイエル修了者:担当教員と相談の上決定。(全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から選曲する。)
- ・二宮紀子「歌って弾いて書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ」音楽之友社 2014年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

保育現場で求められる子どもの歌のピアノ伴奏やリズム活動でのピアノ演奏ができる力を身につけましょう。楽譜が読め、音楽の仕組みを理解し、基本的なピアノ奏法を学んで、子ども達と音楽活動ができる力をつけましょう。毎日の練習が大きな成果をもたらします。少しずつでも毎日練習しましょう。理論は演奏を助けるものとして位置付けています。理論と実践を両輪に総合的に学び、音楽する力を養いましょう。

| | | | |
|---------|------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽表現基礎技能 | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子、矢部 尚子 | | |
| ナンバリング | EAg1056 | | |
| 学 科 | 教育人文学部（E）-幼児教育学科 | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 14 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | 演習 | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は幼稚園教諭、保育士を目指す人にとって欠かせない音楽上の基礎知識や技能を学ぶものである。2,3年次開講の「音楽表現応用」に引き継がれ、3年次開講の「保育内容の指導法（音楽表現）」の受講に必要となる基礎的内容を扱うので強く履修を勧める。

科目の概要

楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な理論を学びながら、保育者として身に付けておきたいピアノ演奏の基礎技術習得を目ざす。入学時ピアノ未経験者もバイエルピアノ教則本を修了し、子どもの歌を弾き歌いできる力をつけることが単位認定の必須要件である。

授業の方法（ALを含む）

授業はML教室での理論的学びと一人ひとりに対応したピアノレッスンを組み合わせた形で行われる。授業の半分の時間をMLでピアノを弾きながら楽典、和声理論、子どもの歌の伴奏法を学び、もう半分の時間は各レッスングループ（3~4名）がお互いのレッスンを見学しながら一人ひとりレッスンを受ける。レッスン曲はバイエルピアノ教本を基本とし、経験値に応じた課題曲を課す。授業のまとめとして、理論の筆記試験とピアノの実技試験が行われる。【実技】

到達目標

1. 子どもと音楽活動を行う際に必要となってくるピアノ演奏ができる。
2. 音楽の基礎的な理論を理解し、子どもの歌の特徴を分析できる。
3. 自身の演奏能力に応じたアレンジをして弾き歌いすることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3保育実践、 -4保育者の感性、 -5問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

授業一コマを半分の45分ずつに分け、レッスン室での学びとMLでの学びを組み合わせる。

各レッスン室には3~4人がグループとなり、公開レッスンのようにお互いのレッスンを聞きあい、お互いに学びあう。

レッスンを受ける曲目は、原則バイエルピアノ教則本から指定された曲とし、それぞれ履修者のピアノ演奏技量に応じて選曲される。バイエルピアノ教則本修了者に対してはレッスン担当教員より、課題曲が示される。

ML教室では楽譜を読み、歌い、弾くために必要な基本的な音楽理論を、実際に演奏しながら、鍵盤を使いながら学習する。さらに子どもの歌に見られるリズムや和声について理解し、自身の演奏力に応じたアレンジを自らできるような力を習得する。教科書を使ってドリルを繰り返し、音楽のしくみについて理解する。

授業14回目に授業のまとめとしてML教室での学びに関する筆記試験が、15回目に実技のまとめとしてピアノの実技試験が行われる。実技試験に関しては、バイエルピアノ教則本修了者はバイエルピアノ教則本の中から指定された曲を弾く。バイエルピアノ教則本修了程度以上の者は担当教員と決定した試験曲を弾く。ピアノ課題以外に子どもの歌の弾き歌いが課せられることがある。

(留意事項)

- ・本科目は後期開講科目なので、ピアノの演奏技術の習得としては、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエル修了程度の演奏力を身につけるために、前期の間に学習を進め、60番くらいまで弾けるようにしておくことが望ましい。
- ・バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れれば可能である。またピアノ初心者に対し対策講座など開かれるので積極的に参加すること。
- ・バイエルピアノ教則本修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエルピアノ教則本修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。
- ・経験者は、前期は自習してレベルを保つことに努め、授業での課題は担当の教員と授業の最初に相談し決定して進めていく。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指示された課題曲を練習し、弾けるようにする。MLでの学習課題を予習する。(約1時間)

【事後学修】学習した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。理論の課題を復習する。(ピアノは少しの時間でもよいので毎日練習する。次の授業までトータルで少なくとも2~3時間は練習する。)

評価方法および評価の基準

評価は、授業への参加度(10%)、到達目標2は筆記試験(30%)、到達目標1と3は実技試験(60%)を目安に総合的に判断される。

欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、試験受験は不可とする。

筆記試験、実技試験とも合格点に達しなかった場合は再試験を行う場合がある。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

- ・バイエルを修了していない学生:「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
- ・バイエル修了者:担当教員と相談の上決定。(全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から選曲する。)
- ・二宮紀子「歌って弾いて書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ」音楽之友社 2014年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

保育現場で求められる子どもの歌のピアノ伴奏やリズム活動でのピアノ演奏ができる力を身につけましょう。楽譜が読め、音楽の仕組みを理解し、基本的なピアノ奏法を学んで、子ども達と音楽活動ができる力をつけましょう。毎日の練習が大きな成果をもたらします。少しずつでも毎日練習しましょう。理論は演奏を助けるものとして位置付けています。理論と実践を両輪に総合的に学び、音楽する力を養いましょう。

| | | | |
|---------|------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽表現基礎技能 | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子、浜野 範子 | | |
| ナンバリング | EAg1056 | | |
| 学 科 | 教育人文学部（E）-幼児教育学科 | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 15 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | 演習 | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は幼稚園教諭、保育士を目指す人にとって欠かせない音楽上の基礎知識や技能を学ぶものである。2, 3年次開講の「音楽表現応用」に引き継がれ、3年次開講の「保育内容の指導法（音楽表現）」の受講に必要となる基礎的内容を扱うので強く履修を勧める。

科目の概要

楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な理論を学びながら、保育者として身に付けておきたいピアノ演奏の基礎技術習得を目指す。入学時ピアノ未経験者もバイエルピアノ教則本を修了し、子どもの歌を弾き歌いできる力をつけることが単位認定の必須要件である。

授業の方法（ALを含む）

授業はML教室での理論的学びと一人ひとりに対応したピアノレッスンを組み合わせた形で行われる。授業の半分の時間をMLでピアノを弾きながら楽典、和声理論、子どもの歌の伴奏法を学び、もう半分の時間は各レッスングループ（3~4名）がお互いのレッスンを見学しながら一人ひとりレッスンを受ける。レッスン曲はバイエルピアノ教本を基本とし、経験値に応じた課題曲を課す。授業のまとめとして、理論の筆記試験とピアノの実技試験が行われる。【実技】

到達目標

1. 子どもと音楽活動を行う際に必要となってくるピアノ演奏ができる。
2. 音楽の基礎的な理論を理解し、子どもの歌の特徴を分析できる。
3. 自身の演奏能力に応じたアレンジをして弾き歌いすることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3保育実践、 -4保育者の感性、 -5問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

授業一コマを半分の45分ずつに分け、レッスン室での学びとMLでの学びを組み合わせる。

各レッスン室には3~4人がグループとなり、公開レッスンのようにお互いのレッスンを聞きあい、お互いに学びあう。

レッスンを受ける曲目は、原則バイエルピアノ教則本から指定された曲とし、それぞれ履修者のピアノ演奏技量に応じて選曲される。バイエルピアノ教則本修了者に対してはレッスン担当教員より、課題曲が示される。

ML教室では楽譜を読み、歌い、弾くために必要な基本的な音楽理論を、実際に演奏しながら、鍵盤を使いながら学習する。さらに子どもの歌に見られるリズムや和声について理解し、自身の演奏力に応じたアレンジを自らできるような力を習得する。教科書を使ってドリルを繰り返し、音楽のしくみについて理解する。

授業14回目に授業のまとめとしてML教室での学びに関する筆記試験が、15回目に実技のまとめとしてピアノの実技試験が行われる。実技試験に関しては、バイエルピアノ教則本修了者はバイエルピアノ教則本の中から指定された曲を弾く。バイエルピアノ教則本修了程度以上の者は担当教員と決定した試験曲を弾く。ピアノ課題以外に子どもの歌の弾き歌いが課せられることがある。

(留意事項)

- ・本科目は後期開講科目なので、ピアノの演奏技術の習得としては、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエル修了程度の演奏力を身につけるために、前期の間に学習を進め、60番くらいまで弾けるようにしておくことが望ましい。
- ・バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れれば可能である。またピアノ初心者に対し対策講座など開かれるので積極的に参加すること。
- ・バイエルピアノ教則本修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエルピアノ教則本修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。
- ・経験者は、前期は自習してレベルを保つことに努め、授業での課題は担当の教員と授業の最初に相談し決定して進めていく。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指示された課題曲を練習し、弾けるようにする。MLでの学習課題を予習する。(約1時間)

【事後学修】学習した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。理論の課題を復習する。(ピアノは少しの時間でもよいので毎日練習する。次の授業までトータルで少なくとも2~3時間は練習する。)

評価方法および評価の基準

評価は、授業への参加度(10%)、到達目標2は筆記試験(30%)、到達目標1と3は実技試験(60%)を目安に総合的に判断される。

欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、試験受験は不可とする。

筆記試験、実技試験とも合格点に達しなかった場合は再試験を行う場合がある。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

- ・バイエルを修了していない学生:「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
- ・バイエル修了者:担当教員と相談の上決定。(全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から選曲する。)
- ・二宮紀子「歌って弾いて書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ」音楽之友社 2014年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

保育現場で求められる子どもの歌のピアノ伴奏やリズム活動でのピアノ演奏ができる力を身につけましょう。楽譜が読め、音楽の仕組みを理解し、基本的なピアノ奏法を学んで、子ども達と音楽活動ができる力をつけましょう。毎日の練習が大きな成果をもたらします。少しずつでも毎日練習しましょう。理論は演奏を助けるものとして位置付けています。理論と実践を両輪に総合的に学び、音楽する力を養いましょう。

| | | | |
|---------|------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽表現基礎技能 | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子、清水 真理子 | | |
| ナンバリング | EAg1056 | | |
| 学 科 | 教育人文学部（E）-幼児教育学科 | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 16 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | 演習 | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は幼稚園教諭、保育士を目指す人にとって欠かせない音楽上の基礎知識や技能を学ぶものである。2,3年次開講の「音楽表現応用」に引き継がれ、3年次開講の「保育内容の指導法（音楽表現）」の受講に必要となる基礎的内容を扱うので強く履修を勧める。

科目の概要

楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な理論を学びながら、保育者として身に付けておきたいピアノ演奏の基礎技術習得を目指す。入学時ピアノ未経験者もバイエルピアノ教則本を修了し、子どもの歌を弾き歌いできる力をつけることが単位認定の必須要件である。

授業の方法（ALを含む）

授業はML教室での理論的学びと一人ひとりに対応したピアノレッスンを組み合わせた形で行われる。授業の半分の時間をMLでピアノを弾きながら楽典、和声理論、子どもの歌の伴奏法を学び、もう半分の時間は各レッスングループ（3~4名）がお互いのレッスンを見学しながら一人ひとりレッスンを受ける。レッスン曲はバイエルピアノ教本を基本とし、経験値に応じた課題曲を課す。授業のまとめとして、理論の筆記試験とピアノの実技試験が行われる。【実技】

到達目標

1. 子どもと音楽活動を行う際に必要となってくるピアノ演奏ができる。
2. 音楽の基礎的な理論を理解し、子どもの歌の特徴を分析できる。
3. 自身の演奏能力に応じたアレンジをして弾き歌いすることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3保育実践、 -4保育者の感性、 -5問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

授業一コマを半分の45分ずつに分け、レッスン室での学びとMLでの学びを組み合わせる。

各レッスン室には3~4人がグループとなり、公開レッスンのようにお互いのレッスンを聞きあい、お互いに学びあう。

レッスンを受ける曲目は、原則バイエルピアノ教則本から指定された曲とし、それぞれ履修者のピアノ演奏技量に応じて選曲される。バイエルピアノ教則本修了者に対してはレッスン担当教員より、課題曲が示される。

ML教室では楽譜を読み、歌い、弾くために必要な基本的な音楽理論を、実際に演奏しながら、鍵盤を使いながら学習する。さらに子どもの歌に見られるリズムや和声について理解し、自身の演奏力に応じたアレンジを自らできるような力を習得する。教科書を使ってドリルを繰り返し、音楽のしくみについて理解する。

授業14回目に授業のまとめとしてML教室での学びに関する筆記試験が、15回目に実技のまとめとしてピアノの実技試験が行われる。実技試験に関しては、バイエルピアノ教則本修了者はバイエルピアノ教則本の中から指定された曲を弾く。バイエルピアノ教則本修了程度以上の者は担当教員と決定した試験曲を弾く。ピアノ課題以外に子どもの歌の弾き歌いが課せられることがある。

(留意事項)

- ・本科目は後期開講科目なので、ピアノの演奏技術の習得としては、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエル修了程度の演奏力を身につけるために、前期の間に学習を進め、60番くらいまで弾けるようにしておくことが望ましい。
- ・バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れば可能である。またピアノ初心者に対し対策講座など開かれるので積極的に参加すること。
- ・バイエルピアノ教則本修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエルピアノ教則本修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。
- ・経験者は、前期は自習してレベルを保つことに努め、授業での課題は担当の教員と授業の最初に相談し決定して進めていく。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指示された課題曲を練習し、弾けるようにする。MLでの学習課題を予習する。(約1時間)

【事後学修】学習した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。理論の課題を復習する。(ピアノは少しの時間でもよいので毎日練習する。次の授業までトータルで少なくとも2~3時間は練習する。)

評価方法および評価の基準

評価は、授業への参加度(10%)、到達目標2は筆記試験(30%)、到達目標1と3は実技試験(60%)を目安に総合的に判断される。

欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、試験受験は不可とする。

筆記試験、実技試験とも合格点に達しなかった場合は再試験を行う場合がある。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

- ・バイエルを修了していない学生:「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
- ・バイエル修了者:担当教員と相談の上決定。(全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から選曲する。)
- ・二宮紀子「歌って弾いて書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ」音楽之友社 2014年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

保育現場で求められる子どもの歌のピアノ伴奏やリズム活動でのピアノ演奏ができる力を身につけましょう。楽譜が読め、音楽の仕組みを理解し、基本的なピアノ奏法を学んで、子ども達と音楽活動ができる力をつけましょう。毎日の練習が大きな成果をもたらします。少しずつでも毎日練習しましょう。理論は演奏を助けるものとして位置付けています。理論と実践を両輪に総合的に学び、音楽する力を養いましょう。

| | | | |
|---------|------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽表現基礎技能 | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子、市川 節子 | | |
| ナンバリング | EAg1056 | | |
| 学 科 | 教育人文学部（E）-幼児教育学科 | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 17 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | 演習 | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は幼稚園教諭、保育士を目指す人にとって欠かせない音楽上の基礎知識や技能を学ぶものである。2, 3年次開講の「音楽表現応用」に引き継がれ、3年次開講の「保育内容の指導法（音楽表現）」の受講に必要となる基礎的内容を扱うので強く履修を勧める。

科目の概要

楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な理論を学びながら、保育者として身に付けておきたいピアノ演奏の基礎技術習得を目指す。入学時ピアノ未経験者もバイエルピアノ教則本を修了し、子どもの歌を弾き歌いできる力をつけることが単位認定の必須要件である。

授業の方法（ALを含む）

授業はML教室での理論的学びと一人ひとりに対応したピアノレッスンを組み合わせた形で行われる。授業の半分の時間をMLでピアノを弾きながら楽典、和声理論、子どもの歌の伴奏法を学び、もう半分の時間は各レッスングループ（3~4名）がお互いのレッスンを見学しながら一人ひとりレッスンを受ける。レッスン曲はバイエルピアノ教本を基本とし、経験値に応じた課題曲を課す。授業のまとめとして、理論の筆記試験とピアノの実技試験が行われる。【実技】

到達目標

1. 子どもと音楽活動を行う際に必要となってくるピアノ演奏ができる。
2. 音楽の基礎的な理論を理解し、子どもの歌の特徴を分析できる。
3. 自身の演奏能力に応じたアレンジをして弾き歌いすることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3保育実践、 -4保育者の感性、 -5問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

授業一コマを半分の45分ずつに分け、レッスン室での学びとMLでの学びを組み合わせる。

各レッスン室には3~4人がグループとなり、公開レッスンのようにお互いのレッスンを聞きあい、お互いに学びあう。

レッスンを受ける曲目は、原則バイエルピアノ教則本から指定された曲とし、それぞれ履修者のピアノ演奏技量に応じて選曲される。バイエルピアノ教則本修了者に対してはレッスン担当教員より、課題曲が示される。

ML教室では楽譜を読み、歌い、弾くために必要な基本的な音楽理論を、実際に演奏しながら、鍵盤を使いながら学習する。さらに子どもの歌に見られるリズムや和声について理解し、自身の演奏力に応じたアレンジを自らできるような力を習得する。教科書を使ってドリルを繰り返し、音楽のしくみについて理解する。

授業14回目に授業のまとめとしてML教室での学びに関する筆記試験が、15回目に実技のまとめとしてピアノの実技試験が行われる。実技試験に関しては、バイエルピアノ教則本修了者はバイエルピアノ教則本の中から指定された曲を弾く。バイエルピアノ教則本修了程度以上の者は担当教員と決定した試験曲を弾く。ピアノ課題以外に子どもの歌の弾き歌いが課せられることがある。

(留意事項)

- ・本科目は後期開講科目なので、ピアノの演奏技術の習得としては、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエル修了程度の演奏力を身につけるために、前期の間に学習を進め、60番くらいまで弾けるようにしておくことが望ましい。
- ・バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れれば可能である。またピアノ初心者に対し対策講座など開かれるので積極的に参加すること。
- ・バイエルピアノ教則本修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエルピアノ教則本修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。
- ・経験者は、前期は自習してレベルを保つことに努め、授業での課題は担当の教員と授業の最初に相談し決定して進めていく。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指示された課題曲を練習し、弾けるようにする。MLでの学習課題を予習する。(約1時間)

【事後学修】学習した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。理論の課題を復習する。(ピアノは少しの時間でもよいので毎日練習する。次の授業までトータルで少なくとも2~3時間は練習する。)

評価方法および評価の基準

評価は、授業への参加度(10%)、到達目標2は筆記試験(30%)、到達目標1と3は実技試験(60%)を目安に総合的に判断される。

欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、試験受験は不可とする。

筆記試験、実技試験とも合格点に達しなかった場合は再試験を行う場合がある。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

- ・バイエルを修了していない学生:「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
- ・バイエル修了者:担当教員と相談の上決定。(全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から選曲する。)
- ・二宮紀子「歌って弾いて書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ」音楽之友社 2014年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

保育現場で求められる子どもの歌のピアノ伴奏やリズム活動でのピアノ演奏ができる力を身につけましょう。楽譜が読め、音楽の仕組みを理解し、基本的なピアノ奏法を学んで、子ども達と音楽活動ができる力をつけましょう。毎日の練習が大きな成果をもたらします。少しずつでも毎日練習しましょう。理論は演奏を助けるものとして位置付けています。理論と実践を両輪に総合的に学び、音楽する力を養いましょう。

| | | | |
|---------|-------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽表現基礎技能 | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子、薮崎 伸一郎 | | |
| ナンバリング | EAg1056 | | |
| 学 科 | 教育人文学部（E）- 幼児教育学科 | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 18 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | 演習 | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は幼稚園教諭、保育士を目指す人にとって欠かせない音楽上の基礎知識や技能を学ぶものである。2, 3年次開講の「音楽表現応用」に引き継がれ、3年次開講の「保育内容の指導法（音楽表現）」の受講に必要となる基礎的内容を扱うので強く履修を勧める。

科目の概要

楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な理論を学びながら、保育者として身に付けておきたいピアノ演奏の基礎技術習得を目ざす。入学時ピアノ未経験者もバイエルピアノ教則本を修了し、子どもの歌を弾き歌いできる力をつけることが単位認定の必須要件である。

授業の方法（ALを含む）

授業はML教室での理論的学びと一人ひとりに対応したピアノレッスンを組み合わせた形で行われる。授業の半分の時間をMLでピアノを弾きながら楽典、和声理論、子どもの歌の伴奏法を学び、もう半分の時間は各レッスングループ（3~4名）がお互いのレッスンを見学しながら一人ひとりレッスンを受ける。レッスン曲はバイエルピアノ教本を基本とし、経験値に応じた課題曲を課す。授業のまとめとして、理論の筆記試験とピアノの実技試験が行われる。【実技】

到達目標

1. 子どもと音楽活動を行う際に必要となってくるピアノ演奏ができる。
2. 音楽の基礎的な理論を理解し、子どもの歌の特徴を分析できる。
3. 自身の演奏能力に応じたアレンジをして弾き歌いすることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3保育実践、 -4保育者の感性、 -5問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

授業一コマを半分の45分ずつに分け、レッスン室での学びとMLでの学びを組み合わせる。

各レッスン室には3~4人がグループとなり、公開レッスンのようにお互いのレッスンを聞きあい、お互いに学びあう。

レッスンを受ける曲目は、原則バイエルピアノ教則本から指定された曲とし、それぞれ履修者のピアノ演奏技量に応じて選曲される。バイエルピアノ教則本修了者に対してはレッスン担当教員より、課題曲が示される。

ML教室では楽譜を読み、歌い、弾くために必要な基本的な音楽理論を、実際に演奏しながら、鍵盤を使いながら学習する。さらに子どもの歌に見られるリズムや和声について理解し、自身の演奏力に応じたアレンジを自らできるような力を習得する。教科書を使ってドリルを繰り返し、音楽のしくみについて理解する。

授業14回目に授業のまとめとしてML教室での学びに関する筆記試験が、15回目に実技のまとめとしてピアノの実技試験が行われる。実技試験に関しては、バイエルピアノ教則本修了者はバイエルピアノ教則本の中から指定された曲を弾く。バイエルピアノ教則本修了程度以上の者は担当教員と決定した試験曲を弾く。ピアノ課題以外に子どもの歌の弾き歌いが課せられることがある。

(留意事項)

- ・本科目は後期開講科目なので、ピアノの演奏技術の習得としては、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエル修了程度の演奏力を身につけるために、前期の間に学習を進め、60番くらいまで弾けるようにしておくことが望ましい。
- ・バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れれば可能である。またピアノ初心者に対し対策講座など開かれるので積極的に参加すること。
- ・バイエルピアノ教則本修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエルピアノ教則本修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。
- ・経験者は、前期は自習してレベルを保つことに努め、授業での課題は担当の教員と授業の最初に相談し決定して進めていく。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指示された課題曲を練習し、弾けるようにする。MLでの学習課題を予習する。(約1時間)

【事後学修】学習した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。理論の課題を復習する。(ピアノは少しの時間でもよいので毎日練習する。次の授業までトータルで少なくとも2~3時間は練習する。)

評価方法および評価の基準

評価は、授業への参加度(10%)、到達目標2は筆記試験(30%)、到達目標1と3は実技試験(60%)を目安に総合的に判断される。

欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、試験受験は不可とする。

筆記試験、実技試験とも合格点に達しなかった場合は再試験を行う場合がある。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

- ・バイエルを修了していない学生:「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
- ・バイエル修了者:担当教員と相談の上決定。(全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から選曲する。)
- ・二宮紀子「歌って弾いて書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ」音楽之友社 2014年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

保育現場で求められる子どもの歌のピアノ伴奏やリズム活動でのピアノ演奏ができる力を身につけましょう。楽譜が読め、音楽の仕組みを理解し、基本的なピアノ奏法を学んで、子ども達と音楽活動ができる力をつけましょう。毎日の練習が大きな成果をもたらします。少しずつでも毎日練習しましょう。理論は演奏を助けるものとして位置付けています。理論と実践を両輪に総合的に学び、音楽する力を養いましょう。

| | | | |
|---------|------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽表現基礎技能 | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子、山賀 英美 | | |
| ナンバリング | EAg1056 | | |
| 学 科 | 教育人文学部（E）-幼児教育学科 | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 19 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | 演習 | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は幼稚園教諭、保育士を目指す人にとって欠かせない音楽上の基礎知識や技能を学ぶものである。2,3年次開講の「音楽表現応用」に引き継がれ、3年次開講の「保育内容の指導法（音楽表現）」の受講に必要となる基礎的内容を扱うので強く履修を勧める。

科目の概要

楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な理論を学びながら、保育者として身に付けておきたいピアノ演奏の基礎技術習得を目ざす。入学時ピアノ未経験者もバイエルピアノ教則本を修了し、子どもの歌を弾き歌いできる力をつけることが単位認定の必須要件である。

授業の方法（ALを含む）

授業はML教室での理論的学びと一人ひとりに対応したピアノレッスンを組み合わせた形で行われる。授業の半分の時間をMLでピアノを弾きながら楽典、和声理論、子どもの歌の伴奏法を学び、もう半分の時間は各レッスングループ（3~4名）がお互いのレッスンを見学しながら一人ひとりレッスンを受ける。レッスン曲はバイエルピアノ教本を基本とし、経験値に応じた課題曲を課す。授業のまとめとして、理論の筆記試験とピアノの実技試験が行われる。【実技】

到達目標

1. 子どもと音楽活動を行う際に必要となってくるピアノ演奏ができる。
2. 音楽の基礎的な理論を理解し、子どもの歌の特徴を分析できる。
3. 自身の演奏能力に応じたアレンジをして弾き歌いすることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3保育実践、 -4保育者の感性、 -5問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

授業一コマを半分の45分ずつに分け、レッスン室での学びとMLでの学びを組み合わせる。

各レッスン室には3~4人がグループとなり、公開レッスンのようにお互いのレッスンを聞きあい、お互いに学びあう。

レッスンを受ける曲目は、原則バイエルピアノ教則本から指定された曲とし、それぞれ履修者のピアノ演奏技量に応じて選曲される。バイエルピアノ教則本修了者に対してはレッスン担当教員より、課題曲が示される。

ML教室では楽譜を読み、歌い、弾くために必要な基本的な音楽理論を、実際に演奏しながら、鍵盤を使いながら学習する。さらに子どもの歌に見られるリズムや和声について理解し、自身の演奏力に応じたアレンジを自らできるような力を習得する。教科書を使ってドリルを繰り返し、音楽のしくみについて理解する。

授業14回目に授業のまとめとしてML教室での学びに関する筆記試験が、15回目に実技のまとめとしてピアノの実技試験が行われる。実技試験に関しては、バイエルピアノ教則本修了者はバイエルピアノ教則本の中から指定された曲を弾く。バイエルピアノ教則本修了程度以上の者は担当教員と決定した試験曲を弾く。ピアノ課題以外に子どもの歌の弾き歌いが課せられることがある。

(留意事項)

- ・本科目は後期開講科目なので、ピアノの演奏技術の習得としては、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエル修了程度の演奏力を身につけるために、前期の間に学習を進め、60番くらいまで弾けるようにしておくことが望ましい。
- ・バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れば可能である。またピアノ初心者に対し対策講座など開かれるので積極的に参加すること。
- ・バイエルピアノ教則本修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエルピアノ教則本修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。
- ・経験者は、前期は自習してレベルを保つことに努め、授業での課題は担当の教員と授業の最初に相談し決定して進めていく。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指示された課題曲を練習し、弾けるようにする。MLでの学習課題を予習する。(約1時間)

【事後学修】学習した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。理論の課題を復習する。(ピアノは少しの時間でもよいので毎日練習する。次の授業までトータルで少なくとも2~3時間は練習する。)

評価方法および評価の基準

評価は、授業への参加度(10%)、到達目標2は筆記試験(30%)、到達目標1と3は実技試験(60%)を目安に総合的に判断される。

欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、試験受験は不可とする。

筆記試験、実技試験とも合格点に達しなかった場合は再試験を行う場合がある。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

- ・バイエルを修了していない学生:「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
- ・バイエル修了者:担当教員と相談の上決定。(全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から選曲する。)
- ・二宮紀子「歌って弾いて書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ」音楽之友社 2014年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

保育現場で求められる子どもの歌のピアノ伴奏やリズム活動でのピアノ演奏ができる力を身につけましょう。楽譜が読め、音楽の仕組みを理解し、基本的なピアノ奏法を学んで、子ども達と音楽活動ができる力をつけましょう。毎日の練習が大きな成果をもたらします。少しずつでも毎日練習しましょう。理論は演奏を助けるものとして位置付けています。理論と実践を両輪に総合的に学び、音楽する力を養いましょう。

| | | | |
|---------|------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽表現基礎技能 | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子、矢部 尚子 | | |
| ナンバリング | EAg1056 | | |
| 学 科 | 教育人文学部（E）-幼児教育学科 | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 20 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | 演習 | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は幼稚園教諭、保育士を目指す人にとって欠かせない音楽上の基礎知識や技能を学ぶものである。2,3年次開講の「音楽表現応用」に引き継がれ、3年次開講の「保育内容の指導法（音楽表現）」の受講に必要となる基礎的内容を扱うので強く履修を勧める。

科目の概要

楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な理論を学びながら、保育者として身に付けておきたいピアノ演奏の基礎技術習得を目指す。入学時ピアノ未経験者もバイエルピアノ教則本を修了し、子どもの歌を弾き歌いできる力をつけることが単位認定の必須要件である。

授業の方法（ALを含む）

授業はML教室での理論的学びと一人ひとりに対応したピアノレッスンを組み合わせた形で行われる。授業の半分の時間をMLでピアノを弾きながら楽典、和声理論、子どもの歌の伴奏法を学び、もう半分の時間は各レッスングループ（3~4名）がお互いのレッスンを見学しながら一人ひとりレッスンを受ける。レッスン曲はバイエルピアノ教本を基本とし、経験値に応じた課題曲を課す。授業のまとめとして、理論の筆記試験とピアノの実技試験が行われる。【実技】

到達目標

1. 子どもと音楽活動を行う際に必要となってくるピアノ演奏ができる。
2. 音楽の基礎的な理論を理解し、子どもの歌の特徴を分析できる。
3. 自身の演奏能力に応じたアレンジをして弾き歌いすることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3保育実践、 -4保育者の感性、 -5問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

授業一コマを半分の45分ずつに分け、レッスン室での学びとMLでの学びを組み合わせる。

各レッスン室には3~4人がグループとなり、公開レッスンのようにお互いのレッスンを聞きあい、お互いに学びあう。

レッスンを受ける曲目は、原則バイエルピアノ教則本から指定された曲とし、それぞれ履修者のピアノ演奏技量に応じて選曲される。バイエルピアノ教則本修了者に対してはレッスン担当教員より、課題曲が示される。

ML教室では楽譜を読み、歌い、弾くために必要な基本的な音楽理論を、実際に演奏しながら、鍵盤を使いながら学習する。さらに子どもの歌に見られるリズムや和声について理解し、自身の演奏力に応じたアレンジを自らできるような力を習得する。教科書を使ってドリルを繰り返し、音楽のしくみについて理解する。

授業14回目に授業のまとめとしてML教室での学びに関する筆記試験が、15回目に実技のまとめとしてピアノの実技試験が行われる。実技試験に関しては、バイエルピアノ教則本修了者はバイエルピアノ教則本の中から指定された曲を弾く。バイエルピアノ教則本修了程度以上の者は担当教員と決定した試験曲を弾く。ピアノ課題以外に子どもの歌の弾き歌いが課せられることがある。

(留意事項)

- ・本科目は後期開講科目なので、ピアノの演奏技術の習得としては、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエル修了程度の演奏力を身につけるために、前期の間に学習を進め、60番くらいまで弾けるようにしておくことが望ましい。
- ・バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れれば可能である。またピアノ初心者に対し対策講座など開かれるので積極的に参加すること。
- ・バイエルピアノ教則本修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエルピアノ教則本修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。
- ・経験者は、前期は自習してレベルを保つことに努め、授業での課題は担当の教員と授業の最初に相談し決定して進めていく。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指示された課題曲を練習し、弾けるようにする。MLでの学習課題を予習する。(約1時間)

【事後学修】学習した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。理論の課題を復習する。(ピアノは少しの時間でもよいので毎日練習する。次の授業までトータルで少なくとも2~3時間は練習する。)

評価方法および評価の基準

評価は、授業への参加度(10%)、到達目標2は筆記試験(30%)、到達目標1と3は実技試験(60%)を目安に総合的に判断される。

欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、試験受験は不可とする。

筆記試験、実技試験とも合格点に達しなかった場合は再試験を行う場合がある。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

- ・バイエルを修了していない学生:「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
- ・バイエル修了者:担当教員と相談の上決定。(全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から選曲する。)
- ・二宮紀子「歌って弾いて書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ」音楽之友社 2014年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

保育現場で求められる子どもの歌のピアノ伴奏やリズム活動でのピアノ演奏ができる力を身につけましょう。楽譜が読め、音楽の仕組みを理解し、基本的なピアノ奏法を学んで、子ども達と音楽活動ができる力をつけましょう。毎日の練習が大きな成果をもたらします。少しずつでも毎日練習しましょう。理論は演奏を助けるものとして位置付けています。理論と実践を両輪に総合的に学び、音楽する力を養いましょう。

| | | | |
|---------|-------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽表現基礎技能 | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子、浜野 範子 | | |
| ナンバリング | EAg1056 | | |
| 学 科 | 教育人文学部（E）- 幼児教育学科 | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 21 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | 演習 | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は幼稚園教諭、保育士を目指す人にとって欠かせない音楽上の基礎知識や技能を学ぶものである。2, 3年次開講の「音楽表現応用」に引き継がれ、3年次開講の「保育内容の指導法（音楽表現）」の受講に必要となる基礎的内容を扱うので強く履修を勧める。

科目の概要

楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な理論を学びながら、保育者として身に付けておきたいピアノ演奏の基礎技術習得を目指す。入学時ピアノ未経験者もバイエルピアノ教則本を修了し、子どもの歌を弾き歌いできる力をつけることが単位認定の必須要件である。

授業の方法（ALを含む）

授業はML教室での理論的学びと一人ひとりに対応したピアノレッスンを組み合わせた形で行われる。授業の半分の時間をMLでピアノを弾きながら楽典、和声理論、子どもの歌の伴奏法を学び、もう半分の時間は各レッスングループ（3~4名）がお互いのレッスンを見学しながら一人ひとりレッスンを受ける。レッスン曲はバイエルピアノ教本を基本とし、経験値に応じた課題曲を課す。授業のまとめとして、理論の筆記試験とピアノの実技試験が行われる。【実技】

到達目標

1. 子どもと音楽活動を行う際に必要となってくるピアノ演奏ができる。
2. 音楽の基礎的な理論を理解し、子どもの歌の特徴を分析できる。
3. 自身の演奏能力に応じたアレンジをして弾き歌いすることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3保育実践、 -4保育者の感性、 -5問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

授業一コマを半分の45分ずつに分け、レッスン室での学びとMLでの学びを組み合わせる。

各レッスン室には3~4人がグループとなり、公開レッスンのようにお互いのレッスンを聞きあい、お互いに学びあう。

レッスンを受ける曲目は、原則バイエルピアノ教則本から指定された曲とし、それぞれ履修者のピアノ演奏技量に応じて選曲される。バイエルピアノ教則本修了者に対してはレッスン担当教員より、課題曲が示される。

ML教室では楽譜を読み、歌い、弾くために必要な基本的な音楽理論を、実際に演奏しながら、鍵盤を使いながら学習する。さらに子どもの歌に見られるリズムや和声について理解し、自身の演奏力に応じたアレンジを自らできるような力を習得する。教科書を使ってドリルを繰り返し、音楽のしくみについて理解する。

授業14回目に授業のまとめとしてML教室での学びに関する筆記試験が、15回目に実技のまとめとしてピアノの実技試験が行われる。実技試験に関しては、バイエルピアノ教則本修了者はバイエルピアノ教則本の中から指定された曲を弾く。バイエルピアノ教則本修了程度以上の者は担当教員と決定した試験曲を弾く。ピアノ課題以外に子どもの歌の弾き歌いが課せられることがある。

(留意事項)

- ・本科目は後期開講科目なので、ピアノの演奏技術の習得としては、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエル修了程度の演奏力を身につけるために、前期の間に学習を進め、60番くらいまで弾けるようにしておくことが望ましい。
- ・バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れれば可能である。またピアノ初心者に対し対策講座など開かれるので積極的に参加すること。
- ・バイエルピアノ教則本修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエルピアノ教則本修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。
- ・経験者は、前期は自習してレベルを保つことに努め、授業での課題は担当の教員と授業の最初に相談し決定して進めていく。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指示された課題曲を練習し、弾けるようにする。MLでの学習課題を予習する。(約1時間)

【事後学修】学習した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。理論の課題を復習する。(ピアノは少しの時間でもよいので毎日練習する。次の授業までトータルで少なくとも2~3時間は練習する。)

評価方法および評価の基準

評価は、授業への参加度(10%)、到達目標2は筆記試験(30%)、到達目標1と3は実技試験(60%)を目安に総合的に判断される。

欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、試験受験は不可とする。

筆記試験、実技試験とも合格点に達しなかった場合は再試験を行う場合がある。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

- ・バイエルを修了していない学生:「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
- ・バイエル修了者:担当教員と相談の上決定。(全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から選曲する。)
- ・二宮紀子「歌って弾いて書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ」音楽之友社 2014年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

保育現場で求められる子どもの歌のピアノ伴奏やリズム活動でのピアノ演奏ができる力を身につけましょう。楽譜が読め、音楽の仕組みを理解し、基本的なピアノ奏法を学んで、子ども達と音楽活動ができる力をつけましょう。毎日の練習が大きな成果をもたらします。少しずつでも毎日練習しましょう。理論は演奏を助けるものとして位置付けています。理論と実践を両輪に総合的に学び、音楽する力を養いましょう。

| | | | |
|---------|-------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽表現基礎技能 | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子、清水 真理子 | | |
| ナンバリング | EAg1056 | | |
| 学 科 | 教育人文学部（E）- 幼児教育学科 | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 22 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | 演習 | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は幼稚園教諭、保育士を目指す人にとって欠かせない音楽上の基礎知識や技能を学ぶものである。2, 3年次開講の「音楽表現応用」に引き継がれ、3年次開講の「保育内容の指導法（音楽表現）」の受講に必要となる基礎的内容を扱うので強く履修を勧める。

科目の概要

楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な理論を学びながら、保育者として身に付けておきたいピアノ演奏の基礎技術習得を目指す。入学時ピアノ未経験者もバイエルピアノ教則本を修了し、子どもの歌を弾き歌いできる力をつけることが単位認定の必須要件である。

授業の方法（ALを含む）

授業はML教室での理論的学びと一人ひとりに対応したピアノレッスンを組み合わせた形で行われる。授業の半分の時間をMLでピアノを弾きながら楽典、和声理論、子どもの歌の伴奏法を学び、もう半分の時間は各レッスングループ（3~4名）がお互いのレッスンを見学しながら一人ひとりレッスンを受ける。レッスン曲はバイエルピアノ教本を基本とし、経験値に応じた課題曲を課す。授業のまとめとして、理論の筆記試験とピアノの実技試験が行われる。【実技】

到達目標

1. 子どもと音楽活動を行う際に必要となってくるピアノ演奏ができる。
2. 音楽の基礎的な理論を理解し、子どもの歌の特徴を分析できる。
3. 自身の演奏能力に応じたアレンジをして弾き歌いすることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3保育実践、 -4保育者の感性、 -5問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

授業一コマを半分の45分ずつに分け、レッスン室での学びとMLでの学びを組み合わせる。

各レッスン室には3~4人がグループとなり、公開レッスンのようにお互いのレッスンを聞きあい、お互いに学びあう。

レッスンを受ける曲目は、原則バイエルピアノ教則本から指定された曲とし、それぞれ履修者のピアノ演奏技量に応じて選曲される。バイエルピアノ教則本修了者に対してはレッスン担当教員より、課題曲が示される。

ML教室では楽譜を読み、歌い、弾くために必要な基本的な音楽理論を、実際に演奏しながら、鍵盤を使いながら学習する。さらに子どもの歌に見られるリズムや和声について理解し、自身の演奏力に応じたアレンジを自らできるような力を習得する。教科書を使ってドリルを繰り返し、音楽のしくみについて理解する。

授業14回目に授業のまとめとしてML教室での学びに関する筆記試験が、15回目に実技のまとめとしてピアノの実技試験が行われる。実技試験に関しては、バイエルピアノ教則本修了者はバイエルピアノ教則本の中から指定された曲を弾く。バイエルピアノ教則本修了程度以上の者は担当教員と決定した試験曲を弾く。ピアノ課題以外に子どもの歌の弾き歌いが課せられることがある。

(留意事項)

- ・本科目は後期開講科目なので、ピアノの演奏技術の習得としては、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエル修了程度の演奏力を身につけるために、前期の間に学習を進め、60番くらいまで弾けるようにしておくことが望ましい。
- ・バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れれば可能である。またピアノ初心者に対し対策講座など開かれるので積極的に参加すること。
- ・バイエルピアノ教則本修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエルピアノ教則本修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。
- ・経験者は、前期は自習してレベルを保つことに努め、授業での課題は担当の教員と授業の最初に相談し決定して進めていく。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指示された課題曲を練習し、弾けるようにする。MLでの学習課題を予習する。(約1時間)

【事後学修】学習した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。理論の課題を復習する。(ピアノは少しの時間でもよいので毎日練習する。次の授業までトータルで少なくとも2~3時間は練習する。)

評価方法および評価の基準

評価は、授業への参加度(10%)、到達目標2は筆記試験(30%)、到達目標1と3は実技試験(60%)を目安に総合的に判断される。

欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、試験受験は不可とする。

筆記試験、実技試験とも合格点に達しなかった場合は再試験を行う場合がある。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

- ・バイエルを修了していない学生:「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
- ・バイエル修了者:担当教員と相談の上決定。(全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から選曲する。)
- ・二宮紀子「歌って弾いて書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ」音楽之友社 2014年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

保育現場で求められる子どもの歌のピアノ伴奏やリズム活動でのピアノ演奏ができる力を身につけましょう。楽譜が読め、音楽の仕組みを理解し、基本的なピアノ奏法を学んで、子ども達と音楽活動ができる力をつけましょう。毎日の練習が大きな成果をもたらします。少しずつでも毎日練習しましょう。理論は演奏を助けるものとして位置付けています。理論と実践を両輪に総合的に学び、音楽する力を養いましょう。

| | | | |
|---------|------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽表現基礎技能 | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子、市川 節子 | | |
| ナンバリング | EAg1056 | | |
| 学 科 | 教育人文学部（E）-幼児教育学科 | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 23 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | 演習 | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は幼稚園教諭、保育士を目指す人にとって欠かせない音楽上の基礎知識や技能を学ぶものである。2,3年次開講の「音楽表現応用」に引き継がれ、3年次開講の「保育内容の指導法（音楽表現）」の受講に必要となる基礎的内容を扱うので強く履修を勧める。

科目の概要

楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な理論を学びながら、保育者として身に付けておきたいピアノ演奏の基礎技術習得を目指す。入学時ピアノ未経験者もバイエルピアノ教則本を修了し、子どもの歌を弾き歌いできる力をつけることが単位認定の必須要件である。

授業の方法（ALを含む）

授業はML教室での理論的学びと一人ひとりに対応したピアノレッスンを組み合わせた形で行われる。授業の半分の時間をMLでピアノを弾きながら楽典、和声理論、子どもの歌の伴奏法を学び、もう半分の時間は各レッスングループ（3~4名）がお互いのレッスンを見学しながら一人ひとりレッスンを受ける。レッスン曲はバイエルピアノ教本を基本とし、経験値に応じた課題曲を課す。授業のまとめとして、理論の筆記試験とピアノの実技試験が行われる。【実技】

到達目標

1. 子どもと音楽活動を行う際に必要となってくるピアノ演奏ができる。
2. 音楽の基礎的な理論を理解し、子どもの歌の特徴を分析できる。
3. 自身の演奏能力に応じたアレンジをして弾き歌いすることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3保育実践、 -4保育者の感性、 -5問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

授業一コマを半分の45分ずつに分け、レッスン室での学びとMLでの学びを組み合わせる。

各レッスン室には3~4人がグループとなり、公開レッスンのようにお互いのレッスンを聞きあい、お互いに学びあう。

レッスンを受ける曲目は、原則バイエルピアノ教則本から指定された曲とし、それぞれ履修者のピアノ演奏技量に応じて選曲される。バイエルピアノ教則本修了者に対してはレッスン担当教員より、課題曲が示される。

ML教室では楽譜を読み、歌い、弾くために必要な基本的な音楽理論を、実際に演奏しながら、鍵盤を使いながら学習する。さらに子どもの歌に見られるリズムや和声について理解し、自身の演奏力に応じたアレンジを自らできるような力を習得する。教科書を使ってドリルを繰り返し、音楽のしくみについて理解する。

授業14回目に授業のまとめとしてML教室での学びに関する筆記試験が、15回目に実技のまとめとしてピアノの実技試験が行われる。実技試験に関しては、バイエルピアノ教則本修了者はバイエルピアノ教則本の中から指定された曲を弾く。バイエルピアノ教則本修了程度以上の者は担当教員と決定した試験曲を弾く。ピアノ課題以外に子どもの歌の弾き歌いが課せられることがある。

(留意事項)

- ・本科目は後期開講科目なので、ピアノの演奏技術の習得としては、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエル修了程度の演奏力を身につけるために、前期の間に学習を進め、60番くらいまで弾けるようにしておくことが望ましい。
- ・バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れれば可能である。またピアノ初心者に対し対策講座など開かれるので積極的に参加すること。
- ・バイエルピアノ教則本修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエルピアノ教則本修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。
- ・経験者は、前期は自習してレベルを保つことに努め、授業での課題は担当の教員と授業の最初に相談し決定して進めていく。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指示された課題曲を練習し、弾けるようにする。MLでの学習課題を予習する。(約1時間)

【事後学修】学習した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。理論の課題を復習する。(ピアノは少しの時間でもよいので毎日練習する。次の授業までトータルで少なくとも2~3時間は練習する。)

評価方法および評価の基準

評価は、授業への参加度(10%)、到達目標2は筆記試験(30%)、到達目標1と3は実技試験(60%)を目安に総合的に判断される。

欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、試験受験は不可とする。

筆記試験、実技試験とも合格点に達しなかった場合は再試験を行う場合がある。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

- ・バイエルを修了していない学生:「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
- ・バイエル修了者:担当教員と相談の上決定。(全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から選曲する。)
- ・二宮紀子「歌って弾いて書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ」音楽之友社 2014年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

保育現場で求められる子どもの歌のピアノ伴奏やリズム活動でのピアノ演奏ができる力を身につけましょう。楽譜が読め、音楽の仕組みを理解し、基本的なピアノ奏法を学んで、子ども達と音楽活動ができる力をつけましょう。毎日の練習が大きな成果をもたらします。少しずつでも毎日練習しましょう。理論は演奏を助けるものとして位置付けています。理論と実践を両輪に総合的に学び、音楽する力を養いましょう。

| | | | |
|---------|------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽表現基礎技能 | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子、薮崎 伸一郎 | | |
| ナンバリング | EAg1056 | | |
| 学 科 | 教育人文学部（E）-幼児教育学科 | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 24 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | 演習 | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は幼稚園教諭、保育士を目指す人にとって欠かせない音楽上の基礎知識や技能を学ぶものである。2,3年次開講の「音楽表現応用」に引き継がれ、3年次開講の「保育内容の指導法（音楽表現）」の受講に必要となる基礎的内容を扱うので強く履修を勧める。

科目の概要

楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な理論を学びながら、保育者として身に付けておきたいピアノ演奏の基礎技術習得を目指す。入学時ピアノ未経験者もバイエルピアノ教則本を修了し、子どもの歌を弾き歌いできる力をつけることが単位認定の必須要件である。

授業の方法（ALを含む）

授業はML教室での理論的学びと一人ひとりに対応したピアノレッスンを組み合わせた形で行われる。授業の半分の時間をMLでピアノを弾きながら楽典、和声理論、子どもの歌の伴奏法を学び、もう半分の時間は各レッスングループ（3~4名）がお互いのレッスンを見学しながら一人ひとりレッスンを受ける。レッスン曲はバイエルピアノ教本を基本とし、経験値に応じた課題曲を課す。授業のまとめとして、理論の筆記試験とピアノの実技試験が行われる。【実技】

到達目標

1. 子どもと音楽活動を行う際に必要となってくるピアノ演奏ができる。
2. 音楽の基礎的な理論を理解し、子どもの歌の特徴を分析できる。
3. 自身の演奏能力に応じたアレンジをして弾き歌いすることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3保育実践、 -4保育者の感性、 -5問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

授業一コマを半分の45分ずつに分け、レッスン室での学びとMLでの学びを組み合わせる。

各レッスン室には3~4人がグループとなり、公開レッスンのようにお互いのレッスンを聞きあい、お互いに学びあう。

レッスンを受ける曲目は、原則バイエルピアノ教則本から指定された曲とし、それぞれ履修者のピアノ演奏技量に応じて選曲される。バイエルピアノ教則本修了者に対してはレッスン担当教員より、課題曲が示される。

ML教室では楽譜を読み、歌い、弾くために必要な基本的な音楽理論を、実際に演奏しながら、鍵盤を使いながら学習する。さらに子どもの歌に見られるリズムや和声について理解し、自身の演奏力に応じたアレンジを自らできるような力を習得する。教科書を使ってドリルを繰り返し、音楽のしくみについて理解する。

授業14回目に授業のまとめとしてML教室での学びに関する筆記試験が、15回目に実技のまとめとしてピアノの実技試験が行われる。実技試験に関しては、バイエルピアノ教則本修了者はバイエルピアノ教則本の中から指定された曲を弾く。バイエルピアノ教則本修了程度以上の者は担当教員と決定した試験曲を弾く。ピアノ課題以外に子どもの歌の弾き歌いが課せられることがある。

(留意事項)

- ・本科目は後期開講科目なので、ピアノの演奏技術の習得としては、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエル修了程度の演奏力を身につけるために、前期の間に学習を進め、60番くらいまで弾けるようにしておくことが望ましい。
- ・バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れれば可能である。またピアノ初心者に対し対策講座など開かれるので積極的に参加すること。
- ・バイエルピアノ教則本修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエルピアノ教則本修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。
- ・経験者は、前期は自習してレベルを保つことに努め、授業での課題は担当の教員と授業の最初に相談し決定して進めていく。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指示された課題曲を練習し、弾けるようにする。MLでの学習課題を予習する。(約1時間)

【事後学修】学習した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。理論の課題を復習する。(ピアノは少しの時間でもよいので毎日練習する。次の授業までトータルで少なくとも2~3時間は練習する。)

評価方法および評価の基準

評価は、授業への参加度(10%)、到達目標2は筆記試験(30%)、到達目標1と3は実技試験(60%)を目安に総合的に判断される。

欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、試験受験は不可とする。

筆記試験、実技試験とも合格点に達しなかった場合は再試験を行う場合がある。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

- ・バイエルを修了していない学生:「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
- ・バイエル修了者:担当教員と相談の上決定。(全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から選曲する。)
- ・二宮紀子「歌って弾いて書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ」音楽之友社 2014年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

保育現場で求められる子どもの歌のピアノ伴奏やリズム活動でのピアノ演奏ができる力を身につけましょう。楽譜が読め、音楽の仕組みを理解し、基本的なピアノ奏法を学んで、子ども達と音楽活動ができる力をつけましょう。毎日の練習が大きな成果をもたらします。少しずつでも毎日練習しましょう。理論は演奏を助けるものとして位置付けています。理論と実践を両輪に総合的に学び、音楽する力を養いましょう。

| | | | |
|---------|------------------|---------|-------|
| 科目名 | 感じて表現（造形） | | |
| 担当教員名 | 名達 英詔 | | |
| ナンバリング | EAg1057 | | |
| 学 科 | 教育人文学部（E）-幼児教育学科 | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 1Aクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | 演習 | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、学科専門科目に位置づけられた学科卒業必修科目であり、幼稚園教諭、保育士を目指す者にとって必須となる造形表現・活動の基礎的知識・技能を学ぶものである。1年後期の「考えて表現」と合わせ、2年次開講の幼稚園教諭免許状・保育士資格取得のための必修科目となる「保育内容の指導法（造形表現）」の学修に求められる基礎的内容を扱うことから、学年配当に則った計画的な履修を強く勧めるものである。

乳・幼児・児童期の望ましい成長を願う時、造形的環境の担う役割は極めて大きい。主に視覚や触覚を通して“もの”に関わり、感じ、考え、心を表したりする造形活動は、生活をより豊かにする営みであるばかりでなく、人間同士を理解し合える手段として欠かせない行動のひとつである。

そうした人間にとって重要な生きる手段としての造形を、どのように乳・幼児・児童期に保障していけるかを自ら体験的に学ぶ。

科目の概要

大人になると、すでに造形的な価値観も獲得しているが、いわゆる上手下手という狭義の結果論がその価値規準になっていることが多い。造形嫌いになったり、造形活動に無関心になっている学生に、造形活動の大切さや楽しさを体中の感覚を駆使して再認識してもらうことが第一のねらいである。

授業の方法（ALを含む）

造形的行為や行動、造形表現の基礎としての感性や意欲、さらに、さまざまな表現法に関わる技術などは、“もの”との直接体験からの感受習得が望ましい。もの＝身近な素材”に直接触れて体感し、人間にとって“つくる”ことの意味を問い直しながら経験を深めていく演習を通して、感性や意欲を高めながら、幅広い価値観が獲得していく。【実技】【レポート（知識）】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【創作、制作】【ICT】

到達目標

- (1)造形を通して自己の感性を再認識し、価値観を多様に広げることで、子どものあり方を理解できる。
- (2)造形を通して子どもが育つ環境について感じ、造形活動の様子を構想できる。
- (3)造形を通して望ましい保育・教育のあり方を探る態度を自ら醸成できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 子どもの心理・発達の理解
- 4 保育者の感性
- 1 子どもから学び、子どもとともに育つ姿勢

1. プロローグ 五感を駆使して デジタルカメラなどの情報機器の活用について
2. 身近にある材料を使った表現を学ぶ 1 新聞紙【実技】【レポート（知識）】【レポート（表現）】【創作、制作】【ICT】
3. 身近にある材料を使った表現を学ぶ 2 新聞紙【実技】【レポート（知識）】【レポート（表現）】【創作、制作】【ICT】
4. 身近にある材料を使った表現を学ぶ 3 新聞紙【実技】【レポート（知識）】【レポート（表現）】【創作、制作】【ICT】
5. 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ 1 フィンガーペインティング【実技】【レポート（知識）】【レポート（表現）】【創作、制作】【ICT】
6. 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ 2 フィンガーペインティング【実技】【レポート（知識）】【レポート（表現）】【創作、制作】【ICT】
7. 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ 3【実技】【レポート（知識）】【レポート（表現）】【創作、制作】【ICT】
8. 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ 4【実技】【レポート（知識）】【レポート（表現）】【創作、制作】【ICT】
9. 破いた形からイメージを広げて【実技】【レポート（知識）】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【創作、制作】【ICT】
10. 粘土を使った表現について学ぶ 1 土粘土【実技】【レポート（知識）】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【創作、制作】【ICT】
11. 粘土を使った表現について学ぶ 2 土粘土【実技】【レポート（知識）】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【創作、制作】【ICT】
12. 触感覚と表現について お花紙【実技】【レポート（知識）】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【創作、制作】【ICT】
13. 色画用紙を活かした表現を学ぶ【実技】【レポート（知識）】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【創作、制作】【ICT】
14. 光とのかかわり LEDライト【実技】【レポート（知識）】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【創作、制作】【ICT】
15. エピローグ 全体の振り返りと総括【レポート（知識）】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【ICT】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】すべての感覚器官が柔軟に機能するよう体調管理に努めるとともに教科書等を閲覧し、活動に求められる内容の概観を把握しておくこと。また、身支度、用具・材料等も含めた人的・物的環境を構成する準備を進めておくこと。（各授業に対して45分）

【事後学修】少しでも興味を持った行動は再度体験してみたり、教科書等で調べ確認すること。（各授業に対して45分）

評価方法および評価の基準

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、作成、提出された自分自身のポートフォリオにより到達目標の(1)(2)を評価する(60%)。活動への取り組み、学習態度、作品の提出、ポートフォリオにより到達目標の(3)を評価する(40%)。上記を総合評価し60点以上を合格とする。定期試験は実施しない。

【フィードバック】授業の初めに前授業についての質疑を行い学習理解の深化を図る。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】磯部錦司編著『造形表現・図画工作第2版』建帛社

【推薦書】平田智久・小野和『すべての感覚を駆使してわかる乳幼児の造形表現』保育出版社

【参考図書】授業中にて随時紹介

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

本科目では“もの・ごと＝身近な素材”に直接触れて体感し、経験を深めていくため、身支度等の準備は必須である。

| | | | |
|---------|------------------|---------|-------|
| 科目名 | 感じて表現（造形） | | |
| 担当教員名 | 名達 英詔 | | |
| ナンバリング | EAg1057 | | |
| 学 科 | 教育人文学部（E）-幼児教育学科 | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 1Bクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | 演習 | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、学科専門科目に位置づけられた学科卒業必修科目であり、幼稚園教諭、保育士を目指す者にとって必須となる造形表現・活動の基礎的知識・技能を学ぶものである。1年後期の「考えて表現」と合わせ、2年次開講の幼稚園教諭免許状・保育士資格取得のための必修科目となる「保育内容の指導法（造形表現）」の学修に求められる基礎的内容を扱うことから、学年配当に則った計画的な履修を強く勧めるものである。

乳・幼児・児童期の望ましい成長を願う時、造形的環境の担う役割は極めて大きい。主に視覚や触覚を通して“もの”に関わり、感じ、考え、心を表したりする造形活動は、生活をより豊かにする営みであるばかりでなく、人間同士を理解し合える手段として欠かせない行動のひとつである。

そうした人間にとって重要な生きる手段としての造形を、どのように乳・幼児・児童期に保障していけるかを自ら体験的に学ぶ。

科目の概要

大人になると、すでに造形的な価値観も獲得しているが、いわゆる上手下手という狭義の結果論がその価値規準になっていることが多い。造形嫌いになったり、造形活動に無関心になっている学生に、造形活動の大切さや楽しさを体中の感覚を駆使して再認識してもらうことが第一のねらいである。

授業の方法（ALを含む）

造形的行為や行動、造形表現の基礎としての感性や意欲、さらに、さまざまな表現法に関わる技術などは、“もの”との直接体験からの感受習得が望ましい。もの＝身近な素材”に直接触れて体感し、人間にとって“つくる”ことの意味を問い直しながら経験を深めていく演習を通して、感性や意欲を高めながら、幅広い価値観が獲得していく。【実技】【レポート（知識）】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【創作、制作】【ICT】

到達目標

- (1)造形を通して自己の感性を再認識し、価値観を多様に広げることで、子どものあり方を理解できる。
- (2)造形を通して子どもが育つ環境について感じ、造形活動の様子を構想できる。
- (3)造形を通して望ましい保育・教育のあり方を探る態度を自ら醸成できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 子どもの心理・発達の理解
- 4 保育者の感性
- 1 子どもから学び、子どもとともに育つ姿勢

内容

1. プロローグ 五感を駆使して デジタルカメラなどの情報機器の活用について
2. 身近にある材料を使った表現を学ぶ 1 新聞紙【実技】【レポート（知識）】【レポート（表現）】【創作、制作】【ICT】
3. 身近にある材料を使った表現を学ぶ 2 新聞紙【実技】【レポート（知識）】【レポート（表現）】【創作、制作】【ICT】
4. 身近にある材料を使った表現を学ぶ 3 新聞紙【実技】【レポート（知識）】【レポート（表現）】【創作、制作】【ICT】
5. 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ 1 フィンガーペインティング【実技】【レポート（知識）】【レポート（表現）】【創作、制作】【ICT】
6. 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ 2 フィンガーペインティング【実技】【レポート（知識）】【レポート（表現）】【創作、制作】【ICT】
7. 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ 3【実技】【レポート（知識）】【レポート（表現）】【創作、制作】【ICT】
8. 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ 4【実技】【レポート（知識）】【レポート（表現）】【創作、制作】【ICT】
9. 破いた形からイメージを広げて【実技】【レポート（知識）】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【創作、制作】【ICT】
10. 粘土を使った表現について学ぶ 1 土粘土【実技】【レポート（知識）】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【創作、制作】【ICT】
11. 粘土を使った表現について学ぶ 2 土粘土【実技】【レポート（知識）】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【創作、制作】【ICT】
12. 触感覚と表現について お花紙【実技】【レポート（知識）】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【創作、制作】【ICT】
13. 色画用紙を活かした表現を学ぶ【実技】【レポート（知識）】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【創作、制作】【ICT】
14. 光とのかかわり LEDライト【実技】【レポート（知識）】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【創作、制作】【ICT】
15. エピローグ 全体の振り返りと総括【レポート（知識）】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【ICT】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】すべての感覚器官が柔軟に機能するよう体調管理に努めるとともに教科書等を閲覧し、活動に求められる内容の概観を把握しておくこと。また、身支度、用具・材料等も含めた人的・物的環境を構成する準備を進めておくこと。（各授業に対して45分）

【事後学修】少しでも興味を持った行動は再度体験してみたり、教科書等で調べ確認すること。（各授業に対して45分）

評価方法および評価の基準

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、作成、提出された自分自身のポートフォリオにより到達目標の（1）（2）を評価する（60％）。活動への取り組み、学習態度、作品の提出、ポートフォリオにより到達目標の（3）を評価する（40％）。上記を総合評価し60点以上を合格とする。定期試験は実施しない。

【フィードバック】授業の初めに前授業についての質疑を行い学習理解の深化を図る。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】磯部錦司編著『造形表現・図画工作第2版』建帛社

【推薦書】平田智久・小野和『すべての感覚を駆使してわかる乳幼児の造形表現』保育出版社

【参考図書】授業中にて随時紹介

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

本科目では“もの・ごと＝身近な素材”に直接触れて体感し、経験を深めていくため、身支度等の準備は必須である。

| | | | |
|---------|------------------|---------|-------|
| 科目名 | 感じて表現（造形） | | |
| 担当教員名 | 名達 英詔 | | |
| ナンバリング | EAg1057 | | |
| 学 科 | 教育人文学部（E）-幼児教育学科 | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 10クラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | 演習 | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、学科専門科目に位置づけられた学科卒業必修科目であり、幼稚園教諭、保育士を目指す者にとって必須となる造形表現・活動の基礎的知識・技能を学ぶものである。1年後期の「考えて表現」と合わせ、2年次開講の幼稚園教諭免許状・保育士資格取得のための必修科目となる「保育内容の指導法（造形表現）」の学修に求められる基礎的内容を扱うことから、学年配当に則った計画的な履修を強く勧めるものである。

乳・幼児・児童期の望ましい成長を願う時、造形的環境の担う役割は極めて大きい。主に視覚や触覚を通して“もの”に関わり、感じ、考え、心を表したりする造形活動は、生活をより豊かにする営みであるばかりでなく、人間同士を理解し合える手段として欠かせない行動のひとつである。

そうした人間にとって重要な生きる手段としての造形を、どのように乳・幼児・児童期に保障していけるかを自ら体験的に学ぶ。

科目の概要

大人になると、すでに造形的な価値観も獲得しているが、いわゆる上手下手という狭義の結果論がその価値規準になっていることが多い。造形嫌いになったり、造形活動に無関心になっている学生に、造形活動の大切さや楽しさを体中の感覚を駆使して再認識してもらうことが第一のねらいである。

授業の方法（ALを含む）

造形的行為や行動、造形表現の基礎としての感性や意欲、さらに、さまざまな表現法に関わる技術などは、“もの”との直接体験からの感受習得が望ましい。もの＝身近な素材”に直接触れて体感し、人間にとって“つくる”ことの意味を問い直しながら経験を深めていく演習を通して、感性や意欲を高めながら、幅広い価値観が獲得していく。【実技】【レポート（知識）】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【創作、制作】【ICT】

到達目標

- (1)造形を通して自己の感性を再認識し、価値観を多様に広げることで、子どものあり方を理解できる。
- (2)造形を通して子どもが育つ環境について感じ、造形活動の様子を構想できる。
- (3)造形を通して望ましい保育・教育のあり方を探る態度を自ら醸成できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 子どもの心理・発達の理解
- 4 保育者の感性
- 1 子どもから学び、子どもとともに育つ姿勢

内容

1. プロローグ 五感を駆使して デジタルカメラなどの情報機器の活用について
2. 身近にある材料を使った表現を学ぶ 1 新聞紙【実技】【レポート（知識）】【レポート（表現）】【創作、制作】【ICT】
3. 身近にある材料を使った表現を学ぶ 2 新聞紙【実技】【レポート（知識）】【レポート（表現）】【創作、制作】【ICT】
4. 身近にある材料を使った表現を学ぶ 3 新聞紙【実技】【レポート（知識）】【レポート（表現）】【創作、制作】【ICT】
5. 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ 1 フィンガーペインティング【実技】【レポート（知識）】【レポート（表現）】【創作、制作】【ICT】
6. 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ 2 フィンガーペインティング【実技】【レポート（知識）】【レポート（表現）】【創作、制作】【ICT】
7. 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ 3【実技】【レポート（知識）】【レポート（表現）】【創作、制作】【ICT】
8. 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ 4【実技】【レポート（知識）】【レポート（表現）】【創作、制作】【ICT】
9. 破いた形からイメージを広げて【実技】【レポート（知識）】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【創作、制作】【ICT】
10. 粘土を使った表現について学ぶ 1 土粘土【実技】【レポート（知識）】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【創作、制作】【ICT】
11. 粘土を使った表現について学ぶ 2 土粘土【実技】【レポート（知識）】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【創作、制作】【ICT】
12. 触感覚と表現について お花紙【実技】【レポート（知識）】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【創作、制作】【ICT】
13. 色画用紙を活かした表現を学ぶ【実技】【レポート（知識）】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【創作、制作】【ICT】
14. 光とのかかわり LEDライト【実技】【レポート（知識）】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【創作、制作】【ICT】
15. エピローグ 全体の振り返りと総括【レポート（知識）】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【ICT】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】すべての感覚器官が柔軟に機能するよう体調管理に努めるとともに教科書等を閲覧し、活動に求められる内容の概観を把握しておくこと。また、身支度、用具・材料等も含めた人的・物的環境を構成する準備を進めておくこと。（各授業に対して45分）

【事後学修】少しでも興味を持った行動は再度体験してみたり、教科書等で調べ確認すること。（各授業に対して45分）

評価方法および評価の基準

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、作成、提出された自分自身のポートフォリオにより到達目標の(1)(2)を評価する(60%)。活動への取り組み、学習態度、作品の提出、ポートフォリオにより到達目標の(3)を評価する(40%)。上記を総合評価し60点以上を合格とする。定期試験は実施しない。

【フィードバック】授業の初めに前授業についての質疑を行い学習理解の深化を図る。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】磯部錦司編著『造形表現・図画工作第2版』建帛社

【推薦書】平田智久・小野和『すべての感覚を駆使してわかる乳幼児の造形表現』保育出版社

【参考図書】授業中にて随時紹介

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

本科目では“もの・ごと＝身近な素材”に直接触れて体感し、経験を深めていくため、身支度等の準備は必須である。

| | | | |
|---------|------------------|---------|-------|
| 科目名 | 感じて表現（造形） | | |
| 担当教員名 | 名達 英詔 | | |
| ナンバリング | EAg1057 | | |
| 学 科 | 教育人文学部（E）-幼児教育学科 | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 1Dクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | 演習 | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、学科専門科目に位置づけられた学科卒業必修科目であり、幼稚園教諭、保育士を目指す者にとって必須となる造形表現・活動の基礎的知識・技能を学ぶものである。1年後期の「考えて表現」と合わせ、2年次開講の幼稚園教諭免許状・保育士資格取得のための必修科目となる「保育内容の指導法（造形表現）」の学修に求められる基礎的内容を扱うことから、学年配当に則った計画的な履修を強く勧めるものである。

乳・幼児・児童期の望ましい成長を願う時、造形的環境の担う役割は極めて大きい。主に視覚や触覚を通して“もの”に関わり、感じ、考え、心を表したりする造形活動は、生活をより豊かにする営みであるばかりでなく、人間同士を理解し合える手段として欠かせない行動のひとつである。

そうした人間にとって重要な生きる手段としての造形を、どのように乳・幼児・児童期に保障していけるかを自ら体験的に学ぶ。

科目の概要

大人になると、すでに造形的な価値観も獲得しているが、いわゆる上手下手という狭義の結果論がその価値規準になっていることが多い。造形嫌いになったり、造形活動に無関心になっている学生に、造形活動の大切さや楽しさを体中の感覚を駆使して再認識してもらうことが第一のねらいである。

授業の方法（ALを含む）

造形的行為や行動、造形表現の基礎としての感性や意欲、さらに、さまざまな表現法に関わる技術などは、“もの”との直接体験からの感受習得が望ましい。もの＝身近な素材”に直接触れて体感し、人間にとって“つくる”ことの意味を問い直しながら経験を深めていく演習を通して、感性や意欲を高めながら、幅広い価値観が獲得していく。【実技】【レポート（知識）】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【創作、制作】【ICT】

到達目標

- (1)造形を通して自己の感性を再認識し、価値観を多様に広げることで、子どものあり方を理解できる。
- (2)造形を通して子どもが育つ環境について感じ、造形活動の様子を構想できる。
- (3)造形を通して望ましい保育・教育のあり方を探る態度を自ら醸成できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 子どもの心理・発達の理解
- 4 保育者の感性
- 1 子どもから学び、子どもとともに育つ姿勢

内容

1. プロローグ 五感を駆使して デジタルカメラなどの情報機器の活用について
2. 身近にある材料を使った表現を学ぶ 1 新聞紙【実技】【レポート(知識)】【レポート(表現)】【創作、制作】【ICT】
3. 身近にある材料を使った表現を学ぶ 2 新聞紙【実技】【レポート(知識)】【レポート(表現)】【創作、制作】【ICT】
4. 身近にある材料を使った表現を学ぶ 3 新聞紙【実技】【レポート(知識)】【レポート(表現)】【創作、制作】【ICT】
5. 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ 1 フィンガーペインティング【実技】【レポート(知識)】【レポート(表現)】【創作、制作】【ICT】
6. 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ 2 フィンガーペインティング【実技】【レポート(知識)】【レポート(表現)】【創作、制作】【ICT】
7. 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ 3【実技】【レポート(知識)】【レポート(表現)】【創作、制作】【ICT】
8. 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ 4【実技】【レポート(知識)】【レポート(表現)】【創作、制作】【ICT】
9. 破いた形からイメージを広げて【実技】【レポート(知識)】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】【創作、制作】【ICT】
10. 粘土を使った表現について学ぶ 1 土粘土【実技】【レポート(知識)】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】【創作、制作】【ICT】
11. 粘土を使った表現について学ぶ 2 土粘土【実技】【レポート(知識)】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】【創作、制作】【ICT】
12. 触感覚と表現について お花紙【実技】【レポート(知識)】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】【創作、制作】【ICT】
13. 色画用紙を活かした表現を学ぶ【実技】【レポート(知識)】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】【創作、制作】【ICT】
14. 光とのかかわり LEDライト【実技】【レポート(知識)】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】【創作、制作】【ICT】
15. エピローグ 全体の振り返りと総括【レポート(知識)】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】【ICT】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】すべての感覚器官が柔軟に機能するよう体調管理に努めるとともに教科書等を閲覧し、活動に求められる内容の概観を把握しておくこと。また、身支度、用具・材料等も含めた人的・物的環境を構成する準備を進めておくこと。(各授業に対して45分)

【事後学修】少しでも興味を持った行動は再度体験してみたり、教科書等で調べ確認すること。(各授業に対して45分)

評価方法および評価の基準

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、作成、提出された自分自身のポートフォリオにより到達目標の(1)(2)を評価する(60%)。活動への取り組み、学習態度、作品の提出、ポートフォリオにより到達目標の(3)を評価する(40%)。上記を総合評価し60点以上を合格とする。定期試験は実施しない。

【フィードバック】授業の初めに前授業についての質疑を行い学習理解の深化を図る。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】磯部錦司編著『造形表現・図画工作第2版』建帛社

【推薦書】平田智久・小野和『すべての感覚を駆使してわかる乳幼児の造形表現』保育出版社

【参考図書】授業中にて随時紹介

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

本科目では“もの・ごと＝身近な素材”に直接触れて体感し、経験を深めていくため、身支度等の準備は必須である。

| | | | |
|---------|------------------|---------|-------|
| 科目名 | 考えて表現（造形） | | |
| 担当教員名 | 水島 ゆめ | | |
| ナンバリング | EAg1058 | | |
| 学 科 | 教育人文学部（E）-幼児教育学科 | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 2Aクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | 演習 | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、学科専門科目に位置づけられた学科卒業必修科目であり、幼稚園教諭、保育士を目指す者にとって必須となる造形表現・活動の基礎的知識・技能を学ぶものである。1年前期の「感じて表現(造形)」と合わせ、2年次開講の幼稚園教諭免許状・保育士資格取得のための必修科目となる「保育内容の指導法（造形表現）」の学修に求められる基礎的内容を扱うことから、学年配当に則った計画的な履修を強く勧めるものである。

乳・幼児・児童期の望ましい成長を願う時、造形的環境の担う役割は極めて大きい。主に視覚や触覚を通して“もの”に関わり、感じ、考え、心を表したりする造形活動は、生活をより豊かにする営みであるばかりでなく、人間同士を理解し合える手段として欠かせない行動のひとつである。

そうした人間にとって重要な生きる手段としての造形を、どのように乳・幼児・児童期に保障していけるかを自ら体験的に学ぶ。

科目の概要

大人になると、すでに造形的な価値観も獲得しているが、いわゆる上手下手という狭義の結果論がその価値規準になっていることが多い。造形嫌いになったり、造形活動に無関心になっている学生に、造形活動の大切さや楽しさを体中の感覚を駆使して再認識してもらうことが第一のねらいである。

授業の方法（ALを含む）

造形的行為や行動、造形表現の基礎としての感性や意欲、さらに、さまざまな表現法に関わる技術などは、“もの”との直接体験からの感受習得が望ましい。もの=身近な素材”に直接触れて体感し、人間にとって“つくる”ことの意味を問い直しながら経験を深めていく演習を通して、感性や意欲を高めながら、幅広い価値観が獲得していく。【実技】【レポート（知識）】【レポート（表現）】【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【PBL】【創作・制作】【ICT】

到達目標

- (1)造形を通して自己の感性を再認識し、価値観を多様に広げることで、子どものあり方を理解できる。
- (2)造形を通して子どもが育つ環境について感じ、造形活動の様子が構想できる。
- (3)造形を通して望ましい保育・教育のあり方を探る態度を自ら醸成できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 子どもの心理・発達の理解
- 4 保育者の感性
- 1 子どもから学び、子どもとともに育つ姿勢？

内容

造形的行為や行動、造形表現の基礎としての感性や意欲、さらに、さまざまな表現法に関わる技術などは、“もの”との直接体験からの感受習得が望ましい。そこで演習を通して、感性や意欲を高めながら、幅広い価値観が獲得できることを望み、感じて表現（造形）および考えて表現（造形）を連動させておこなう。従って、感じて表現（造形）も継続して履修することを望む。

この授業では“もの=身近な素材”に直接触れて体感し、人間にとって“つくる”ことの意味を問い直しながら経験を深めていく。そのために身支度等の準備は必須である。また、グループワーク、ディスカッション、講義等織り交ぜながら実践的に学びを深めていきます。

| | |
|----|---|
| 1 | オリエンテーション：授業の内容、扱う道具、評価方法、約束事など |
| 2 | 身近にある材料を使った表現：段ボール1【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、討議・討論、PBL、創作・制作】 |
| 3 | 身近にある材料を使った表現：段ボール2【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、討議・討論、PBL、創作・制作】 |
| 4 | 身近にある材料を使った表現：段ボール3【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、討議・討論、PBL、創作・制作】 |
| 5 | 身近にある材料を使った表現：段ボール4【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、討議・討論、プレゼンテーション、PBL、創作・制作】 |
| 6 | つくったもので遊び場づくり【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、プレゼンテーション、PBL、創作・制作】【ICT】 |
| 7 | 前半のまとめ：造形について考えるグループディスカッションとプレゼンテーション【グループワーク、討議・討論、プレゼンテーション、PBL】【ICT】 |
| 8 | 様々な描画材料を使った表現：クレヨン等【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、PBL、創作・制作】 |
| 9 | 様々な描画材料を使った表現：マーカー等【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、PBL、創作・制作】 |
| 10 | 身近にある材料を使った表現：木材等【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、PBL、創作・制作】 |
| 11 | 身近にある材料を使った表現：紙等【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、PBL、創作・制作】 |
| 12 | 身近にある材料を使った表現：自然材等【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、PBL、創作・制作】 |
| 13 | 身近な材料でつくって遊ぶ1【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、討議・討論、プレゼンテーション、PBL、創作・制作】【ICT】 |
| 14 | 身近な材料でつくって遊ぶ2【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、討議・討論、プレゼンテーション、PBL、創作・制作】【ICT】 |
| 15 | まとめ：造形について考える【レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、討議・討論、プレゼンテーション、PBL】【ICT】 |

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】必要に応じて授業で使用する材料・用具・身支度・体調を準備すること。（各授業に対して60分）

【事後学修】教科書等を参考に授業を通して体験したことを専用スケッチブックにまとめ理解を深めること。（各授業に対して60分）？

評価方法および評価の基準

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、自分自身のポートフォリオを作成する（60点）。また活動への取り組み、学習態度、作品の提出（40点）とし、総合評価60点以上で合格とする。定期試験は実施しない。必要に応じて活動や作品等の提出物について授業内において振り返りを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書

- ・磯部錦司『造形表現・図画工作』建帛社

推薦書

- ・授業内で適宜紹介

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

主体的に創造する楽しさを味わい、子ど？もの気持ちや視線をイメージしながら活動しましょう。

実技が中心となるので、作業しやすい服装を心がけてくた？さい。

基本的な用具等は、各自で調達・用意をお願いします。

友人との共同の活動や後片付けなど？の環境設定等に気を配りなか？ら活動しましょう。

| | | | |
|---------|------------------|---------|-------|
| 科目名 | 考えて表現（造形） | | |
| 担当教員名 | 水島 ゆめ | | |
| ナンバリング | EAg1058 | | |
| 学 科 | 教育人文学部（E）-幼児教育学科 | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 2Bクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | 演習 | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、学科専門科目に位置づけられた学科卒業必修科目であり、幼稚園教諭、保育士を目指す者にとって必須となる造形表現・活動の基礎的知識・技能を学ぶものである。1年前期の「感じて表現(造形)」と合わせ、2年次開講の幼稚園教諭免許状・保育士資格取得のための必修科目となる「保育内容の指導法（造形表現）」の学修に求められる基礎的内容を扱うことから、学年配当に則った計画的な履修を強く勧めるものである。

乳・幼児・児童期の望ましい成長を願う時、造形的環境の担う役割は極めて大きい。主に視覚や触覚を通して“もの”に関わり、感じ、考え、心を表したりする造形活動は、生活をより豊かにする営みであるばかりでなく、人間同士を理解し合える手段として欠かせない行動のひとつである。

そうした人間にとって重要な生きる手段としての造形を、どのように乳・幼児・児童期に保障していけるかを自ら体験的に学ぶ。

科目の概要

大人になると、すでに造形的な価値観も獲得しているが、いわゆる上手下手という狭義の結果論がその価値規準になっていることが多い。造形嫌いになったり、造形活動に無関心になっている学生に、造形活動の大切さや楽しさを体中の感覚を駆使して再認識してもらうことが第一のねらいである。

授業の方法（ALを含む）

造形的行為や行動、造形表現の基礎としての感性や意欲、さらに、さまざまな表現法に関わる技術などは、“もの”との直接体験からの感受習得が望ましい。もの＝身近な素材”に直接触れて体感し、人間にとって“つくる”ことの意味を問い直しながら経験を深めていく演習を通して、感性や意欲を高めながら、幅広い価値観が獲得していく。【実技】【レポート（知識）レポート（表現）、グループワーク、討議・討論、プレゼンテーション、PBL、創作・制作】【ICT】

到達目標

- (1)造形を通して自己の感性を再認識し、価値観を多様に広げることで、子どものあり方を理解できる。
- (2)造形を通して子どもが育つ環境について感じ、造形活動の様子を構想できる。
- (3)造形を通して望ましい保育・教育のあり方を探る態度を自ら醸成できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 子どもの心理・発達の理解
- 4 保育者の感性
- 1 子どもから学び、子どもとともに育つ姿勢？

内容

造形的行為や行動、造形表現の基礎としての感性や意欲、さらに、さまざまな表現法に関わる技術などは、“もの”との直接体験からの感受習得が望ましい。そこで演習を通して、感性や意欲を高めながら、幅広い価値観が獲得できることを望み、感じて表現（造形）および考えて表現（造形）を連動させておこなう。従って、感じて表現（造形）も継続して履修することを望む。

この授業では“もの=身近な素材”に直接触れて体感し、人間にとって“つくる”ことの意味を問い直しながら経験を深めていく。そのために身支度等の準備は必須である。また、グループワーク、ディスカッション、講義等織り交ぜながら実践的に学びを深めていきます。

| | |
|----|---|
| 1 | オリエンテーション：授業の内容、扱う道具、評価方法、約束事など |
| 2 | 身近にある材料を使った表現：段ボール1【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、討議・討論、PBL、創作・制作】 |
| 3 | 身近にある材料を使った表現：段ボール2【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、討議・討論、PBL、創作・制作】 |
| 4 | 身近にある材料を使った表現：段ボール3【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、討議・討論、PBL、創作・制作】 |
| 5 | 身近にある材料を使った表現：段ボール4【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、討議・討論、プレゼンテーション、PBL、創作・制作】 |
| 6 | つくったもので遊び場づくり【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、プレゼンテーション、PBL、創作・制作】【ICT】 |
| 7 | 前半のまとめ：造形について考えるグループディスカッションとプレゼンテーション【グループワーク、討議・討論、プレゼンテーション、PBL】【ICT】 |
| 8 | 様々な描画材料を使った表現：クレヨン等【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、PBL、創作・制作】 |
| 9 | 様々な描画材料を使った表現：マーカー等【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、PBL、創作・制作】 |
| 10 | 身近にある材料を使った表現：木材等【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、PBL、創作・制作】 |
| 11 | 身近にある材料を使った表現：紙等【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、PBL、創作・制作】 |
| 12 | 身近にある材料を使った表現：自然材等【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、PBL、創作・制作】 |
| 13 | 身近な材料でつくって遊ぶ1【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、討議・討論、プレゼンテーション、PBL、創作・制作】【ICT】 |
| 14 | 身近な材料でつくって遊ぶ2【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、討議・討論、プレゼンテーション、PBL、創作・制作】【ICT】 |
| 15 | まとめ：造形について考える【レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、討議・討論、プレゼンテーション、PBL】【ICT】 |

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】必要に応じて授業で使用する材料・用具・身支度・体調を準備すること。（各授業に対して60分）

【事後学修】教科書等を参考に授業を通して体験したことを専用スケッチブックにまとめ理解を深めること。（各授業に対して60分）？

評価方法および評価の基準

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資

料などをもとに加え、自分自身のポートフォリオを作成する（60点）。また活動への取り組み、学習態度、作品の提出（40点）とし、総合評価60点以上で合格とする。定期試験は実施しない。必要に応じて活動や作品等の提出物について授業内において振り返りを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書

- ・磯部錦司『造形表現・図画工作』建帛社

推薦書

- ・授業内で適宜紹介

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

主体的に創造する楽しさを味わい、子と？もの気持ちや視線をイメージしながら活動しましょう。

実技が中心となるので、作業しやすい服装を心がけてください。

基本的な用具等は、各自で調達・用意をお願いします。

友人との共同の活動や後片付けなど？の環境設定等に気を配りながら活動しましょう。

| | | | |
|---------|------------------|---------|-------|
| 科目名 | 考えて表現（造形） | | |
| 担当教員名 | 水島 ゆめ | | |
| ナンバリング | EAg1058 | | |
| 学 科 | 教育人文学部（E）-幼児教育学科 | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 2Cクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | 演習 | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、学科専門科目に位置づけられた学科卒業必修科目であり、幼稚園教諭、保育士を目指す者にとって必須となる造形表現・活動の基礎的知識・技能を学ぶものである。1年前期の「感じて表現(造形)」と合わせ、2年次開講の幼稚園教諭免許状・保育士資格取得のための必修科目となる「保育内容の指導法（造形表現）」の学修に求められる基礎的内容を扱うことから、学年配当に則った計画的な履修を強く勧めるものである。

乳・幼児・児童期の望ましい成長を願う時、造形的環境の担う役割は極めて大きい。主に視覚や触覚を通して“もの”に関わり、感じ、考え、心を表したりする造形活動は、生活をより豊かにする営みであるばかりでなく、人間同士を理解し合える手段として欠かせない行動のひとつである。

そうした人間にとって重要な生きる手段としての造形を、どのように乳・幼児・児童期に保障していけるかを自ら体験的に学ぶ。

科目の概要

大人になると、すでに造形的な価値観も獲得しているが、いわゆる上手下手という狭義の結果論がその価値規準になっていることが多い。造形嫌いになったり、造形活動に無関心になっている学生に、造形活動の大切さや楽しさを体中の感覚を駆使して再認識してもらうことが第一のねらいである。

授業の方法（ALを含む）

造形的行為や行動、造形表現の基礎としての感性や意欲、さらに、さまざまな表現法に関わる技術などは、“もの”との直接体験からの感受習得が望ましい。もの＝身近な素材”に直接触れて体感し、人間にとって“つくる”ことの意味を問い直しながら経験を深めていく演習を通して、感性や意欲を高めながら、幅広い価値観が獲得していく。【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、討議・討論、プレゼンテーション、PBL、創作・制作】【ICT】

到達目標

- (1)造形を通して自己の感性を再認識し、価値観を多様に広げることで、子どものあり方を理解できる。
- (2)造形を通して子どもが育つ環境について感じ、造形活動の様子を構想できる。
- (3)造形を通して望ましい保育・教育のあり方を探る態度を自ら醸成できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 子どもの心理・発達の理解
- 4 保育者の感性
- 1 子どもから学び、子どもとともに育つ姿勢？

内容

造形的行為や行動、造形表現の基礎としての感性や意欲、さらに、さまざまな表現法に関わる技術などは、“もの”との直接体験からの感受習得が望ましい。そこで演習を通して、感性や意欲を高めながら、幅広い価値観が獲得できることを望み、感じて表現（造形）および考えて表現（造形）を連動させておこなう。従って、感じて表現（造形）も継続して履修することを望む。

この授業では“もの=身近な素材”に直接触れて体感し、人間にとって“つくる”ことの意味を問い直しながら経験を深めていく。そのために身支度等の準備は必須である。また、グループワーク、ディスカッション、講義等織り交ぜながら実践的に学びを深めていきます。

| | |
|----|---|
| 1 | オリエンテーション：授業の内容、扱う道具、評価方法、約束事など |
| 2 | 身近にある材料を使った表現：段ボール1【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、討議・討論、PBL、創作・制作】 |
| 3 | 身近にある材料を使った表現：段ボール2【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、討議・討論、PBL、創作・制作】 |
| 4 | 身近にある材料を使った表現：段ボール3【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、討議・討論、PBL、創作・制作】 |
| 5 | 身近にある材料を使った表現：段ボール4【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、討議・討論、プレゼンテーション、PBL、創作・制作】 |
| 6 | つくったもので遊び場づくり【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、プレゼンテーション、PBL、創作・制作】【ICT】 |
| 7 | 前半のまとめ：造形について考えるグループディスカッションとプレゼンテーション【グループワーク、討議・討論、プレゼンテーション、PBL】【ICT】 |
| 8 | 様々な描画材料を使った表現：クレヨン等【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、PBL、創作・制作】 |
| 9 | 様々な描画材料を使った表現：マーカー等【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、PBL、創作・制作】 |
| 10 | 身近にある材料を使った表現：木材等【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、PBL、創作・制作】 |
| 11 | 身近にある材料を使った表現：紙等【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、PBL、創作・制作】 |
| 12 | 身近にある材料を使った表現：自然材等【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、PBL、創作・制作】 |
| 13 | 身近な材料でつくって遊ぶ1【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、討議・討論、プレゼンテーション、PBL、創作・制作】【ICT】 |
| 14 | 身近な材料でつくって遊ぶ2【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、討議・討論、プレゼンテーション、PBL、創作・制作】【ICT】 |
| 15 | まとめ：造形について考える【レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、討議・討論、プレゼンテーション、PBL】【ICT】 |

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】必要に応じて授業で使用する材料・用具・身支度・体調を準備すること。（各授業に対して60分）

【事後学修】教科書等を参考に授業を通して体験したことを専用スケッチブックにまとめ理解を深めること。（各授業に対して60分）？

評価方法および評価の基準

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資

料などをもとに加え、自分自身のポートフォリオを作成する（60点）。また活動への取り組み、学習態度、作品の提出（40点）とし、総合評価60点以上で合格とする。定期試験は実施しない。必要に応じて活動や作品等の提出物について授業内において振り返りを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書

- ・磯部錦司『造形表現・図画工作』建帛社

推薦書

- ・授業内で適宜紹介

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

主体的に創造する楽しさを味わい、子と？もの気持ちや視線をイメージしながら活動しましょう。

実技が中心となるので、作業しやすい服装を心がけてください。

基本的な用具等は、各自で調達・用意をお願いします。

友人との共同の活動や後片付けなど？の環境設定等に気を配りながら活動しましょう。

| | | | |
|---------|------------------|---------|-------|
| 科目名 | 考えて表現（造形） | | |
| 担当教員名 | 水島 ゆめ | | |
| ナンバリング | EAg1058 | | |
| 学 科 | 教育人文学部（E）-幼児教育学科 | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 2Dクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | 演習 | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、学科専門科目に位置づけられた学科卒業必修科目であり、幼稚園教諭、保育士を目指す者にとって必須となる造形表現・活動の基礎的知識・技能を学ぶものである。1年前期の「感じて表現(造形)」と合わせ、2年次開講の幼稚園教諭免許状・保育士資格取得のための必修科目となる「保育内容の指導法（造形表現）」の学修に求められる基礎的内容を扱うことから、学年配当に則った計画的な履修を強く勧めるものである。

乳・幼児・児童期の望ましい成長を願う時、造形的環境の担う役割は極めて大きい。主に視覚や触覚を通して“もの”に関わり、感じ、考え、心を表したりする造形活動は、生活をより豊かにする営みであるばかりでなく、人間同士を理解し合える手段として欠かせない行動のひとつである。

そうした人間にとって重要な生きる手段としての造形を、どのように乳・幼児・児童期に保障していけるかを自ら体験的に学ぶ。

科目の概要

大人になると、すでに造形的な価値観も獲得しているが、いわゆる上手下手という狭義の結果論がその価値規準になっていることが多い。造形嫌いになったり、造形活動に無関心になっている学生に、造形活動の大切さや楽しさを体中の感覚を駆使して再認識してもらうことが第一のねらいである。

授業の方法（ALを含む）

造形的行為や行動、造形表現の基礎としての感性や意欲、さらに、さまざまな表現法に関わる技術などは、“もの”との直接体験からの感受習得が望ましい。もの＝身近な素材”に直接触れて体感し、人間にとって“つくる”ことの意味を問い直しながら経験を深めていく演習を通して、感性や意欲を高めながら、幅広い価値観が獲得していく。【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、討議・討論、プレゼンテーション、PBL、創作・制作】【ICT】

到達目標

- (1)造形を通して自己の感性を再認識し、価値観を多様に広げることで、子どものあり方を理解できる。
- (2)造形を通して子どもが育つ環境について感じ、造形活動の様子を構想できる。
- (3)造形を通して望ましい保育・教育のあり方を探る態度を自ら醸成できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 子どもの心理・発達の理解
- 4 保育者の感性
- 1 子どもから学び、子どもとともに育つ姿勢？

内容

造形的行為や行動、造形表現の基礎としての感性や意欲、さらに、さまざまな表現法に関わる技術などは、“もの”との直接体験からの感受習得が望ましい。そこで演習を通して、感性や意欲を高めながら、幅広い価値観が獲得できることを望み、感じて表現（造形）および考えて表現（造形）を連動させておこなう。従って、感じて表現（造形）も継続して履修することを望む。

この授業では“もの=身近な素材”に直接触れて体感し、人間にとって“つくる”ことの意味を問い直しながら経験を深めていく。そのために身支度等の準備は必須である。また、グループワーク、ディスカッション、講義等織り交ぜながら実践的に学びを深めていきます。

| | |
|----|---|
| 1 | オリエンテーション：授業の内容、扱う道具、評価方法、約束事など |
| 2 | 身近にある材料を使った表現：段ボール1【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、討議・討論、PBL、創作・制作】 |
| 3 | 身近にある材料を使った表現：段ボール2【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、討議・討論、PBL、創作・制作】 |
| 4 | 身近にある材料を使った表現：段ボール3【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、討議・討論、PBL、創作・制作】 |
| 5 | 身近にある材料を使った表現：段ボール4【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、討議・討論、プレゼンテーション、PBL、創作・制作】 |
| 6 | つくったもので遊び場づくり【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、プレゼンテーション、PBL、創作・制作】【ICT】 |
| 7 | 前半のまとめ：造形について考えるグループディスカッションとプレゼンテーション【グループワーク、討議・討論、プレゼンテーション、PBL】【ICT】 |
| 8 | 様々な描画材料を使った表現：クレヨン等【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、PBL、創作・制作】 |
| 9 | 様々な描画材料を使った表現：マーカー等【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、PBL、創作・制作】 |
| 10 | 身近にある材料を使った表現：木材等【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、PBL、創作・制作】 |
| 11 | 身近にある材料を使った表現：紙等【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、PBL、創作・制作】 |
| 12 | 身近にある材料を使った表現：自然材等【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、PBL、創作・制作】 |
| 13 | 身近な材料でつくって遊ぶ1【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、討議・討論、プレゼンテーション、PBL、創作・制作】【ICT】 |
| 14 | 身近な材料でつくって遊ぶ2【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、討議・討論、プレゼンテーション、PBL、創作・制作】【ICT】 |
| 15 | まとめ：造形について考える【レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、討議・討論、プレゼンテーション、PBL】【ICT】 |

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】必要に応じて授業で使用する材料・用具・身支度・体調を準備すること。（各授業に対して60分）

【事後学修】教科書等を参考に授業を通して体験したことを専用スケッチブックにまとめ理解を深めること。（各授業に対して60分）？

評価方法および評価の基準

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資

料などをもとに加え、自分自身のポートフォリオを作成する（60点）。また活動への取り組み、学習態度、作品の提出（40点）とし、総合評価60点以上で合格とする。定期試験は実施しない。必要に応じて活動や作品等の提出物について授業内において振り返りを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書

- ・磯部錦司『造形表現・図画工作』建帛社

推薦書

- ・授業内で適宜紹介

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

主体的に創造する楽しさを味わい、子と？もの気持ちや視線をイメージしながら活動しましょう。

実技が中心となるので、作業しやすい服装を心がけてください。

基本的な用具等は、各自で調達・用意をお願いします。

友人との共同の活動や後片付けなど？の環境設定等に気を配りながら活動しましょう。